



たすけあい・支えあい・人と人とのネットワーク

令和3～7年度

第4期鶴見区地域福祉保健計画 鶴見・あいねっと

はじめに

～この冊子を手にとったみなさまへ～

いたるところで行われているお祭り、災害に備えた防災訓練、高齢者等の見守り、ラジオ体操等をはじめとした健康づくりなどのさまざまな取組は、地域住民を中心に、まちをより良くしたい！という想いが形となったかけがえのないものです。鶴見区では、「子どもも大人も、障害のある人も誰もが安心して健やかに暮らせるまちづくり」が行われるよう、すべての地域福祉保健活動を「鶴見・あいねっと」と呼び、計画を進めてきました。

令和元年度末から新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、感染拡大期にあっては誰もが「新しい生活様式」を求められ、私たちの暮らしに大きな影響を及ぼしました。これまでの方法では、続けることが難しくなった地域活動もあります。それでも、危機に直面し、どうすれば大切な居場所を守れるのかそれぞれの場で話し合い、方向性を見い出せたのは大きな成果といえます。

第4期計画では、「人材」「相互理解」「場・機会」の3点を、すべての地域活動に共通する要素とし、“推進の土台”と新たに名づけます。地域の身近な活動に参加する人が1人でも増え、住む人同士がお互いを理解・尊重でき、居場所や交流の機会がさらに充実するよう、“自分で、地域で始められること”を具体的に盛り込みました。 ⇒19 ページ、27 ページ、35 ページへ

未来の鶴見区は、団塊世代が後期高齢者(75歳)に達する2025年問題や、人口減少により1.5人の現役世代で1人の高齢世代を支える2040年問題など、これまで以上に福祉のまちづくりの重要性が高まっています。

これからも、区民のみなさまを始め行政、関係団体・機関など鶴見にかかわるみんなで、鶴見・あいねっとの基本理念「たすけあい・支えあい・人と人のネットワーク」を実現していきましょう！



目次

第4期鶴見区地域福祉保健計画（鶴見・あいねっと）の策定にあたって	2
鶴見区地域福祉保健計画（鶴見・あいねっと）公認マスコットの策定について	3
第1章 鶴見区地域福祉保健計画（鶴見・あいねっと）とは	4
1 鶴見区地域福祉保健計画とは	4
2 市計画との関係	5
3 区計画の経過	5
4 第3期計画の振り返り	6
第2章 区全体計画	8
1 第4期区全体計画の概要	8
2 第4期区全体計画の策定経過	9
第4期鶴見区地域福祉保健計画（鶴見・あいねっと）の方向性	10
推進の柱① つながりのある地域づくり	12
推進の土台 人材（未来の担い手づくり）	18
推進の柱② 必要なときに支援が届く地域づくり	20
推進の土台 相互理解（住民同士の理解や尊重）	26
推進の柱③ 健やかに暮らせる地域づくり	28
推進の土台 場・機会（居場所や機会の充実）	34
第3章 地区別計画	36
第4章 計画を推進するための体制・支援	74
1 鶴見区の地域支援体制	74
2 区社会福祉協議会	75
3 地域ケアプラザ	75
4 関係団体・機関	76
5 第4期計画の評価指標	81
第5章 鶴見区の現状	82
資料編	91
関係機関一覧	91
鶴見・あいねっと推進委員会メンバー紹介	92

第4期鶴見区地域福祉保健計画(鶴見・あいねっと)の策定にあたって

鶴見・あいねっと推進委員会 委員長 杉浦 節子

この度、令和3年度から令和7年度までの5年間を計画期間とする第4期鶴見区地域福祉保健計画(鶴見・あいねっと)を策定いたしました。

第3期計画の5年の間は、少子高齢化・核家族化が進み、地域の支えあいの基盤が弱まっている状況の中でも、地域住民、関係団体・機関でのつながりづくりが着実に広がってきました。新型コロナウイルス感染症の影響により、地域活動が縮小している状況もありますが、このようなときだからこそ、人と人とのつながりの大切さを再確認している方も多いことと思います。

第4期計画においても、「あいねっと」を合言葉に、子どもから高齢者、障害のある方や外国につながる方など、誰もが安心して健やかに暮らせるまちを目指して、一人ひとりが自分のできることから行い、それが輪になって、福祉保健活動が一層発展していくことを願っています。

最後に、計画策定にあたり、多くの皆様からご協力いただきましたことを、心からお礼申し上げます。



鶴見区長 森 健二

鶴見区では、平成17年に第1期計画として鶴見区地域福祉保健計画(鶴見・あいねっと)を策定し、取組を進めてきました。このたび、令和3年度から7年度までを計画期間とする第4期計画を新たに策定しました。

計画の検討にあたり、鶴見・あいねっと推進委員の皆様が熱心に御議論くださいました。また、区民アンケート、意見募集、地区懇談会等を通じて多くの貴重な御意見・御提案をいただきました。心より感謝申し上げます。

令和元年度末から流行した新型コロナウイルスの影響により、本計画も1年遅れての策定となりました。また、新型コロナウイルスの蔓延には、感染症としてだけでなく、人と人とのつながりが薄れるという社会的な影響もあり、鶴見・あいねっとの基本理念「たすけあい・支えあい・人と人とのネットワーク」の実現の重要性は、ますます高まっています。区民の皆様や関係団体・機関、事業所等の皆様とともに計画を推進してまいりたいと考えております。引き続き御支援・御協力をお願いいたします。



社会福祉法人 横浜市鶴見区社会福祉協議会 会長 渡辺 武

「たすけあい・支えあい・人と人とのネットワーク」を基本理念とする“鶴見・あいねっと(鶴見区地域福祉保健計画)”が平成17年度に策定されてから16年(3期)の月日が経過しました。

この間、鶴見区の各地域では“鶴見・あいねっと”の推進を通じて様々な支えあいの活動が広がりました。特に昨今では感染症の拡大など大きな社会環境の変化にも柔軟に対応し、地域の皆さんが工夫しながら着実に取組を進めておられることに改めてお礼を申し上げます。

さて、このたび令和3年度からの5年計画となる第4期“鶴見・あいねっと”を策定しました。本計画の推進により、これまで各地区で育んできた身近な地域での支えあいの取組がさらに充実したものになることを期待するとともに、本会も微力ながら地域福祉の一翼を担う団体として果たすべき役割をしっかりと進めてまいりたいと考えております。

結びになりますが、策定にあたりご尽力いただきました鶴見・あいねっと推進委員の皆様、地域の皆様、関係機関の皆様へ心から感謝いたします。



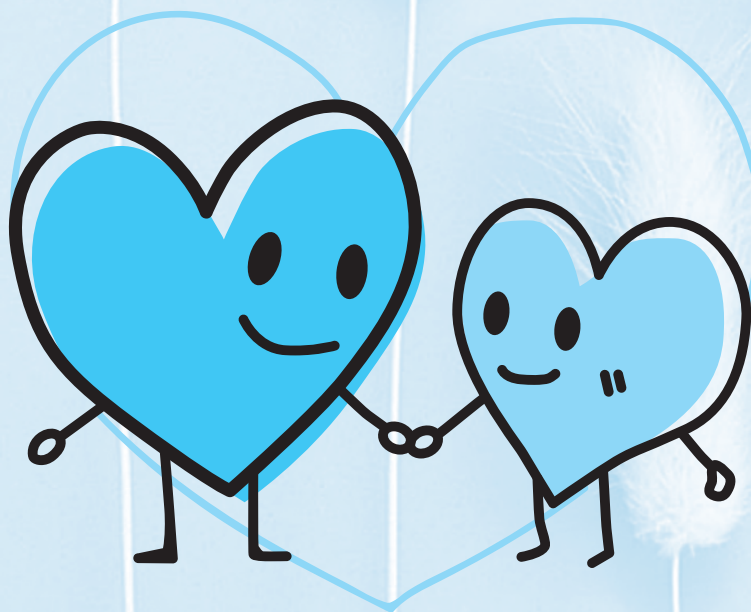
鶴見区地域福祉保健計画(鶴見・あいねっと) 公認マスコットの策定について

平成 17 年度に第 1 期計画を開始した鶴見・あいねっと。PR の際に、たびたび登場してきたロゴをご存じですか？

このたび、第 4 期計画の開始にあたり、公認マスコットとして正式に制定します！

その名も… **あいねっとちゃん** です!!

鶴見区マスコット「ワックン」とともに、まちづくりを盛り上げていきますので、今後ともよろしく願いいたします。



二人合わせて **あいねっとちゃん**

改めて、これから
よろしくね！

一緒に
がんばろうね！



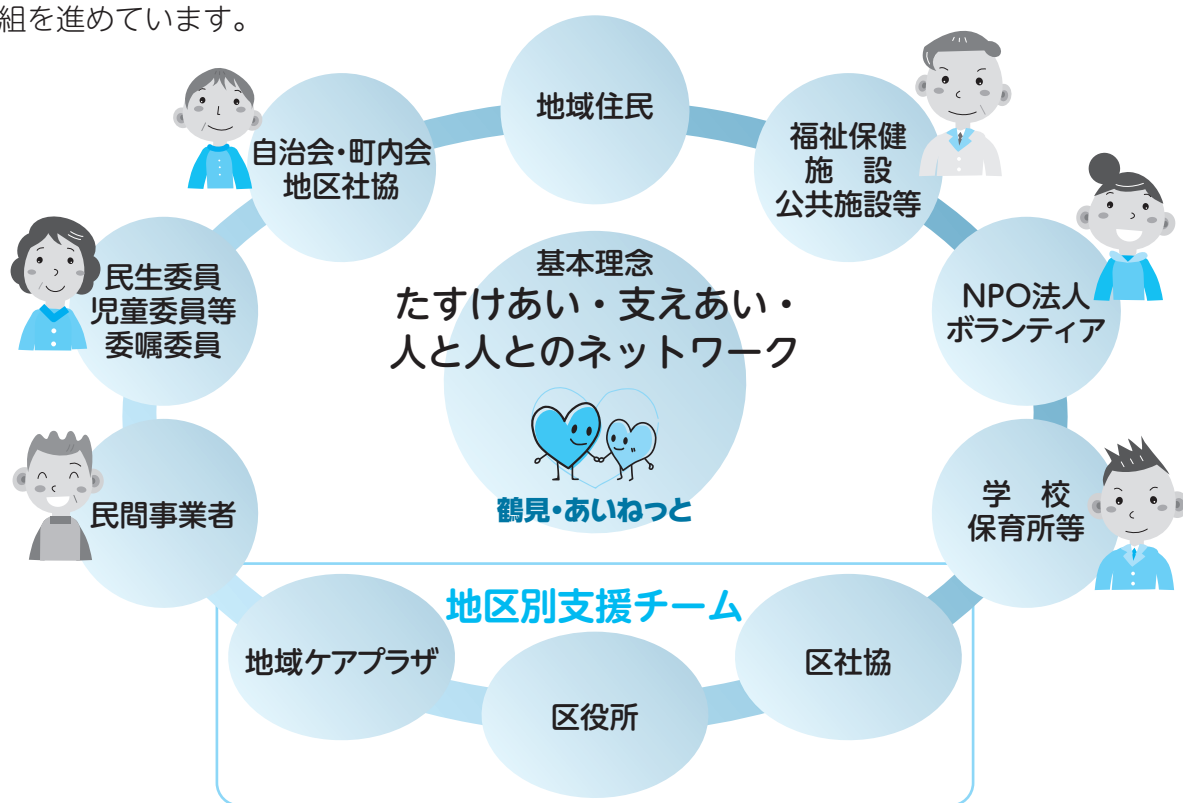
鶴見区マスコット
「ワックン」

鶴見区地域福祉保健計画 (鶴見・あいねっと)とは

1 鶴見区地域福祉保健計画とは

地域福祉保健計画とは、誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせる地域づくりを目指し、住民、事業者、公的機関（行政・社会福祉協議会・地域ケアプラザ等）が福祉保健などの地域の課題解決に協働して取り組み、身近な地域の支えあいの仕組みづくりを進めることを目的とした計画です。

鶴見区では、子どもも大人も、障害のある人も誰もが安心して健やかに暮らせるまちづくりのための活動を「鶴見・あいねっと」と呼び、「たすけあい・支えあい・人と人のネットワーク」を基本理念として、区民の皆様、関係団体・機関、事業所などとともに、平成17年度から取組を進めています。



地域のつながりにおけるコロナ下の影響 ～ 鶴見・あいねっと でできること～

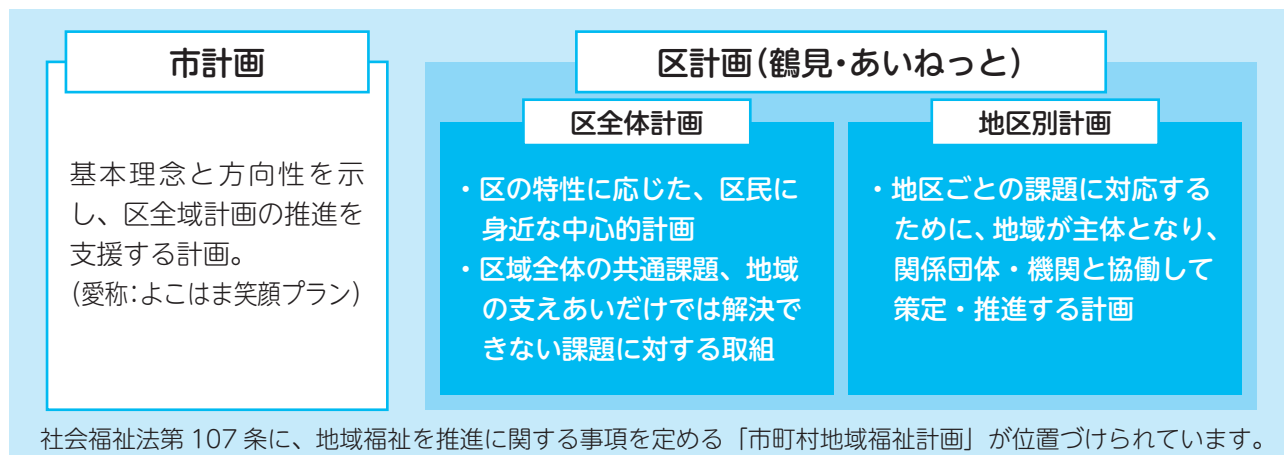
世界的大流行（パンデミック）を起こした新型コロナウイルス感染症は、コミュニケーションのあり方を変えました。対面で会話を楽しみ、一緒に歌い、食事することがリスクとされました。また、外出が減り、生活の不活性による虚弱進行（フレイル）も話題となりました。

しかし、どのような状況にあっても、人と人が関わりあうことの大切さは変わりません。鶴見区内では、“3密”を避けながらの見守り活動や、サロン等地域の居場所の運営団体連絡会による活動再開方法検討など、「感染対策と地域交流の両立」が始まっていきました。

鶴見・あいねっとを進めれば、家族やご近所の人々・友人などの身近なつながり、地域のつながりを深めるきっかけとなります。そして、一緒に活動する仲間が増えることや地域の支えあいのしくみづくりなどの新たな動きにも派生します。さらに、「担い手」「受け手」に分かれるのではなく、お互いに支えあいながら、自分らしく活躍できるまちがつけられていきます。

2 市計画との関係

横浜市地域福祉保健計画は、横浜市全体の基本理念と方向性を示す「市計画」、市内 18 区ごとの特性に応じた「区全体計画」、地区ごとの課題に対応した「地区別計画」で構成されています。



3 区計画の経過

(1) 第 1 期計画の経過 平成 17 年度～平成 21 年度

18 区の中で先行して策定する区の一つとして、平成 17 年 3 月に、区計画及び地区別計画が策定されました。

【基本理念】 地域社会のつながりをつくります

必要な人には確実に支援が届く仕組みをつくります

互いに支えあう相互扶助の地域社会をつくります

(2) 第 2 期計画の経過 平成 22 年度～平成 27 年度

第 1 期計画では、「地域福祉保健計画」と区社会福祉協議会の「地域福祉活動計画」が連動して、地域の福祉保健活動を総合的に下支えすることとしていましたが、第 2 期計画からは、区と区社協が策定プロセスを共有し一体的な計画として策定しました。

【基本理念】 健康で住みやすい福祉のまちに！

【推進の柱】 一つ目の柱 つながりのある地域づくり

二つ目の柱 必要な人に支援が届く仕組みづくり

三つ目の柱 互いに支えあう地域社会づくり

(3) 第 3 期計画の経過 平成 28 年度～令和 2 年度

次ページ「第 3 期計画の振り返り」をご覧ください。

年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3～
地区別計画																		
区計画		「鶴見・あいねっと」第 1 期					「鶴見・あいねっと」第 2 期 *区計画・区社協計画を一体化して策定					「鶴見・あいねっと」第 3 期						
区社協活動計画	2次	第 3 次																
市計画		第 1 期					第 2 期					第 3 期						
市社協活動計画	2次	第 3 次					第 4 次					第 4 期(R元～5)						

4 第3期計画の振り返り

第3期計画（平成28年度～令和2年度）では、基本理念である「たすけあい・支えあい・人と人とのネットワーク」が広がっていくまちの実現を目指して、3つの「推進の柱」を掲げました。その柱に沿って、地域の皆さん、区役所・区社協・地域ケアプラザ等が連携し取組を進めました。

推進の柱1 つながりのある地域づくり

【行動目標】

- ・世代間の交流を進めます
- ・地域の団体・関係機関の連携を深めます
- ・幅広い住民の参加を促し、地域活動の担い手を育てます
- ・地域活動や個人、団体をつなぐコーディネーターを育てます

キーワード

交流

人材

【具体的な取組】

- ・あいさつやお祭り等の地域行事、地域サロン等を通じた地域交流の取組を進めました。
- ・地域ケア会議や事業所連絡会、地域子育て支援ネットワーク等を通じて、地域福祉の関係者の顔の見える関係づくりを進めました。
- ・学校等と連携した認知症サポーター養成講座、生活支援ボランティアの育成等、地域の担い手を増やすための取組を行いました。

推進の柱2 必要な人に支援が届くしくみづくり

【行動目標】

- ・誰もがどこかにつながるような支えあいのネットワークをつくります
- ・見守りの輪を地域全体に広げます
- ・必要な情報をわかりやすく届けます
- ・地域の中で共に暮らすということを意識します

キーワード

支えあい

見守り

情報

互いの理解

【具体的な取組】

- ・見守り・支えあいの輪が広がるよう、配食等の活動を通じた見守り、買い物支援、認知症カフェ等の取組を進めました。
- ・6か国語でのフェイスブックによる情報発信等、よりわかりやすい情報発信の工夫を行いました。
- ・学校等での福祉を学ぶ場づくりや多文化共生に向けた交流の場づくり等に取り組みました。

推進の柱3 健やかに暮らせる地域づくり

【行動目標】

- ・地域での健康づくり活動に取り組みます
- ・意欲と能力を発揮でき、いきいきと暮らせる場や機会をつくります

キーワード

健康

場・機会

【具体的な取組】

- ・自治会町内会圏域でのサロンや元気づくりステーション等、より身近な場所での健康づくりの取組を進めました。
- ・ポッチャ等どなたも参加できるスポーツによる交流、ボランティアを通じた社会参加の支援等、住民それぞれの力を活かせる場や機会づくりに取り組みました。

【次期計画に向けて】

つながりのある地域づくり

- ・引き続き課題となっている担い手不足の解決に向けて、様々な主体が工夫して取り組んでいます。今後も身近な地域活動への参加の働きかけや、将来を見据えた取組など、地域や関係機関が一丸となって考えていく必要があります。
- ・つながりのある地域づくりの更なる充実を目指して、分野(高齢・子ども・障害など)や内容(サロン、イベント、体操など)を超えた交流など、参加者が活動の幅を広げられるきっかけづくりが必要です。
- ・関係者間での課題の共有・検討を踏まえ、より具体的な取組につながるよう連携を深める必要があります。また、地域活動の活性化には、これまで以上に学校や企業、NPO法人など多様な主体が連携し、それぞれの強みを活かして参画することが重要です。

必要な人に 支援が届くしくみづくり

- ・地域での見守りの輪が広がってきています。今後は公的支援の狭間の課題も含め、誰もが必要ときに必要な支援につながるようなしくみづくりを更に進める必要があります。
- ・共生社会の実現につながる相互理解が徐々に進んできています。今後は交流できる機会の広がりや、地域で生活していくために必要な支援をより具体的に考えていくことが必要です。
- ・成年後見制度やエンディングノート(※)の作成啓発など、権利擁護に関する取組が広がってきています。必要ときに活用できるよう、周知・啓発を進めていくことが必要です。

健やかに暮らせる 地域づくり

- ・地域での健康づくりの取組が広がってきています。今後はより身近な場所、継続して通いやすい場所で、健康づくりを継続できる機会の充実が求められています。
- ・鶴見区では、健康関連の統計数値が他区と比較して芳しくない状況が続いています。より一層、住民が進んで健康づくりをしたくなり、続けたくなるしくみづくりを工夫していく必要があります。
- ・地域サロンや親子の居場所、障害児者の集まれる場所等、場づくりの充実がみられます。今後は自治会町内会圏域での身近な場づくり、機会づくりをさらに進めていく必要があります。

数字で見えてみよう！～地域のつながりづくり～

第3期の推進期間には、地域の様々な居場所づくりが広がってきました。

- ・放課後キッズクラブ : すべての小学校(22校)で整備が完了
- ・高齢者の居場所 : 160か所(H28)⇒192か所(H30)
- ・元気づくりステーション : 11か所(H28)⇒21か所(H31)
- ・認知症カフェ : 10か所(H27)⇒19か所(H30)
- ・障害者の日中活動場所 : 25か所(H28)⇒33か所(H31)



多世代交流サロンの様子

今後も、さらにつながりのある地域づくりに向けて、地域や関係機関で連携して取組を進めていきます。

※【エンディングノート】

認知症等で意思疎通ができなくなったときや亡くなったときのために、自身の思いを書き留めておく「覚書」のこと。遺言のような法的効力はない。

1 第4期区全体計画の概要

(1) 基本理念・推進の柱の継承

基本理念は、第1期計画（平成17年度～21年度）では「地域のつながりをつくります」、第2期計画（平成22年度～27年度）では「健康で住みやすい福祉のまちに！」としていました。第4期計画では、多様化・複雑化する区の地域課題を踏まえ、第3期計画（平成28年度～令和2年度）の基本理念・推進の柱を概ね継承し、取組を深めていきます。

(2) 第4期区全体計画の構成



2 第4期区全体計画の策定経過

策定にあたり、学識経験者や自治会・町内会、民生委員・児童委員協議会、関係団体・機関、委嘱員など、地域福祉保健活動の推進に積極的に尽力いただいている委員で構成する鶴見・あいねっと推進委員会にて「策定検討プロジェクト」を開催し、検討を進めました。その結果、第3期計画の基本的な考え方を継承しながら、推進の柱の行動目標等の一部見直しを行い、推進の土台を新たに設定しました。

●推進の土台

第4期計画で、初めて誕生します。すべての地域活動を充実させる共通の要素を推進の柱から抽出し、新たに定義しました。

●推進の柱1 つながりのある地域づくり

区民のつながりが広がり深まるために、世代を超えて（多世代で）交流することが重要との意見がありました。企業、学校、NPO 法人などのさらなる多様な主体が連携して、地域活動に取り組むことを目指します。関係団体・機関の連携が進むと、相互に情報が伝わりやすく、取組の幅を広げることができます。

●推進の柱2 必要なときに支援が届く地域づくり

多様化・複雑化する地域課題への支援に、一層の充実が求められています。

また、すべての区民が、一生涯の中で、絶えず心身や生活状況を変遷させていくことを踏まえ、必要なときに支援が届けられる地域づくりを目指す必要があります。また、自分らしく暮らすための権利を守る（権利擁護）取組を進めます。

●推進の柱3 健やかに暮らせる地域づくり

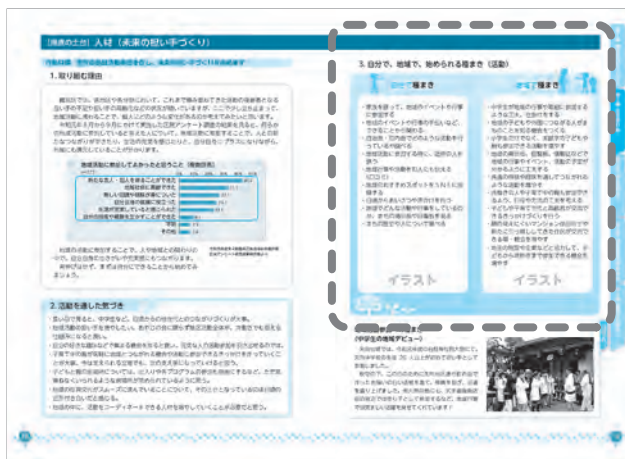
区民がより身近な場所で、地域主体の健康づくり活動に継続参加できることを目指します。日頃から地域の交流を深め、互いに安心・信頼しあい、参加者自らが担い手としてもその活動に携われるよう取組を進めます。また、歯やこころの健康づくりにも着目していきます。

「推進の土台」ページの読み方

「推進の土台」を紹介するページでは、なぜ取り組むのか立ち止まり、既に地域活動に取り組む区民や団体にどんな気づきがあるかを踏まえながら、「自分」や「地域」で今から始められる種まき（活動）を提案し、これから取り組んでみたい方の背中をそっと押す内容となっています。ぜひご覧ください。（18・19、26・27、34・35ページ）



読み方は、あくまで目安です。関心のあるところから、あなたのペースで読み進めましょう！



第4期鶴見区地域福祉保健計画(鶴見・あいねっと)の方向性

第3期計画では、あいねっとの語源である「たすけあい・支えあい・人と人のネットワーク」を基本理念として、新たに健康づくりの視点も加えた3つの推進の柱を定めました。

第4期計画では、これまで積み重ねてきた活動を尊重しながら、すべての地域活動を充実させる共通の要素を新たに「推進の土台」として据えることで、地域の担い手育成、鶴見区ならではの多文化・多世代共生社会の実現に向けた相互理解、場や機会の充実を着実に推進します。

【基本理念】 たすけあい・支えあい・人と人のネットワーク

【推進の柱1】
つながりのある
地域づくり
《キーワード》
交流
多様な主体



【推進の柱2】
必要なときに支援が届く
地域づくり
《キーワード》
支えあい
見守り



【推進の柱3】
健やかに暮らせる
地域づくり
《キーワード》
健康



NEW 【推進の土台】 人材 / 相互理解 / 場・機会

人材 (未来の担い手づくり)

行動目標：区民の地域活動参加を促し、未来の担い手づくりを進めます

- 取組例 ● 地域活動の参加に向けた取り組み (種まき)
● 地域活動の多様化促進 (趣味・特技を活かせる取組)

相互理解 (住民同士の理解や尊重)

行動目標：さまざまな人が共に暮らせるよう相互理解を深めます

- 取組例 ● 多文化共生、他世代への理解、障害・認知症などへの相互理解・啓発

場・機会 (居場所や機会の充実)

行動目標：いきいきと暮らせる機会づくりを、より身近な場所で進めます

- 取組例 ● より身近に集まれる場づくり (自治会・町内会圏域など)
● 参加しやすさや支援的な機能など、場の機能の充実

**【推進の柱1】つながりのある地域づくり**

《キーワード》交流 多様な主体

住民同士であいさつや声かけを行い、地域活動に参加することで世代を超えた交流を充実させ、地域での顔の見える関係づくりをさらに進めます。また、住民や関係機関、さらに企業・学校・NPO法人などが連携して、地域活動に取り組むことで、これまで以上に地域づくりを活性化させます。

行動目標 ①多世代でのかかわりなど、地域の交流を深めます

取組例 ●あいさつや声かけ ●多世代交流の機会づくり

②関係団体・機関が連携し、取組を充実させます

取組例 ●自治会・町内会、近隣施設、専門機関との関係強化

NEW ③多様な主体が参画し、地域活動を活性化します

取組例 ●企業、学校、NPO法人、社会福祉法人、保育所等の参画

●上記のさまざまな主体と地域をつなぐ取組

【推進の柱2】必要なときに支援が届く地域づくり

《キーワード》支えあい 見守り

地域全体での日頃からの見守り・支えあいのしくみづくりを進め、地域の手で、または支援者や関係機関によって、支援が必要なときに必要な場所へつなげられる状態を目指します。

誰でも安心して自分らしく日々を過ごすことが出来るよう、一人ひとりの権利を守る取組を進め、住民の意識醸成を図ります。

行動目標 ①誰もが必要な支援につながるしくみづくりを進めます取組例 ●生活困窮、ひきこもりなどの状況への支援 ●潜在したニーズへの支援
●情報発信の工夫 ●外国につながる人への生活支援

②見守りの輪を地域全体に広げ、支援につなげます

取組例 ●世代を限らず自然と気にかけることができる意識の醸成
●住民が適切なタイミングで支援機関に相談するための支援
(住民の学びの機会づくり、相談しやすい環境づくり)
●災害時に備えた共助の取組**NEW** ③安心して自分らしく日々過ごせるよう、権利擁護を推進します取組例 ●人権擁護への区民意識の醸成
●人権・財産権・自己決定権等を守る取組 ●認知症の理解促進**【推進の柱3】健やかに暮らせる地域づくり**

《キーワード》健康

地域主体で健康づくり活動をこれからも継続して行い、より一層身近な場所で参加することが出来るよう、すそ野を広げていきます。健康づくりに関心を持つ住民が増え、自らすすんで活動を始め、また続けられる環境が整うように、住民の意識醸成や行動の促進を図っていきます。

行動目標 ①地域での健康づくり活動に取り組みます

取組例 ●健康づくりにつながる活動 ●既存の活動における健康づくり要素の付加

NEW ②住民がすすんで健康づくりを始め、続けられる環境を整えます取組例 ●健康づくりへの区民意識の醸成 ●心の健康づくりを進める取組
●特定健診受診率向上のための取組 ●歯の健康づくりを進める取組

【推進の柱1】つながりのある地域づくり

《キーワード》 交流 多様な主体

鶴見区では、日頃からの近所付き合い、行事・イベントを通じた交流、地域サロン等の居場所を通じた関わりあいなど、様々な交流が行われています。高齢化・世帯人員の減少・転入者の増加等の中で、地域のつながりはますます重要となっています。

住民同士の顔の見える関係を構築し、子どもから高齢者まで誰もが暮らしやすい「つながりのある地域」をつくります。また、これまで以上に企業、学校、NPO 法人、社会福祉法人、保育所などの多様な主体が地域へ参画し、元気なまちづくりを進めます。

●行動目標 ① 多世代でのかかわりなど、地域の交流を深めます

日頃からのあいさつや声かけなど、一人ひとりができることを実践しながら、年代、出身地などの垣根を越えて、地域のつながりや交流の輪を広げ、子どもから高齢者まで、誰もが暮らしやすいまちになるよう取り組みます。

【みんなの取組例】

- ・日頃からのあいさつや声かけ
- ・地域サロンや子どもの居場所など、より身近に気軽に参加できる場や機会づくり
例) 子ども食堂、介護者の集い、認知症カフェなど
- ・子どもと高齢者が交流できる場づくり
- ・顔の見えにくいマンション住民同士や新たに引っ越してきた住民との交流のきっかけづくり
- ・多文化交流につながる取組（例：互いの文化を知るイベントの実施など）
- ・防災訓練への若い世代の参加など、防災の取組を切り口にした地域のつながりづくり
- ・子どもが参加する活動や行事を通じた親同士のつながりづくり

コラム

地域での多世代交流の取組を紹介します！

○鶴見みんなの会 ～子どもやパパママ、高齢者までの多世代交流～

鶴見中央地区では、地域住民、介護事業所、薬局、企業、地域ケアプラザ等で協力しながら、多世代交流サロンを定期開催。ポッチャ、子育てイベント、脳トレ、薬局による健康講座などを行い、幅広い世代の交流を行ってきました。令和4年3月現在、コロナ下により休止しておりますが、再開に向けて検討していきます。



鶴見みんなの会の様子

○学んでご飯 ～多世代で見守りながら子どもたちを支援する交流の場～

寺尾第二地区にて、第3期地区別計画の目標「世代を超えて未来へつなごう 地域の輪」を実現している取組が、学んでご飯です。地元の高校生ボランティアが小・中学生の学習を支援し、ヘルスメイト（食生活等改善推進員）の作る夕食を頂きます。子どもの帰宅時は「見守り隊」が見送りをを行い、さらに有志の食料寄付があるなど、地域の力を結集した交流の場となっています。



参加者の小学生と高校生ボランティアで仲良くポーズ

●行動目標 ② 関係団体・機関が連携し、取組を充実させます

住民個々のつながりだけでなく、地域にあるさまざまな団体、行政、関係機関などが、横のつながりを強めて、お互いに補い、また強みを活かしながら、それぞれの活動をさらに充実させていきます。

【みんなの取組例】

- ・福祉機関や医療機関と住民の交流
例) ケアマネジャーと民生委員・児童委員の交流会、地域ケアプラザ協力医との研修会
- ・近隣の福祉施設などと連携した取組を増やす
例) 福祉施設での福祉講座や健康づくり講座の開催
- ・分野が異なる地域の団体の交流会
- ・ICTを活用したつながりづくり
例) SNS、電子メール、ウェブ会議、ホームページ等の活用

●行動目標 ③ 多様な主体が参画し、地域活動を活性化します

鶴見区では、住民や自治会・町内会を始めとした地域の関係団体・機関が協力し、地域活動が活発に行われてきました。

第4期計画では、地元の企業、学校、NPO 法人、社会福祉法人、保育所などこれまで以上にさまざまな主体が地域に参画し、活気のあるまちづくりを行っていきます。

【みんなの取組例】

- ・住民と福祉施設、介護事業所、地元の企業、薬局などが協力した取組
例) 多世代交流サロン、認知症カフェの開催
- ・住民と近隣の公共施設などが連携した、子どもから高齢者までの交流を図る取組
例) 公共施設での多世代交流や健康づくりを切り口にしたイベントの開催
- ・地元の企業、学校などと連携した防災訓練の実施

地元企業との連携による地域防災訓練

江ヶ崎地区では、令和元年度に行った総合防災訓練において、同町内会と協定を結ぶ東京電力(株)の建物内に開設される仮設避難所(約400人収容)を見学しました。

ペット同行訓練や要援護者の搬送訓練には、地元の中学生在がボランティアとして、さらに地元住民35人も救護協力者として参加しました。避難時には、無事の旨を宅外に知らせる『黄色いリボン』も活用され、地域の防災への取組が進んでいます。



お揃いのビブスで災害時の連携を深める地域住民

【推進の柱1】つながりのある地域づくり への主な取組

区役所の取組

◆多世代での交流につながる行事や事業の実施

世代やその地に住む期間にかかわらず住民同士の交流が進むよう、また地域の社会資源（場所や機会や人）につながるきっかけづくりのため、さまざまな人や団体が参加する事業、会議などの実施や支援を行います。

（区民フェスティバル、あいねっと推進フォーラム、つるみ子育て・個育ちフォーラムなど）

◆関係者との連絡会の開催

地域の関係団体・機関、企業などのネットワークをさらに強め、それぞれの取組を充実させていくため、関係者との連絡会を開催します。

（健康づくり推進会議、地域ケア会議、虐待防止・徘徊認知症高齢者地域支援連絡会、自立支援協議会、要保護児童対策地域協議会、地域子育て支援ネットワーク会議、ふらっとるーむ連絡会など）

◆地域支援体制による地域への関わり

各部署での業務や事業、また地域支援体制での担当地区への関わりを通して、地域のつながりがさらに深まるよう支援を行います。

（地区担当による地域支援、地区連合と区役所間での課題共有の実施など）

◆教育機関との連携強化

大学などの教育機関と連携し、学生の発想や能力を活かした地域交流や支えあいを促進する取組を実施します。（包括連携協定を締結した大学との各種事業での連携など）

◆地域活動の担い手の育成

地域活動の担い手の発掘、育成につながる講座や研修を開催したり、普及啓発に取り組めます。（キャラバンメイトによる認知症サポーター養成講座、子育てサポートシステムの運営支援、区民講座「つるみ MACHI 塾」、生涯学習のボランティアバンクの取組「鶴見人ネット」事業、鶴見・まちづくりゼミナールなど）

◆地域活動の支援

地域の様々な課題解決に取り組む活動のきっかけづくりや、地域の団体が連携し、地域活動のさらなる活性化に向けて取り組むことができるよう支援します。

（鶴見区新たなチャレンジ応援補助金事業、補助金交付団体の交流会など）

◆地域の資源を生かした多様な主体によるサービスの展開

自治会・町内会などの地縁組織、ボランティア団体、地元の企業、学校、NPO 法人、社会福祉法人、保育所などの多様な主体が、さまざまな生活支援を行う体制づくりや、住民が担い手となる環境づくりを進めます。

◆地域活動をコーディネートする人材の発掘、育成

地域ケアプラザをはじめとする施設職員と地域支援に向けた協働を行います。また、関係団体・機関と連携しながら、地域の中でさまざまな地域活動をコーディネートする人材が増えるよう取り組めます。（地域活動支援アドバイザーの派遣など）

区社協の取組

◆区社協会員の連携強化

区社協の会員同士が連携し顔の見える関係づくりを行えるよう、分科会を横断した意見交換会や、高齢者・障害者・子どもなど、各分野間での合同研修会を開催していきます。また、既存の種別に加え多様な種別団体の会員加入を促し、多面的な地域福祉の推進を図ります。

◆地区社協のコーディネート機能の強化

地区社協は、身近な地域のつながりや支えあいを築く上で、その調整役として期待されています。地区社協が地域のコーディネート機能を担えるよう、区民に向けた区社協・地区社協の広報強化と、事業を通じた地域でのネットワーク形成を通じて、活動の基盤が整うよう支援していきます。

◆地域活動の担い手育成

電球交換や庭の草むしりなどの具体的な活動から、日々の声掛けなどの緩やかな見守りまで、地域の中で課題を発見し、支援が出来るボランティアの育成・発掘を行います。また、既存のボランティアにも活躍してもらえるよう、他機関との情報共有やコーディネート力強化を行い、「お互い様」という雰囲気の中で助け合える体制ができるように支援します。そのために、日常生活の支援が出来るボランティアの育成・発掘を行います。また、既存のボランティアの活動充実も図っていきます。

◆企業との連携強化

「誰もが住みよいまちづくり」を進めるため、地域と企業の社会的責任活動のマッチングができるよう、企業との関係性を深め、営業力（広告力）や専門的な知識・技術など、企業の強みを新たな事業展開に活かします。従来から築いてきた企業との関わりを基に、地域の情報提供や解決策の提案など、幅広くアプローチを行っていきます。

人とひととのつながりを保つ、地区社協広報紙

コロナ禍で、お祭りや高齢者昼食会など、みんなが集まる行事を中止せざるをえなくなった地域もあります。そんな中、生麦第一地区社協では、地域のつながりを深めていけるよう広報紙に『なまいちじゃん』の愛称をつけて毎月発行しています。町内会役員紹介、高齢者昼食会レシピ、生麦甚句、感染防止策など地域の情報や自宅で楽しめる記事を届けています。「よく見かけるあの方が町の役員なのね」、「記事にあるレシピを作ってみて美味しかったわ」といった感想を頂いています。



(上段) 区社協及び生麦地域ケアプラザの担当職員
(下段) 生麦第一地区社協の広報紙担当の皆様



生麦第一地区社協広報紙「なまいちじゃん」

【推進の柱1】つながりのある地域づくり への主な取組

地域ケアプラザの取組

◆さまざまな世代の交流につながる仕掛けの実施

地域性や住民のその時々ニーズに合った自主事業を行い、さまざまな世代の交流を深めます。地域への愛着や関心が高まる企画を取り入れ、幅広い住民層が交流できるよう工夫します。(例:歴史散策、昔遊びなど) また、関係団体・機関などと協力して、ケアプラザ内だけでなく、地域のより身近な場所での交流の場、機会づくりを行います。

◆地域の福祉保健活動のネットワーク構築

地域との様々な会議、講座、行事などを通して、地域との顔の見える関係づくりを進めます。また、医療や介護などの専門職間の連携を強めて、地域につなげる橋渡し役を担ったり、団体同士の連絡会などを通じて、お互いの活動を理解し連携できるよう支援します。

◆地域の担い手の発掘・育成につながる取組の推進

民生委員・児童委員、地区社協、食生活等改善推進員(ヘルスマイト)、老人会、地域のサロンなど、地域の各種団体と協働しながら、講座や研修会などの取組を行います。(例:認知症サポーター養成講座、キャラバンメイト連絡会、介護予防講座、消費生活被害防止講座など) また、担い手の発掘・育成に向けて、学生、働き盛り世代、子育て世代など、世代に応じたニーズを把握・検討しながら、地域の担い手づくりにつながる取組を企画・実施します。(例:小学生向け認知症サポーター養成講座、ボランティア講座、趣味や特技を切り口にした講座など) さらに、地域の状況を踏まえながら、地域住民による取組へのコーディネートや支援を行っていきます。

◆地域の中で個人や団体をつなぐ人材の育成

ケアプラザ内の各職種間で連携し、各種団体同士の交流や情報共有等の場・機会を通して、地域の中で個人や関係機関、団体のつなぎ役となるような人材を地域と共に育てていきます。

◆多様な主体と連携した取組

地元の企業、学校、NPO 法人、社会福祉法人、保育所などの多様な主体と連携しながら、地域住民と共に地域づくりの取組を行います。

(例:地元商店や障害者事業所と連携した坂のまちの買い物支援、企業や薬局等と連携した多世代交流サロンや認知症カフェの開催など)

コラム

気軽に参加できる子どもの居場所が増えていきます！

「ゆうづる学習会」は、市場地区・市場第二地区の中学生を対象にした学習支援の場所です。教えるボランティアは地域の大人たち。学校や家庭とは違う場で、住民同士の交流を大切に、一緒に学んでいます。

同じく市場地区の「平安・ふれあい食堂」は、令和元年度から開始し地域に定着しており、月に2回、毎回60食程度のカレーライスを提供しています。地域を問わずどなたでも利用でき、コロナ禍でも休止することなく持ち帰り形式で行われました。フードバンクかながわ等からの食材支援を受け、活動を継続できています。



「平安・ふれあい食堂」の様子
(令和元年度)



【コラム】～鶴見・あいねっとリレー～ さまざまな取組を紹介します！

踏み出す勇気を、地域ケアプラザが応援！

東寺尾地域ケアプラザでは、地域の男性向け自主活動グループ“令和会”を支援しています。令和元年度に男性向けの地域デビュー講座に参加したメンバーで構成されており、話し合いで今後の予定を計画しメンバーが行きたいところ、やってみたいことを企画し役割分担をしています。コロナ禍でも、感染予防に努めながらそば打ち体験などを行いました。活動が継続出来るよう取り組んでまいります。



話し合いを行う“令和会”のメンバー

地域の担い手をつなぐ！

「子育てサロン連絡会」

潮田地域ケアプラザでは、地域で親子の居場所を提供する“子育てサロン”同士の連絡会を開催し、情報交換を行っています。連絡会には区役所や鶴見区地域子育て支援拠点（わっくんひろば）にも参加を依頼し、さまざまな子育て関連情報が飛び交います。参加者からは、「他のサロンのことが気になるようになった」「新型コロナが収束せず運営への不安もあったが、皆の話を聞き安心できた（令和2年7月）」との声もありました。それぞれのサロンの特色を保ちつつ、ノウハウを共有できるように連携を進めます。



連絡会の様子

区役所による地域活動への支援

「鶴見・まちづくりゼミナール」は、いつまでも住み続けたいまちをつくるため、地域の課題を自分たちで解決するノウハウや仲間づくりのコツを、講義やグループ活動などを通してしっかり学べる講座です。

また、「鶴見区新たなチャレンジ応援補助金」では、魅力あるまちづくりや住民の交流支援など、区民が自主的に取り組み、地域における課題を解決するための新たなチャレンジを補助します。

いずれも、お問い合わせは区政推進課地域力推進担当まで！



令和3年度補助金交付団体「横濱つるみきもの倶楽部」

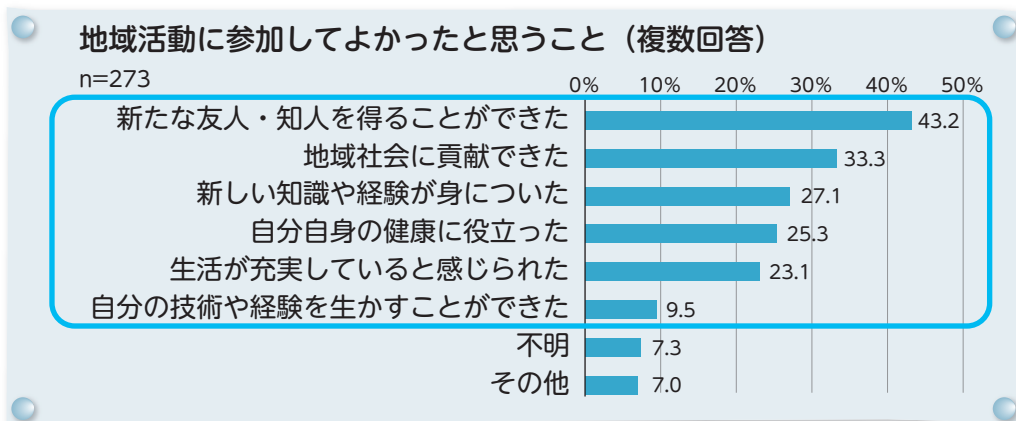
【推進の土台】人材（未来の担い手づくり）

行動目標 区民の地域活動参加を促し、未来の担い手づくりを進めます

1. 取り組む理由

鶴見区では、各地区や各分野において、これまで積み重ねてきた活動の後継者となる担い手の不足や担い手の高齢化などの状況が続いていますが、ここで少し立ち止まって、地域活動に携わることで、個人にどのような変化があるのか考えてみたいと思います。

令和元年8月から9月にかけて実施した区民アンケート調査の結果を見ると、何らかの地域活動に参加していると答えた人について、地域活動に参加することで、人との新たなつながりができたり、生活の充実を感じたりと、自分自身にプラスになりながら、地域にも還元していることが分かります。



地域の活動に参加することで、人や地域との関わりの中で、自分自身の生きがいや充実感にもつながります。

背伸びはせず、まずは自分にできることから始めてみましょう。

令和元年度第4期鶴見区地域福祉保健計画
区民アンケート調査結果報告書より

2. 活動を通じた気づき

- ・長い目で見ると、中学生など、日頃からの他世代とのつながりづくりが大事。
- ・地域活動の担い手を増やしたい。おやじの会に限らず地区活動全体が、共働きでも担える仕組みになると良い。
- ・自分の好きな趣味などで集まる機会を作ると良い。元気な人の活動参加を引き出せるのでは。
- ・子育て中の親が気軽に地域とつながれる機会や活動に参加できるきっかけを作っていくことが大事。今は支えられる立場でも、次の支え手になっていけると思う。
- ・子どもと親の居場所については、出入りや各プログラムの参加も自由にするなど、ただ気兼ねなくいられるような居場所が求められているように思う。
- ・地域の役員交代がスムーズに進んでいることについて、その土台となっているのは日頃の近所付き合いだと感じる。
- ・地域の中に、活動をコーディネートできる人材を増やしていくことが必要だと思う。

3. 自分で、地域で、始められる種まき（活動）



自分で種まき

- ・ 家族を誘って、地域のイベントや行事に参加する
- ・ 地域のイベントや行事の手伝いなど、できることから関わる
- ・ 自治会・町内会でどのような活動を行っているか調べる
- ・ 地域活動に参加する時に、近所の人を誘う
- ・ 地域行事や活動を知人にも伝える（口コミ）
- ・ 地域のおすすめスポットをSNSに投稿する
- ・ 日頃からあいさつや声かけを行う
- ・ 地域でどんな活動や行事をしているのか、まちの掲示板や回覧板を見る
- ・ まちの歴史や人について調べる



地域で種まき



- ・ 中学生が地域の行事や取組に参加するような工夫、仕掛けをする
- ・ 地域の子どもや外国につながる人がまちのことを知る機会をつくる
- ・ 小学生だけでなく、未就学の子どもや親も参加できる活動を増やす
- ・ 地域の掲示板、回覧板、情報誌などで地域の行事やイベント、活動の予定が分かるように工夫する
- ・ 共通の特技や趣味を通してつながれるような活動を増やす
- ・ 共働きの人や子育て中の親も参加できるよう、日程や方法の工夫を考える
- ・ 子どもや子育て世代と高齢者が交流できるきっかけづくりを行う
- ・ 顔の見えにくいマンション住民同士や新たに引っ越ししてきた住民が交流できる場・機会を増やす
- ・ 地元の施設や企業などと協力して、子どもから高齢者まで参加できる機会を増やす



地域活動参加への種まき 〈中学生の地域デビュー〉

矢向地域では、令和元年度の日枝神社例大祭にて、矢向中学校の生徒 20 人以上が初めて担い手として参加しました。

秋空の下、この日のために矢向地区連合町内会で作ったお揃いの白い法被を着て、神輿を担ぎ、沿道を盛り上げました。例大祭の他にも、尻手銀座商店街の夜店では売り子として参加するなど、地域行事で目覚ましい活躍を見せてくれています！



【推進の柱2】 必要なときに支援が届く地域づくり

《キーワード》 支えあい 見守り

高齢化率の増加や核家族化の拡大など、地域を取り巻く状況が刻々と変わり、住民の抱える課題が複雑化・多様化している中、住民同士の支えあい・見守りの取組は着実に広がっています。

引き続き地域での日頃からのネットワークづくりを行い、必要なときに、誰かが気付き、支援につながるようなことができるよう取り組みます。また、誰でも安心して自分らしく日々を過ごすことができるよう、住民が自分ごととして捉えながら、一人ひとりの権利を守る取組を進めます。

● 行動目標 ① 誰もが必要な支援につながるしくみづくりを進めます

住民同士の「顔の見える関係づくり」を行い、住民と関係団体・機関との連携をより深めながら、子どもや子育て世代、ヤングケアラー(※)、高齢者、障害者、外国につながる人、様々な事情により生活の困りごとや課題を抱えている人など、誰もが必要な支援につながるよう取組を進めます。

【みんなの取組例】

- ・ 子ども、子育て世代、介護者、障害者の家族などの孤立を防ぐ取組の充実
例) 子ども食堂、介護者の集い、認知症カフェなど
- ・ ひとり暮らし高齢者への支援
例) ごみ出しや草むしりなどのボランティア、配食や会食会など
- ・ 外国につながる方との共生につながる取組
例) 外国につながる方が参加しやすいイベント等の実施、ごみ置き場に外国語表示を行い配慮をする、「やさしい日本語」を活用した広報など
- ・ 地域の情報を必要な人に届ける工夫
例) 地域情報における掲示板や Web の活用、電子メール・SNS・動画等を活用した非対面でのつながりづくりなど

コラム

心がつながる！配食事業の取組

寺尾地区では、ひとり暮らしの高齢者や障害があるため買い物や調理が困難な方を対象に、見守りを兼ねた配食サービスが行われています。ボランティアの方々が作るお弁当は彩り豊かで季節感、栄養バランスが考えられ、利用者の皆様も楽しみにしています。配達の際に顔を合わせ、何気ない会話やありがとうの言葉が活動の原動力となっています。利用者さんにとっては外出が難しくなっても人とのふれあいがあることで孤立予防に役立っています。



配食のお弁当を作るボランティアのみなさん

※【ヤングケアラー】

一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを日常的に行っている18歳未満の子どもをいう。法令上の定義はない。

●行動目標 ② 見守りの輪を地域全体に広げ、支援につなげます

住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、また災害時などのいざというときに備え、高齢者や障害者、子どもなどを地域全体で見守り、支えあいのネットワークづくりを進めます。住民一人ひとりが、家族、知人、近隣住民などのささいな変化に気付き、必要な支援につながるよう、住民の学びの場・機会づくりにも取り組みます。

【みんなの取組例】

- ・地域でのゆるやかな見守り
例) 居場所、サロン等におけるゆるやかな見守り
- ・災害時要援護者名簿を活用した見守りの体制づくり
- ・地域独自の見守り体制づくりやツールの工夫
- ・小学生の登下校時の見守り活動
- ・住民の学びの場・機会づくり
例) 地区社協の福祉講座や地域ケアプラザの出張講座など
- ・企業と連携した取組

●行動目標 ③ 安心して自分らしく日々を過ごせるよう、権利擁護を推進します

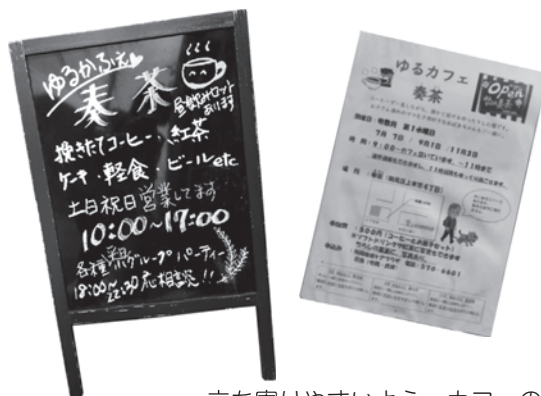
高齢者・障害者・子どもが、詐欺・金銭の搾取・虐待などに遭わず、必要なときに適切な支援を受けながら安心して生活できるよう、一人ひとりの権利を守る取組や、住民が近隣住民などのささいな変化に気付き、関係機関につながる取組を進めます。

【みんなの取組例】

- ・自立支援協議会などを通じた障害者の権利擁護の取組の推進
- ・認知症への理解促進
例) 認知症サポーター養成講座やキャラバンメイト連絡会への参加
- ・住民の学びの場、機会の企画や参加
例) 消費生活推進員と地域ケアプラザ等が連携した消費者被害に関する講座の開催など
- ・各地区での子どもの学習支援等の取組

憩いの場は、見守りの場に。「多世代交流カフェ」

上末吉4丁目に、地域の方が気軽に集まれる憩いの場「ゆるカフェ 奏茶（かちゃ）」があります。奏茶では、駒岡地域ケアプラザと連携して、定期的に多世代交流カフェが行われています。ゆったり過ごしたり、参加者同士でおしゃべりを楽しんだり、ほっとできる居場所になっています。また、奏茶での出会いを通じて少しずつ顔見知りが増えるなど、地域の方をつなぐ場になっており、ゆるやかな見守りにもつながっています。



立ち寄りやすいよう、カフェの店頭に掲示を出します。

区役所の取組

◆障害者支援の推進

障害児・者及びその家族が、地域の中でいきいきと生活できる環境づくりを進めます。(自立支援協議会での取組、障害児関係機関連絡会など)

◆子育て支援の推進

妊娠中から子育て期にかけての切れ目のない支援に取り組み、地域で安心して子育てができる環境づくりを進めます。(両親教室、育児教室、こんにちは赤ちゃん訪問事業、子育てのコツ講座など)

◆放課後児童育成の推進

子どもたちが安全安心な放課後を過ごせるよう環境づくりを進めます。(放課後キッズクラブなど)

◆経済的な困りごとなどへの支援の推進

様々な事情により経済的な困りごとなどを抱えている方に相談、支援を行います。また、必要な方に支援が行き届くため、庁内外の関係団体・機関との連携やネットワークづくりに取り組んでいきます。(生活困窮者自立支援制度、中学生への学習支援「つるみ未来塾」、小中学生への生活支援「つるみ元気塾」など)

◆認知症の理解促進及び見守り体制の構築

認知症への理解がさらに広がり深まるよう啓発活動に取り組みます。地域において認知症の方や家族を見守ったり支援する支えあいのネットワークづくりを進めます。(もの忘れ検診の普及、認知症高齢者等 SOS ネットワークの充実など)

◆災害に備えた共助の取組の支援

災害時要援護者に対する地域での見守り活動をさらに進めていくため、関係団体・機関と連携しながら、取組を支援していきます。(災害時要援護者支援、共助のための防災活動支援事業など)

◆ひとり暮らし高齢者等への見守り活動の充実

民生委員・児童委員や見守り活動をされている地域住民、関係団体・機関と連携しながら、地域での見守り・支えあいの取組の充実を図ります。([「広げよう見守りの輪」推進事業など)

◆民間事業者と連携したゆるやかな見守り体制の構築

生活に密着したサービスを提供する関係事業者が、日常業務の中で異変を発見した場合に関係機関に通報するなど、民間事業者と連携した孤立化・孤独死防止のためのゆるやかな見守りを行います。(横浜市孤立予防対策事業など)

◆区民にわかりやすい情報の発信

誰もが生活に必要な情報を得ることができるよう、多様な手段を通じて、わかりやすく各種情報の提供を行います。(障害特性に応じた情報発信、つるみ区子育て応援ガイドブック、多言語版での発行物の作成など)

◆鶴見区地域福祉保健計画(鶴見・あいねっと)の周知

機会を捉えて多くの区民に地域福祉保健の取組をさらに周知します。(各地区の各種会議、行事での PR など)

◆医療と介護の連携強化

誰もが住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられるよう医療と介護の連携強化等を進めます。(在宅医療連携拠点の活用、地域包括ケアシステムと連携した取組など)

◆高齢者や障害者の権利擁護への理解促進

高齢者や障害者(知的障害、身体障害、精神障害など)の権利擁護に取り組み、区民が各制度を正しく理解できるよう推進します。また、住民が自分ごととして捉え、元気なうちから考える機会を増やし、自己決定できるよう取り組みます。(成年後見制度、鶴見区版エンディングノート「わになるノート」など)

◆障害への理解促進

障害者と住民が交流する場や障害者の活動などについて知る機会をつくり、住民の障害に対する理解を深めます。(障害福祉施設等による自主製品販売支援、障害者週間行事など)

◆多文化共生への理解促進

住民、関係団体・機関などの多文化共生への理解を深めるための取組を進めます。(区民向け啓発イベント、鶴見国際交流ラウンジでの外国人区民と日本人区民の交流など)

区社協の取組**◆見守り活動の充実**

自治会・町内会や班単位などでの小規模な見守り活動について、地域の方々と一緒に考え、その必要性を共有します。より幅広い世代の参加と、取組が増加してきている災害時要援護者見守りのしゅくみを活かせるよう支援し、いつでも支援につながるこのできる、より安心なまちづくりにつなげます。

◆相談体制の強化

区役所・地域包括支援センター等と連携し、いつでも気軽に相談できる窓口の一つとして、相談者へ(必要な方へ)必要な支援が届くようにしていきます。また、地区担当制を活かしながら、ボランティア相談、権利擁護相談(あんしんセンター)など各種相談事業について区社協内で連携し、職員のスキル向上を図ります。

◆「共に生活する」ことへの意識づくり

障害のある方や外国につながる方に対する理解を深めるために、啓発イベントへのボランティア募集の他、啓発講座、権利擁護周知、福祉教育などを通して広く区民に発信します。また、地域の方々の自発的な食支援の取組を通じて、生活に困窮している方への支援の啓発を行います。

あんしんセンターについて

鶴見区社協のあんしんセンターでは、ご自分で金銭や大切な書類を管理することに不安のある高齢者や障害のある方に対し、福祉サービスの利用や金銭管理などのお手伝いをしています。

支援により、必要なものの購入ができた方やお金を貯めることができた方もいます。



あんしんセンターでの相談対応

【推進の柱2】必要なときに支援が届く地域づくりへの主な取組

地域ケアプラザの取組

◆日頃からの関係づくりによる支えあいの推進

地域と顔の見える関係づくりを行いながら、自治会・町内会、民生委員・児童委員、各種団体等との情報共有を行い、気になる方がいたらケアプラザに情報提供いただき、具体的な支援につなげられるようにします。また、元気なうちからケアプラザとつながりを持ち、必要なとき速やかに支援につなげることができるよう、地域活動に積極的に関わっていきます。

◆より身近な地域でのネットワークの充実

地域のさまざまな見守り活動者との連携を広げながら、地域のニーズを把握し、子どもから高齢者まで、より身近な場所でのネットワークづくりが進むよう支援します。

◆地域や関係団体・機関と連携したわかりやすい形での情報発信

地域や関係団体・機関との相互の協力体制をつくりながら、広報紙の発行、ホームページへの掲載、出前講座等を通じて、地域に必要な情報を発信します。

◆互いが自然と気にかけることのできる意識の醸成

見守る、見守られる関係でなく、住民相互が気かけられる意識の醸成を進めます。また、ケアプラザも地域の一員として、積極的に地域活動に協力し、ともに地域を盛り上げていきます。

◆高齢者等の生活や権利、財産を守る取組の推進

関係機関と連携しながら、高齢者等の虐待の未然防止や早期発見につながるよう取り組みます。また、高齢者等が安心して生活できるための関連制度の正しい理解を促進します。(例：鶴見区版エンディングノート「わになるノート」書き方講座、消費者被害等についての講座、関係機関との成年後見制度や虐待防止に関する研修など)

◆高齢者、障害者等に対する理解や交流の促進

認知症や障害者等について、正しく理解する取組や交流する機会をつくります。(例：障害理解講座、出張販売での交流など)

コラム

わになるノート (鶴見区版エンディングノート)

鶴見中央地域ケアプラザでは、毎年、鶴見中央地区と豊岡地区の消費生活推進員の方と協力して、わになるノート（鶴見区版エンディングノート）講座を実施しています。写真は豊岡地区の消費生活推進員の方が紙芝居を読み、詐欺被害防止の普及啓発を実施しています。

講座を通して、終活準備に必要な知識や消費生活被害防止の知識が地域に広がっています。

「わになるノート」



消費生活推進員による普及啓発の様子

【コラム】～鶴見・あいねっとリレー～ さまざまな取組を紹介します！

横浜市寄り添い型学習支援事業 (つるみ未来塾)

鶴見区では、生活困窮状態にあるなど、支援を必要とする家庭に育つ中学生に対し、高等学校等への進学に向けた個別学習の場を提供しています。将来の進路選択の幅を広げ、自立した生活が送れるようにすることが目的です。主に大学生の学習支援アシスタントが、個別に丁寧に学習支援を行っています。

また、高校生世代に対する居場所の提供、高等学校等の中退防止の取組（つるみプラス）も行っています。



障害児・者とその家族が地域で いきいきと生活できる環境づくり

鶴見区では、障害児・者が自分らしく地域で暮らしていけるよう、地域全体で連携し支援することを目的とした地域自立支援協議会を設置して、活動を続けています。

地域自立支援協議会では、定期的な会議のほか、「相談部会」、「権利擁護部会」、「精神保健福祉部会」を設置し、事例検討や研修を行い、より具体的な課題について検討しています。



地域自立支援協議会の様子

さまざまな文化を知る取組が進んでいます

鶴見中央地域ケアプラザでは、鶴見区に暮らし外国につながる住民にご協力いただき、平成 25 年度から、語学をきっかけに多文化を知る講座「あらま～韓国」を実施してきました。毎月、ハングルの勉強と合わせて文化の紹介を行い、参加者のつながりも強くなり、参加者同士で韓国ツアーに行くまでになりました。施設の講座としては区切りをつけ、8年目の令和2年度には何度も話し合いを重ね、「いきいきライフ」と名前を変え自主的に活動を続けています。



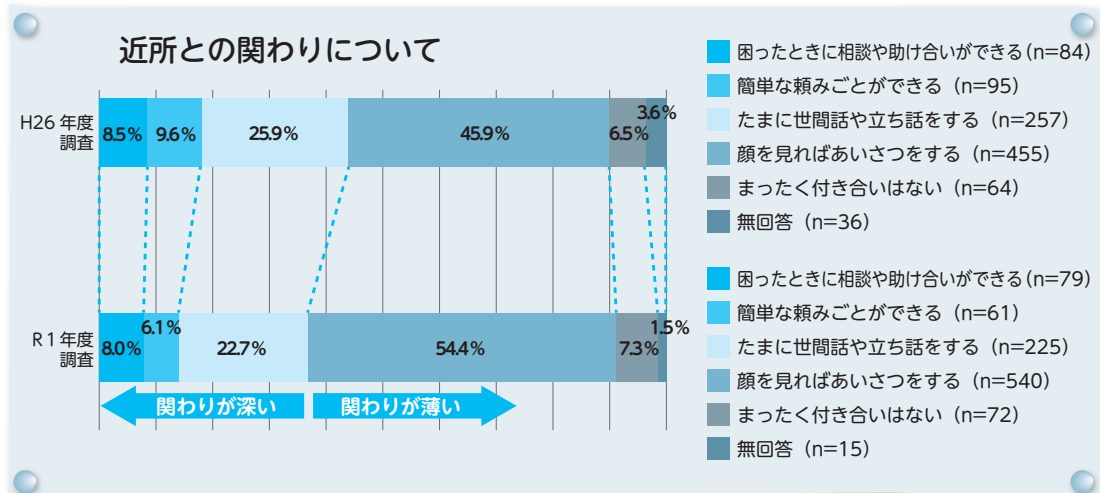
参加者で仲良く記念写真！

【推進の土台】相互理解（住民同士の理解や尊重）

行動目標 さまざまな人が共に暮らせるよう、相互理解を深めます

1. 取り組む理由

高齢化、核家族化などさまざまな背景から、地域の支えあいにより重要となっています。



令和元年度第4期鶴見区地域福祉保健計画
区民アンケート調査結果報告書より

このような状況だからこそ、住民同士が互いのことを知り、理解し、認め合うことが大事になります。また、「自分も人の助けを必要とするときがあるかもしれない」と、自分ごととして考えることも大切です。

相互理解を実践することは難しく感じるかもしれませんが、例えば、近所に「少し心配だなあ。」と思う人がいたら、あいさつや話をしてお互いにどんな人か知り、日頃の生活の中で少し気にかけてみるだけでも良いのではないのでしょうか。

“それっきり”でなく、ゆるやかな関わりの中で気にかけて“つづげ”、少しずつその人のことや置かれている状況を理解していくことが重要です。一人ひとりが自分のできることを実践しながら、相互理解の輪を広げていきましょう。

2. 活動を通じた気づき

- ・ 自助、共助、公助だけでなく、^{きんじょ}近助の考え方が大切。いざというときは、助けてくれる人も多いと思う。
- ・ 孤独死の予防は、普段からの関わりが大事。誰でも気軽に集まってしゃべれるような居場所も大事だと思う。
- ・ 外国につながる人に、多言語版のゴミの捨て方チラシを渡したら、感謝された。相手に届くかたちでの情報提供が必要。
- ・ 子どもと親の居場所づくりも大事。居場所を通じて子どもをより理解し、認めてあげることが大事。
- ・ 地域の見守り活動や取組のおかげで、身近な住民を気にかけるようになり、以前よりも早い段階で地域ケアプラザに相談が寄せられるようになってきているように思う。

3. 自分で、地域で、始められる種まき（活動）



自分で種まき

- ・ いざというときに備えて、隣近所の人と顔見知りになる
- ・ 地域の清掃活動に参加する
- ・ フードドライブ(下記コラム参照)など自分にできることを行う
- ・ 回覧板や掲示板などを見て、地域でどのような人がどのような活動を行っているか調べる
- ・ 地域で子ども食堂を行っているか調べる
- ・ 地震や大雨のときに、気になる家族や知人にメールなどで連絡する
- ・ 近所の人に笑顔であいさつプラスひとことを実践する
（「寒くなってきましたね」など）
- ・ 近所に「心配だなあ。」「大丈夫かなあ。」と思う人がいたら、日頃から少しだけ気にかけて生活する
- ・ 身の回りのことで困ったとき、どこに相談すればいいか調べる
- ・ 外国語や手話を勉強する



地域で種まき



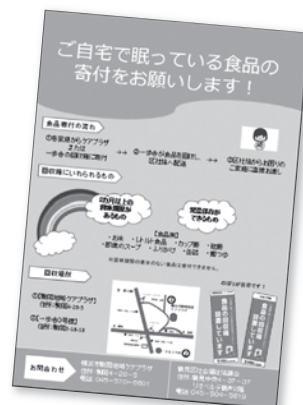
- ・ 防災訓練に中学生など若い世代の参加を促す
- ・ 小学生の登下校の見守り活動の輪を広げる
- ・ 自治会・町内会やマンション管理組合でAED講習会を開催する
- ・ 地域サロンなど地域の居場所の情報を分かりやすく発信する
- ・ 消費者被害に関する勉強会や注意喚起を、さまざまな機会に行う
- ・ 災害についての情報を地域で共有するしくみづくりを行う
- ・ 外国につながる人も一緒に楽しめるイベントや行事を開催する
- ・ 障害や認知症について学ぶ機会を増やしたり、模擬体験会を開催する
- ・ 認知症カフェなど、介護が必要な方とその家族が、気兼ねなく過ごせる地域の居場所を増やす



食品回収のモデル事業が始まりました

令和3年12月から、駒岡地域ケアプラザのエリアにて、地域住民と地域ケアプラザ・障害者施設・区社協が協働して行う食品回収のモデル事業が始まりました。

食品回収箱を、駒岡地域ケアプラザ及び駒岡地区にある就労継続支援B型事業所の一步舎3号館に設置。住民から寄付された食品の回収・仕分けを一步舎3号館で行い、区社協へ配送しています。これらの食品は、生活にお困りの方の食料支援に活用しています。



食品回収のモデル事業で使用したチラシ

【推進の柱3】 健やかに暮らせる地域づくり

《キーワード》 健康

鶴見区の健康づくりは、徐々に広がりがみられています。今後もより身近な場所で参加でき、活動を続けやすい地域となるよう取組を推進します。また、主体的に健康づくりに取り組む住民が増えることで、より一層安心して住みやすいまちとなることを目指します。

● 行動目標 ① 地域での健康づくり活動に取り組みます

健康づくりは一人でもできますが、興味や関心が同じ人達とつながることも大切です。近所で気軽に、仲間と楽しみながら健やかな身体づくりにつながる、継続的な活動のしくみづくりに取り組みます。

【みんなの取組例】

- ・ 各種団体の活動や地域行事そのものが、健康づくりにつながる取組の情報共有
- ・ 身近な健康課題とその予防対策の推進
介護予防の推進（フレイル(※)予防、元気づくりステーション支援）
認知症予防の推進（認知症カフェ、認知症サポーター養成講座、予防活動への支援）
必要な区民に情報を届けるための地域と連携した取組
- ・ 学校と連携して、子どもの健康づくりにつなげる取組
- ・ 保健活動推進員等による、幅広い世代に対する、ウォーキングの推進
- ・ 子育て世代とその子どもへの食育推進（健診や講座・イベント等の機会を捉えた取組、ヘルスマイト等との協働）

コラム

GO GO 健康！「元気づくりステーション」

鶴見区では、主体的・継続的に介護予防活動に取り組むグループ「元気づくりステーション」の支援を行っています。潮田東部地区では、身近な公園4か所でそれぞれ活動を進めており、参加者本人、そして仲間や地域が元気になることを目指しています。

〈汐入ハッピーステーション：汐入公園〉

体力測定会も実施しています

〈スマイル日東浜：日東浜公園〉

ハマトレなど新しい体操を取り入れています

〈寛政公園生き生き広場：寛政公園〉

少人数で和気あいあいとラダー運動を楽しんでいます

〈エンジョイ東潮田：東潮田公園〉

ソーラン節に続くオリジナル体操「きよしのズンドコ節」ができました



みんなできいきき！

※【フレイル】

加齢に伴い、心身の活力・認知機能・筋力・社会との繋がり等が低下し、介護が必要となる手前の状態のこと。

●行動目標 ② 住民がすすんで健康づくりを始め、続けられる環境を整えます

地域で行われる活動に継続参加し、個々の心身の健康が保たれると、まち全体の健康づくりにもつながります。活動に積極的である人ほど、自身を健康と感じる割合が高くなり、好循環が生まれることが分かっています。

楽しみながら運動・レクリエーションが出来る場が身近（徒歩圏内）にあること、また、その運営のお手伝いをする担い手がいること、活動参加を促すための情報発信の工夫など、様々な整備が重要です。地域のイベントなどのあらゆる場面を捉え、生きがいや健康づくりへの意識の醸成につなげられるまちづくりを目指します。

【みんなの取組例】

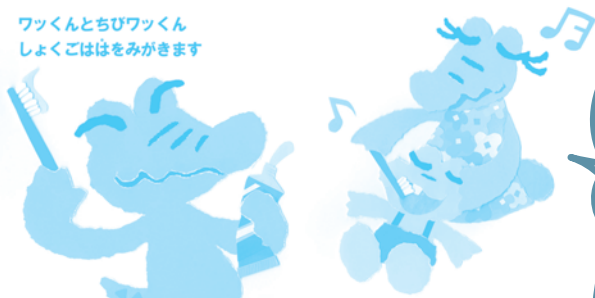
- ・既存の活動を認め合う機会や発表の場づくり(あいねっと推進フォーラム、社会福祉功労者表彰他)
- ・健康づくりに関心を持つ住民が増えるよう、既存の活動が広がるための他の活動や団体、個人へのつなぎ
- ・子どもと高齢者が交流する居場所づくり
- ・関係団体・機関が連携して健康情報を発信し、区民の健康意識醸成や疾病予防を推進する取組
 - 歯周病及びオーラルフレイルの予防啓発のための区内医療機関等との連携
 - イベントや保健活動推進員による口コミなどによる、特定健診等受診率向上と健診結果の活用
 - 区役所と地域(歯科医師会、大学、保育園、学校等)が連携した、区民の正しい歯磨き習慣の定着
 - 心の健康づくり(メンタルヘルス)の理解促進

歯と口の健康啓発「ワックン歯みがき絵本」

鶴見大学、鶴見区歯科医師会及び区役所が連携し、子どもも大人も楽しみながら歯みがき習慣が身につく絵本「ワックンのはみがきするよ」が完成しました。絵本の中では、歯とお口の健口習慣について紹介しています。絵本は、区内歯科診療所(歯科医師会会員)、鶴見図書館、地域子育て支援拠点(わっくんひろば)、地域ケアプラザ、保育所、幼稚園等にて閲覧用に配架しています。

症状がないときでも、お近くの歯科医院で年に2回は定期的なチェックを受けましょう！

ワックンとちびワックン
しよくごはをみがきます



絵本は、QRコードや
区役所のホームページ
から見られるよ！

ワックンのはみがきするよ!!



〈ワックン歯みがき絵本〉

【推進の柱3】 健やかに暮らせる地域づくり への主な取組

区役所の取組

◆健康づくりの推進

- ・保健活動推進員やヘルスマイト等とも協働し、運動の機会づくりや食育啓発、特定健診・がん検診の普及など、生活習慣病予防につながる取組を推進します。(健康チェック事業、食育事業、ウォーキング普及啓発、よこはまウォーキングポイント事業、健康づくり推進会議など)
- ・関係団体・機関(区歯科医師会、区薬剤師会、大学、保育所、学校等)と連携し、歯周病やオーラルフレイル(※)の予防啓発、正しい歯磨き習慣の定着などの「歯の健康づくり」を進めます。(歯と口の健康啓発など)※口腔機能の軽微な低下や食の偏りなどを含む
- ・区健康統計情報を体系的に分析し関係団体・機関と共有するとともに、区民に還元し、実際の地域の声も活かしながら主体的な活動につなげます。
- ・学校等と連携し、他者への思いやりや自分を大切にすることを育む取組を進めます。(命の授業など)
- ・うつや自殺への対策など、メンタルヘルスの重要性及びリスクについて区民の理解を深めます。(精神保健福祉対策事業、ゲートキーパー(※)啓発など)

◆介護予防の推進

元気で活動的な生活を継続できるよう、地域の特性を活かしながら、高齢者が介護予防(フレイル予防)に取り組める事業を展開します。住民主体による情報発信力の強化啓発や、活動運営を担うリーダーの育成を進めます。〔「ひざひざワックン体操」等の推進、介護予防週間啓発、介護予防事業・介護者のつどいの実施など〕

◆地域社会で活躍・貢献できる機会づくり

区民が地域活動等で新たな担い手として活躍する場を広げるため、これから活動を始めようとしている方の背中を押す情報提供の実施や、活動者同士の交流の機会づくりなどを進めます。(補助金交付団体の交流会、つるみ区民活動センターの活用など)

◆支えあいの場づくり

- ・高齢者がより身近な場で介護予防に取り組み、住民主体で行っている「元気づくりステーション」等を引き続き拡充し、運営支援を進めます。
- ・安心して子育てできる環境づくりに向け、家庭や地域の育児力を向上する多様な場・機会を提供します。(親子の居場所「ふらっとるーむ」、地域子育て支援拠点「わっくんひろば」、放課後キッズクラブなど)

◆施設の整備及び機能の充実

施設の整備による場の拡充を進めるとともに、施設のもつ機能をより高めます。(保育所等の整備、地区センター・コミュニティハウス・地域ケアプラザ(地域包括支援センター)など地域の拠点の機能の充実)

※【ゲートキーパー】

心理、社会的問題や生活上の問題、健康上の問題を抱えている人等が自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応(悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る)を図ることができる人のこと。特別な資格等はない。

区社協の取組

◆地区社協の幅広い活動支援体制の確立

ウォーキングや体操教室のみならず、居場所づくり、生きがいつくり活動など、より幅広い「健康づくり」の具体例を挙げることで、地域住民が集える場づくりが充実し、住民がすすんで活動を始め、続けられるよう地区社協を支援します。そのことが、より多様な課題解決を目指す取組の創出を促します。

◆ボランティアセンター機能の強化

初めての方でも不安なく活動に取り組みやすいよう丁寧なコーディネートを行います。また、活動者自身の趣味や特技を活かせるもの、地域へ出るステップにつながるもの等、様々なボランティア活動を紹介できるよう工夫します。

◆区社協だから出来る情報発信方法の確立

地区社協や地域ケアプラザなど、区内の各地域で行われている健康活動を取りまとめ、区社協のホームページや広報紙（鶴見区社協だより、つるボラ情報）などの媒体や会議体を活用して発信できるよう工夫します。

地域ケアプラザの取組

◆健康づくりの機会を増やす取組の実施

- ・ポッチャや体操など、子どもから高齢者、障害者まで幅広い区民が運動できる機会を提供します。
- ・健康増進を意識した高齢者向け、現役世代向け、親子で参加できるものなど、様々な参加者に向けて、運動レベルに合った健康づくり事業を展開します。また、広報誌等を通じて、健康づくりに関する情報を発信します。
- ・健康講座・地域サロン・食事会・体力測定・体操教室・ウォーキングなどの体験型活動を通じて、健康についての意識づけを行い、介護予防を進めます。

◆健康づくりの機会を増やす環境づくり

- ・よこはまウォーキングポイント事業のカードリーダー設置を継続し、啓発と共に協力します。
- ・健康づくり事業の企画の際の工夫（実施時間帯や曜日、申し込み方法など）を通じて、より多くの人に参加できる場づくりを進めます。

◆住民の個性を活かせる場・機会づくり

- ・地域ケアプラザ内に限らず、地域住民が通いやすく、個性が生かせる自分の居場所を得られるよう、サロンやサークルなどの場・機会づくりを進め、支援します。
- ・活動の状況など、地域の情報を把握し、住民一人ひとりが活躍できる場・機会づくりを行います。（例：定年退職を迎えた住民の地域デビュー講座、障害児余暇事業など）
- ・資料や住民など、地域の歴史に関する資源を活用した取組を企画し、高齢者の経験や知識を若い世代に知ってもらい、受け継ぐ取組を進めます。

地域ぐるみで！

「夕暮れラジオ体操&簡単ストレッチ」

生麦地域ケアプラザでは、夕方の時間を使って健康づくり事業を開催しています。コロナ下を機に、地域住民が外に出て体を動かす健康づくりの場が必要と考えたことがきっかけです。

参加者からは、「自宅に閉じこもりがちだったので良かった」「一人では運動する機会がつかれなかったのでうれしい」という感想がありました。



青空の元、みんなで体操に取り組みます

オーラルフレイル予防について

「噛めないものが増えた」など、加齢に伴う歯や口の働きの衰えをオーラルフレイルといいます。オーラルフレイルが進むと、必要な栄養素が不足して筋力の低下を招き、介護が必要となる場合があります。令和3年度は、満70歳の区内高齢者に、オーラルフレイル予防に関する情報と横浜市歯周病検診（無料）の受診勧奨について個別通知を行い、鶴見区歯科医師会との協働により歯科検診時にオーラルフレイル予防に関する個別指導を実施しました。

歯科受診勧奨のお知らせ



楽しみながら健康づくり！

身近な地域でウォーキング・ランニングを

鶴見区では、健康づくりに取り組むきっかけとなるよう、まちな見どころの情報発信や「歩きたくなる事業」を行っています。

- ・つるみ見どころ90マップ …区民からの公募で区内の見所を紹介
- ・ことりっぷ横浜鶴見 …人気ガイドブックとコラボし、見所を紹介
- ・お散歩マップ …ワックン鶴見カルタで紹介されたスポットを紹介
- ・横浜旧東海道みち散歩 …旧東海道の史跡・名所を紹介
- ・おきなわタウン鶴見 …沖縄タウン鶴見を紹介
- ・よこはまウォーキングポイント事業 …18歳以上の横浜市在住・在勤・在学者が対象。歩数でポイントが付与され、プレゼントがあります！



区役所のホームページを見てね！



保健活動推進員によるウォーキングの取組

保健活動推進員は、地域の健康づくり活動のひとつとしてウォーキングを推進しています。ウォーキングは道具や会場を必要としない、誰もが気軽に取り組むことのできる運動です。参加者からは「コロナ禍で運動不足になっていたのが、良いきっかけになった。」「歩きながら会話することで色々な情報交換ができた。」との声もありました。その他、健康チェックやひざひざワックン体操などの事業にも積極的に取り組んでいます。



保健活動推進員によるウォーキング活動

コロナ禍に学び、生活習慣の見直しを！

鶴見区は、血圧や中性脂肪などの特定健診有所見者割合が高く、生活習慣病予防への取り組みが極めて重要となっています。そのため、区役所の事業のみならず、地域住民一体となった普及啓発活動が大切です。コロナ禍に学び、健診を積極的に受け自身の健康状態を正確に把握し、健康相談や地域の各種活動等を活用しながら、生涯に渡って健康の保持増進に努めていきましょう。



鶴見区役所での健康相談事業

区内中学校での思春期研修

区役所子ども家庭支援課では、平成28年度から区内の中学校で、保健師・助産師による出張思春期研修を行っています。命の大切さや自分を大切にすること、妊娠・出産、性感染症等について伝えています。

参加した生徒からは「相談することが大切」「自分の行動に責任を持つ」「自分を大切にすることは相手を大切にすること」などの意見があり、これからも子ども達が正しい情報を知る機会を増やしていきたいと思えます。



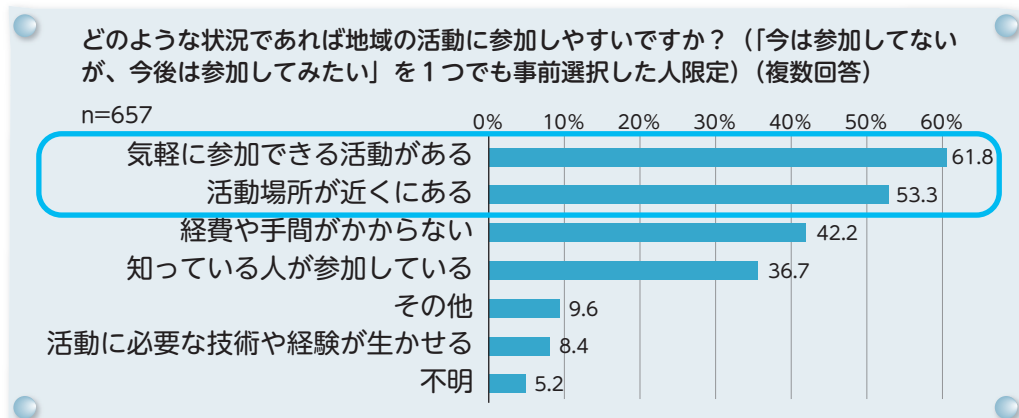
研修資料の一コマ

【推進の土台】場・機会（居場所や機会の充実）

行動目標 いきいきと暮らせる機会づくりを、より身近な場所で進めます

1. 取り組む理由

活動や居場所がどのようなものなら参加してみたいかなのか、区民の声を聞いてみると…



令和元年度第4期鶴見区地域福祉保健計画
区民アンケート調査結果報告書より

「気軽さ」や「場所の近さ」が大きなポイントであることが分かります。今後はより身近な通いやしやすい場所で、より気軽に続けられる、場・機会の充実が求められています。

例えば、参加申し込み方法の工夫や“お試し参加”など、参加しやすいしくみづくりも進めるなど、交流の場を育てて、お互いの信頼が得られるまちを目指しましょう。

2. 活動を通じた気づき

- ・町内会単位でカラオケの集まり、体操教室、太極拳などが行われ、交流の機会になっている。
- ・一人では参加しづらいが、誰かに誘われると参加しやすい。
- ・（認知症カフェなどの）お茶飲み場があれば、情報を得ることができ、かつ楽しくおしゃべりもできる。
- ・地域の医師など専門家を巻き込んで、薬のことなどを相談できる「地域の保健室」のような場所があると良い。
- ・移動販売などの買い物支援は、買い物ができるようになっただけでなく、会話をする居場所になっている。
- ・親子の居場所については、出入りや各プログラムの参加者をより自由にするなど、気兼ねなくいられる工夫が求められているように思う。
- ・ある保育関連施設では、働くスタッフについて、利用者だった親の就職が増えている。現利用者もいつか地域に貢献したいという思いを持ってくれており、良い循環ができています。
- ・朝のラジオ体操を行っているが、高齢者が多く、50～60歳代の方にも参加してもらいたい。その参加者が、他の地域活動にも参加するようになると良いと思う。
- ・ウォーキングなどの健康づくり活動は、安否確認や他世代交流の場にもなるので、広げていきたい。
- ・（保健活動推進員の）研修会に参加し、担い手としてスキルアップしたい。

3. 自分で、地域で、始められる種まき（活動）



自分で種まき

- ・ 家族や友人との地元での過ごし方を大切に
- ・ 自分や家族のペースで、学校・地域のイベント等に参加する
- ・ 近所を歩いて、「新しい発見」を探す
- ・ 地区センターやコミュニティハウス、地域ケアプラザに立ち寄ってイベント等をチェックし、参加する
- ・ ご近所同士で日頃からあいさつし、顔見知りの人を増やす
- ・ 回覧板やごみ出しなど、日常生活の中でご近所と接する機会を大事にする
- ・ 定期検診の結果を活用し、良い生活習慣（栄養・運動・休養）を心がける
- ・ 早寝早起きや睡眠時間の確保で、心の健康づくりに取り組む
- ・ 健康講座等に参加し、地域の人と交流する



地域で種まき



- ・ 口コミで、近所の人を地域のイベント等に誘う
- ・ 誰でも参加できるようにイベントを工夫し、楽しさを共有する
- ・ 健康づくりにつながる特技や経験を分かち合う
- ・ 既存の活動の一部に、健康づくりに役立つ内容を取り入れる
- ・ 様々な住民と一緒に楽しめるよう、活動を工夫・継続する
- ・ 徒歩圏内の居場所が出来るよう、みんなでまち歩きをしてアイデアを出し合う
- ・ 場・機会づくりに関わる団体・機関で情報交換する
- ・ 地域の障害者や認知症の人とその介護者、支援をする人とふれあい、学び合う
- ・ 機会を共有した住民同士で会話を楽しみ、相手の想いに触れる時間をつくる



親と子のつどいの広場

鶴見区では、0歳から就学前までの子どもと保護者が気軽に集える広場が増えています。常設では、子育て支援拠点（わっくんひろば）を含め、令和3年2月に上末吉地区でオープンしたcoron（ころん）で6カ所になりました。アットホームな雰囲気でお過ごせる広場は、地域の親子が交流でき、「鶴見で楽しく子育て」につながる居場所になっています。



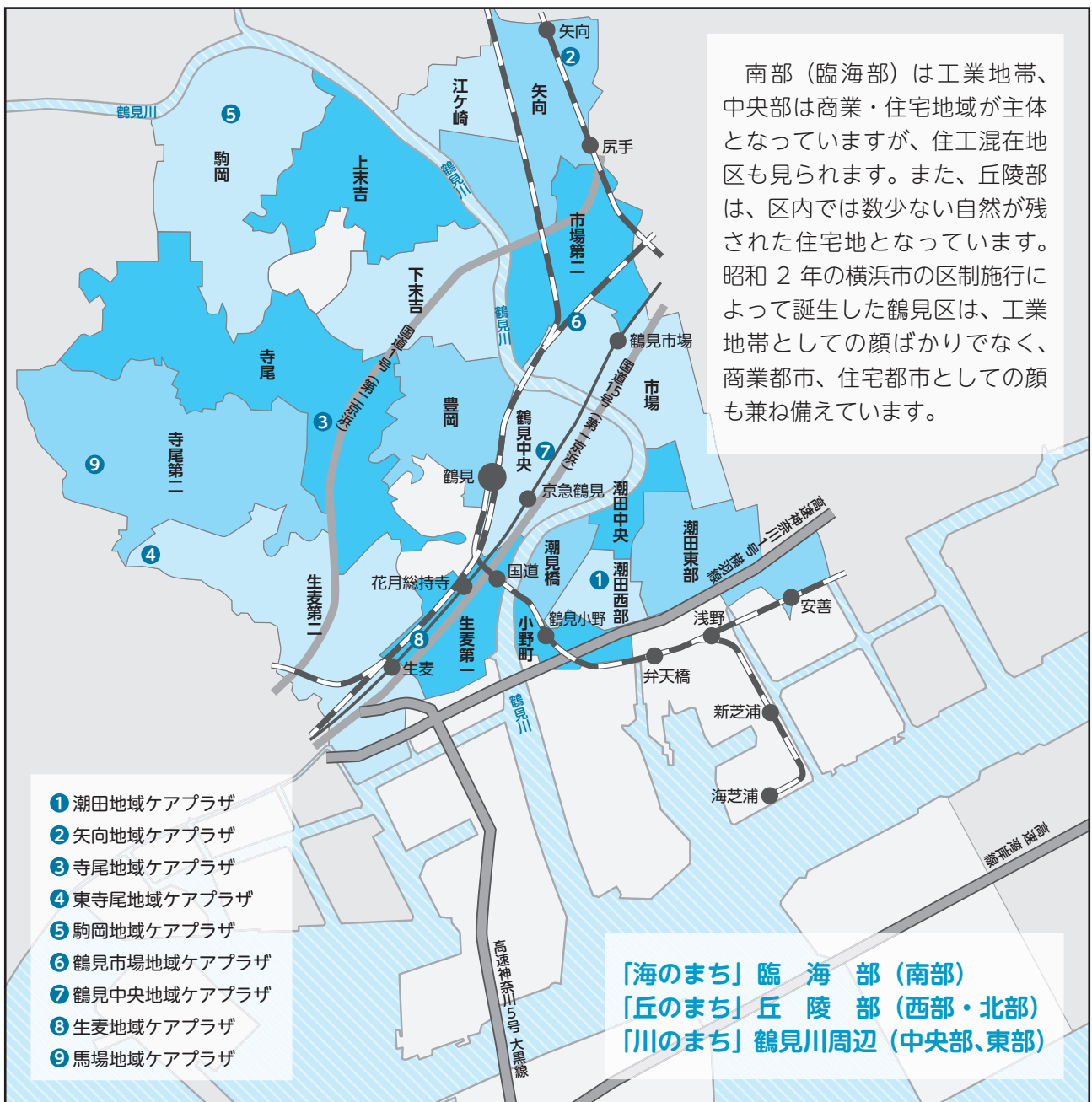
ゆったり過ごせる居心地の良い広場「coron（ころん）」

第3章 地区別計画

【地区別計画とは】

概ね各連合町内会を単位とし、地区ごとに話し合いなどを重ねながら、区全体計画と同じく5年毎に計画を策定しています。立てた目標に沿った取組を進め、その振り返りを行いながら、次年度以降のまちづくりにつなげています。

また鶴見区は地域によってまちの状況に特徴があり、取組への個別性がひととき重要となっています。

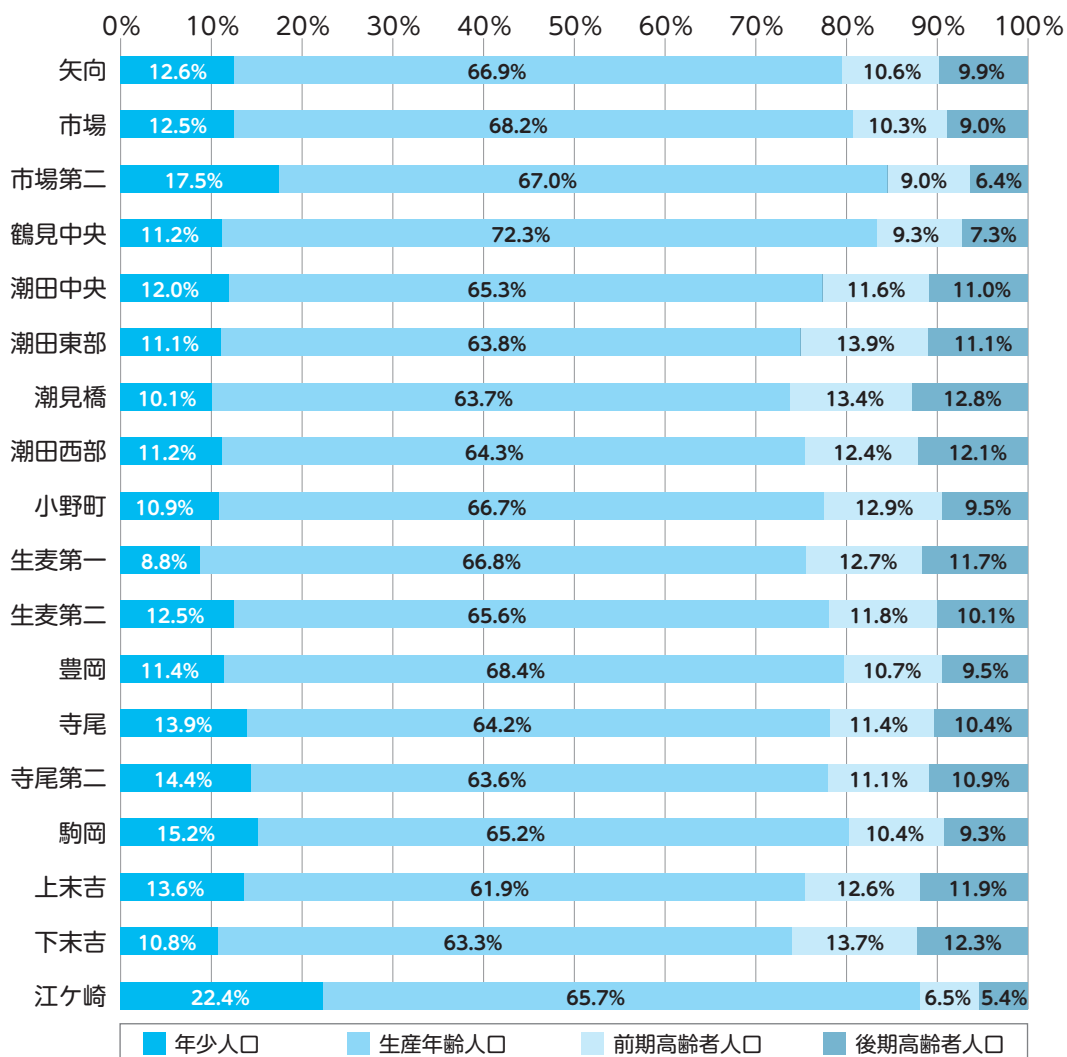


38 ページから、各 18 地区別計画をご紹介します。ぜひご覧ください！

コラム 世代構成も、地区の特色です！

鶴見区は海・丘・川と地理的特徴に富んでいますが、地域を構成する世代の割合も地区によって異なります。あなたのまちの特色を知り、未来の姿を想像しながら、活動・取組に参加しましょう！

2018年 年齢4区分別人口割合（地区別） 出典：横浜市 HP『統計情報ポータル』



地域の主役は、区民一人ひとりです

あなたが安心して暮らせるまちとは、どんなまちですか？私たちは、日ごろのあいさつをはじめ、住民同士の見守りや地域美化・緑化など、様々な活動をし、互いに支えあって暮らしています。「生きがいを見つけない」「自分にも何かできるかな」など、区民一人ひとりの自分への期待が、地域とつながるきっかけを与えてくれます。

育まれる縁を、まちづくりにつなげていきましょう。

方向性は、区計画も地区別計画も同じ



みんなで進めていく計画です！

1 矢向地区

1. 第4期計画策定（令和3年度～7年度）



誰もが安心して暮らせる矢向のまち

目標1 子どもが健全に過ごせる場づくり

■5年間の具体的な取組

- ①子どもと高齢者等様々な団体同士の交流会の開催。
- ②学齢期の子どもへの支援体制を整える。
- ③あいさつ運動の拡大。（例：入学式、日頃からの挨拶・声掛け等）



矢向地区の世代間交流

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人 材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標2 住民の参加（担い手づくり）

■5年間の具体的な取組

- ①町会の垣根を越え、子どもから高齢者まで誰でも参加できる趣味やスポーツを通じた声かけや交流の企画。（例：運動会、グランドゴルフ等）
- ②（綿花の）一鉢運動をより多くの人に広げる。
- ③イベント等に来てもらえる仕掛けづくり。
（例：地域の関係団体との連携、情報発信の工夫等）
- ④若い世代の参加。（例：お神輿、防災訓練、町会行事等）
- ⑤若い担い手づくり。



お祭りへの中学生の参加

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人 材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標3 住民同士の見守り見守られる関係づくり（ゆるやかな見守り）

■5年間の具体的な取組

- ①黄色いリボン運動の継続。
- ②地域の社会資源を活用し、身近な場所に人々が集まれる場所をつくる。（例：地域食堂、カラオケ、サロン等）
- ③災害時要援護者の日頃からの見守り。



ラジオ体操

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人 材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

2. これまでの取組について

<第3期計画の主な取組内容（平成28年度～令和2年度）>

誰もが安心して暮らせる矢向のまち

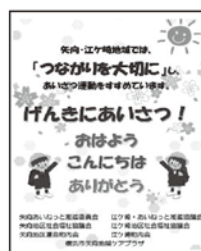
目標1 子どもが健全に過ごせる場づくり

目標2 住民の参加(担い手づくり)

目標3 住民同士の見守り見守られる関係づくり

あいさつ運動

矢向小・矢向中の入学式で、「おはよう」「おめでとう」と声かけを行い、あいさつの標語のプリントを挟んだクリアファイルを配布しました。



黄色いリボン運動

災害時、各戸に黄色いリボンを掲げて迅速な救助活動につなげます。黄色いリボンは「わが家は大丈夫だから、他の人を助けて」のサインです。

平成30年度は新たな世帯に配布しました！



とちのきフェア

矢向あいねっと参加団体のブースを回り、活動体験やクイズを通して、各団体を知る機会を作っています。



炊き出しの会

毎年シールアンケートを行っています。令和元年度は、第4期計画に関連した「みんなで考える矢向のまちづくり！」をテーマに出店しました。

<第4期計画策定に向けて>

矢向あいねっと地区フォーラム開催！（令和元年11月27日開催）

第4期計画の策定に向け、グループに分かれて目標ごとに活動を振り返り、話し合いをしました。

【意見】

- ・行事で会った子ども達がまちで声を掛けてくれる。
- ・地域の中での声掛け・日頃からのつながりを大切に。
- ・おやじの会がお祭りや炊き出しの会で活躍している。
- ・行事ごとに協力者を募る等、参加しやすい環境整備。
- ・黄色いリボンの周知徹底が必要。

【活動を通して見えてきた課題】（アンケートより）

- ・相互理解をした上での世代間交流を行ったら良い。
- ・子どもの時から各種行事に参加してもらい、中学、高校、社会人になっても地域とのつながりを持つようにしていきたい。

～参加者～

矢向あいねっと推進委員会、民生委員、主任児童委員、保健活動推進員、町内会、老人クラブ、PTA、矢向小サポーターズ、保育園から56名が参加！



2 市場地区



1. 第4期計画策定（令和3年度～7年度）



支え合い 笑顔で見守る 市場地区

目標1

日頃のあいさつから地域のつながりを強め、
情報が行き届く町を目指します。

■5年間の具体的な取組

- ①日頃のあいさつ、声掛けにより、世代を超えて
笑顔と安心を増やしていきます。
- ②今ある活動の参加者を増やし、顔の見える関係をつくることで、地域のつながりを強めていきます。
- ③ほがらか教室など、町会や団体を越えた交流づくりを継続し、
更に若い世代に向けた情報発信を行うなど、新しい住民の参加を促します。



<ほがらか教室>

交流	支えあい	健康
多様な主体	見守り	
人 材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標2

地域行事を通じて、未来の担い手をつくります。

■5年間の具体的な取組

- ①オール市場ゆうづる夏祭り、運動会など世代を超えて
参加できる行事を充実させます。
- ②地区内の小・中学校と連携・支援を深める機会を
充実させます。
- ③行事ごとに協力者を募るなど、誰でもできる範囲で
気軽に地域活動が経験できるよう工夫します。



<オール市場運動会>

交流	支えあい	健康
多様な主体	見守り	
人 材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標3

子どもから高齢者まで、地域の中で
見守り、支え合いの活動を推進します。

■5年間の具体的な取組

- ①登下校時の子どもの見守り活動を通じて、
互いに顔の見える関係づくりを進めます。
- ②民生委員や見守り訪問員だけでなく、高齢者等の
安否確認体制について町会全体で考える場づくり
など、今後も継続できる取り組みを考えていきます。
- ③見守りを進めていくための個人情報の適切な活用や課題、
仕組みづくりなどについて、関係機関と連携して地域で共有します。



<下校時の見守り活動>

交流	支えあい	健康
多様な主体	見守り	
人 材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

2. これまでの取組について

<第3期計画の主な取組内容（平成28年度～令和2年度）>

声かけて 笑顔でつながる 市場地区

目標1: 世代間を超えた交流 目標2: 次世代の担い手発掘 目標3: 見守り、支え合い活動の推進

○5年間の活動の振り返り

平成28年度

災害時要援護者見守りシステム「情報共有方式」のモデル地区として、先進的に28年度から取り組みを開始。民生委員、見守り訪問員が活躍しました。

平成29年度

健康づくり・地域交流・広域避難場所の確認を目的とした「歩け歩け大会」や、保健活動推進員主催の「鶴見区制90周年記念ウォーキング大会」を実施し、様々な年齢層の交流を深めることができました。

地域の健康づくりの場として「輝き西中町元気クラブ」を始めました！

平成30年度

地域の方と障害者の方の交流を目的として平成20年度から開催している「ゆうづるのど自慢大会」が30回大会を迎えました。

令和元年度

健康づくり・介護予防をテーマに25年以上続いている「ほがらか教室」で防災講演会を開催し、95名の参加がありました。

台風19号による避難所開設の際も、助け合いながら避難所運営を行うことができました。

令和元年6月からは「平安・ふれあい食堂（子ども食堂）」を開始！

コロナ禍では持ち帰りのカレーライスを販売し、多くの方に事業を周知することができました。

認知症カフェ「いきいきサロン」が5周年を迎えました。



<区制90周年記念ウォーキング>



<ゆうづるのど自慢大会>



<平安・ふれあい食堂（子ども食堂）>



<第4期計画策定に向けて>

○地区懇談会での意見（あいねっと市場地区懇談会 令和4年1月17日開催）

日頃地域活動を担っていただいている方々に参加していただき、5つのグループに分かれ、テーマに沿って各団体の日頃の取組内容や活動するにあたっての課題、今後やってみたいことを話し合いました。

また、各グループで第4期計画の策定に向けたキャッチフレーズを考えました。

★テーマ 見守り・声掛け・世代間交流・未来の担い手・ふれあい・情報・健康づくり

- ・誰でもできる範囲で気軽に地域活動に参加できる環境づくりが大切。
- ・災害時などに協力するためには、日頃から顔の見える関係づくりが必要。
- ・現行の活動を継続・充実させていき、必要な方に情報が届くよう、声掛けや情報提供を積極的に行っていきたい。
- ・地域での見守り活動を進めていくため、個人情報の適切な活用や仕組みづくりについて関係機関と連携して地域で共有していきたい。



<グループワークでの話し合い>

○地区懇談会の結果を踏まえて、地域での話し合い（令和4年2月22日開催）

令和4年1月17日のあいねっと市場地区懇談会での話し合いをもとに、市場地区自治会連合会2月の会長会において、第4期地区別計画のキャッチフレーズを決定しました。

新しいキャッチフレーズは「支え合い 笑顔で見守る 市場地区」に決定しました！

3 市場第二地区



1. 第4期計画策定（令和3年度～7年度） はじける笑顔があふれる市場第二

目標1

情報発信や広報の工夫により、地域のつながりをより強くしていきます

■5年間の具体的な取組

- 各自治会町内会の取組・工夫を共有し、インターネット・SNS等も活用した地域の情報発信の仕組みを検討し、取組みます。
【地区連合会や各団体等の情報発信での活用】
- 地域のさまざまな活動やイベントなどでの交流を通じて、団体同士のつながりを深め、地域の情報を住民に届けていきます。
【様々な広報紙の活用など】



【盆踊り】

交流	支えあい	健康
多様な主体	見守り	
人 材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標2

交流の場を通じて、世代等を超えたつながりをつくります。

■5年間の具体的な取組

- 自治会・町内会を超えた交流の場を作ります。
【盆踊り、音楽祭など】
- 乳幼児をもつ若い世代や小・中学生の方にも積極的に地域活動に関心・参加してもらえるような楽しいイベントを行います。
【盆踊り、餅つき、資源回収や小・中学校との連携など】
- 子どもから高齢者、障害児・者、国籍を超えた相互理解を深める場を大切にします。
【ゆうづる学習会の開催、わっくんサテライト、地域活動ホームや作業所とのつながり】



【わっくんサテライト】

交流	支えあい	健康
多様な主体	見守り	
人 材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標3

見守り・支え合いのまちづくりに取り組みます

■5年間の具体的な取組

- 地域での身近な見守りの協力者を増やし、また協力者を支える場や機会をつくっていきます。
【見守り協力者の連絡会等の開催】
- 各自治会町内会の見守り活動について、良い取組を情報共有し、それぞれの地域に合わせた進め方を考えていきます。
【災害時要援護者名簿の活用、連絡シートの作成等】

交流	支えあい	健康
多様な主体	見守り	
人 材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

2. これまでの取組について

< 第3期計画の主な取組内容（平成28年度～令和2年度） >

好きです市場第二 みんなの笑顔が見られる町に

○5年間の活動の振り返り

目標1 声掛けから始まる一步を踏み出します

- ・ 広報紙「市2のサン」で配布先を拡大し、幅広い世代へ地域情報の発信を進めています。
- ・ 障害者施設の行事や手作り製品の販売を通して、地域の人との交流ができています。

目標2 世代を超えたつながりから新たに担い手を育てます。

・ 3町合同の盆踊りや熊野神社の盆踊りや祭礼、オール市場運動会を通じ、若い世代の担い手がうまれました。また、青少年音楽祭や少年少女球技大会を実施しています。

・ ゆうづる学習会で地域の担い手と中学生がつながりをつくることができました。

・ 各町で集いの場や健康に関する活動（ウォーキング等）が始まっています。



【青少年音楽祭】

○5年間であった地域の動き

- ・ 子育て世代の転入が増えたことにより、市場小学校「けやき分校」が開校しました。
- ・ 災害時要援護者名簿の情報共有方式に関する協定を、全自治会・町内会で結びました。
- ・ 地域子育て支援拠点「わっくんひろばサテライト」ができるなど、子育て世代を支える環境が整ってきています。
- ・ 防災検討会を実施し、ペット避難の検討や、無線機（各自治会町内会2台）を導入しました。

○活動を通してみえてきた課題

- ・ 各町の特性を活かした見守りの仕組みづくりや活動状況の共有の場ができるとういです。

< 第4期計画策定に向けて >

○地区懇談会での意見

令和3年度 第1回あいねっと関係者連絡会（11月）開催

3期からのメンバーにさらに新たなメンバーも加わりました。第3期の振り返りとグループに分かれて「つながりづくり・情報発信団体間の情報共有」「新たな担い手・世代を越えた交流」「防災・見守り・支え合い」をテーマに話し合いました。

地域の団体間でのさらなる情報共有・情報発信や、行事を通じた交流、日々の活動の中での工夫、地域と地域内の事業所とのつながりや郵便局による見守り等について様々な意見が交わされました。

○地区懇談会の結果を踏まえて、地域での話し合い

あいねっと地域との打ち合わせ（12月）開催（参加者意見より抜粋）

- ・ 町会を超えて発展させていく具体的な取組を考えていく必要がある。
- ・ 広報、情報発信の工夫を共有できたらいい。
- ・ 地域の特徴に応じた見守りができるとよい。

あいねっと地域との打ち合わせ（1月）開催

- ・ 盆踊りやお祭り、カラオケ大会やイベントなど楽しい行事を続けていきたい。
- ・ 各町会のよいところを共有したり、一緒に行事をしたりして、地域を盛り上げていきたい。



【あいねっと関係者連絡会】

4 鶴見中央地区



1. 第4期計画策定（令和3年度～7年度）

健康と防災でみんながつながる鶴見中央

目標1 声かけでみんながつながる地域づくり

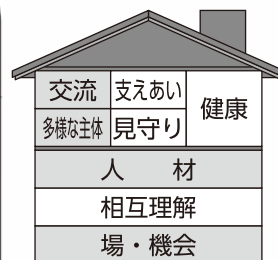


■5年間の具体的な取組

- ①町内会館や公園などの身近な場所で、ご近所同士のつながりづくり
例：サロン「鶴見みんなの会」「つるいちカフェ」
- ②住民全員が分け隔てなく楽しめるイベントづくり
→（町会加入の有無を問わず、）誰もが地域とかかわりを持てるようなイベントを充実させる。
- ③企業や学校等を含め、地域全体がつながりあうための情報発信
例：広報誌「まちしるべえ」、ホームページ上での広報



鶴見みんなの会



区計画とのつながり

目標2 みんなで見守りができるまち

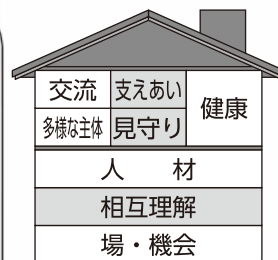


■5年間の具体的な取組

- ①地域での防災意識を高める
例：地域防災拠点立ち上げ訓練
例：各自治会の防災組織の拡充
- ②地域での見守り活動
例：「つるみっ子見守り隊」など
例：「防犯パトロール」など



炊き出し訓練



区計画とのつながり

目標3 みんなが健康にすごせるまち

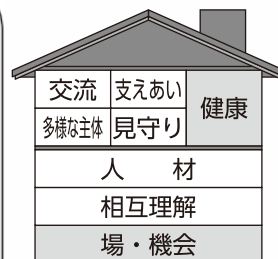


■5年間の具体的な取組

- ①地域が主催する健康づくり
例：健康測定、食育講座、公園清掃など
- ②既存の活動を活用した健康づくり
例：子育て支援教室終了後の歯の健康講座など
- ③趣味や運動を通じた健康づくり
例：ラジオ体操、ペタング、グランドゴルフなど



健康測定会



区計画とのつながり

コロナ禍の
下での活動

自身の体調に留意し、体調が悪い時には無理せず、活動への参加は控えます。また、活動する時にはマスクを着け手指消毒したうえで、人との距離は2メートル空けるなどいわゆる三密を避けるなど感染対策を十分取って上記の取組を進めます。

2. これまでの取組について

<第3期計画の主な取組内容（平成28年度～令和2年度）>

あいさつと声かけでつながる鶴見中央

- 目標1 声かけでみんながつながるまち
- 目標2 あいさつで見守るまち
- 目標3 みんなが健康にすごせるまち



○5年間の地域活動

☆ 防災・防犯 ☆

- ・防災訓練（★鶴小児童が参加！）
- ・防犯パトロール
- ・放置自転車対策



☆ 地域の交流活動 ☆

- ・鶴見みんなの会（new）
- ・「まちしるべえ」の発行
- ・お祭り・おもちつき
- ・公園清掃

☆ 子育て ☆

- ・出張保育「出張保育さくらんぼの会」🍓

☆ 見守り ☆

- ・一人暮らし高齢者訪問
- ・配食サービス「みつば亭」
- ・認知症サポーター養成講座（new）



☆ 健康づくり ☆

- ・ウォーキング
- ・ペタンク
- ・グラウンドゴルフ
- ・ラジオ体操

<第4期計画策定に向けて>

○鶴見中央地区あいねっと推進委員会での意見

	次期計画でやりたい取り組み	
【目標1】 つながり	居場所サロン	誰でも立ち寄れる居場所づくり
	住民同士の交流	誰でも参加できるまちのイベント
	情報発信の工夫	まちしるべえの配布先の拡充
【目標2】 あいさつ・見守り	あいさつの継続・町をよくするためには挨拶は必要	こどもが見知らぬ人と挨拶しない時代のため、方法の工夫が必要
【目標3】健康	既存の活動を活用した取組み	子猫クラブの後に歯の健康講座など

○鶴見中央地区あいねっと推進委員会での意見を踏まえた話し合い

- ・「住民全員が分け隔てなく楽しめるイベントづくり」について、
 どのような体制で費用をどこから捻出するかの問題がある。
- ・地区社協の予算を使って「あいねっと」のイベント等に活用する方法がある。
- ・町会関係の取組と「あいねっと」の取組の位置づけを分けて、計画・推進していく必要がある。
- ・「あいねっと」を知らない方が多い。様々な機会に「あいねっと」を周知していく必要がある。
- ・今後、計画の実現に向けて、具体的な取組内容等について推進委員会で検討していく。



5 潮田中央地区



1. 第4期計画策定（令和3年度～7年度）



つながりの街 USHIODA

目標1 住民同士の“つながり”の輪を広げる

■5年間の具体的な取組

- ①日頃からのあいさつや登下校時の見守り・声かけ、身近な居場所を通した、つながりづくりを行なう。
(例：高齢者サロン、子育てサロン)
- ②子どもから高齢者、外国につながる方など世代や文化を超えた交流を深める。
(例：クリスマスランタンフェスタ)
- ③町の美化に協力して取り組み、住民同士のつながりをつくる。
(例：ごみの分別の啓発、地域清掃)



さかえルーム

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人 材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標2 災害に備えて安心・安全なまちづくり

■5年間の具体的な取組

- ①防災訓練の呼びかけや内容の工夫を行い、小中高校生、若い世代、外国につながる方の参加を促す。
- ②日頃から子ども、高齢者、障害者等の見守りを行い、地域みんなでの助けあう意識を高めていく。
- ③災害時要援護者の見守り、声かけ等の体制づくりを行っていく。



保育園児と中学生の
防災訓練

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人 材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標3 地域みんな健康づくり

■5年間の具体的な取組

- ①地域の公共施設や福祉施設を活用し、地域での健康づくりの取組をさらに充実させる。
(例：ラジオ体操、ウォーキング大会)
- ②若い世代、外国につながる方も含めて、住民一人ひとりが健康づくりの意識を育てられる場・機会づくりを行う。
- ③健康づくりの取組等に、外国につながる方やこれまで参加していなかった方が参加しやすくする。
(例：掲示板の活用、情報発信の工夫)



ウォーキング

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人 材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

2. これまでの取組について

<第3期計画の主な取組内容（平成28年度～令和2年度）>

地域とかがわりやすい『まちづくり』

目標1 “つながり”に関すること 目標2 “防災”に関すること 目標3 “健康”に関すること

○5年間の活動の振り返り

（目標1）

- ・高齢者（ひだまり）、子ども（さかえルーム）の居場所運営
- ・多世代交流や地域のネットワークづくり、健康をテーマにした「うしおだ健康フェスタ」を潮田公園で開催（H30 雨天中止・R1）
- ・交流の場として「クリスマス・ランタンフェスタ」を開催（R2）
- ・登下校時の見守り・あいさつ・声かけ



高齢者サロン ひだまり



うしおだ健康フェスタ

（目標2）

- ・潮田小・中学校での地域防災拠点訓練
- ・潮田中学校・潮田保育園 合同津波避難訓練（H29）
- ・鶴見川の防災情報講座（R1）



防災情報講座

（目標3）

- ・健康づくりウォーキング（保健活動推進員主催）
- ・健康講座「ロコモ予防大作戦」など（保健活動推進員主催）

<第4期計画策定に向けて>

令和2年7月30日に実施した潮田中央地区あいねっと検討委員会では、事前に検討委員が提出した意見シートを用い、第3期計画の振り返りとしてグループワークを行いました。

【テーマ】第3期計画の目標①～③についての取組

<第4期計画につながるキーワード>

顔の見える関係性づくり・防災意識・多世代交流



検討委員会での意見交換

○地区懇談会（潮田中央地区あいねっと検討委員会）の結果を踏まえて、各町会に第4期の計画案を周知しました。

第4期計画につながるポイント

【つながりの輪を広げる】

登下校時の見守りをとおした顔の見える関係づくりの充実

- ・地域の団体、学校等との更なる連携により担い手の裾野を広げる

【災害への備えの取組】

- ・防災訓練への中高生、若い世代、外国につながる方の参加
- ・災害時要援護者の見守り方法の検討（名簿の活用）

【地域の健康づくりの取組を広げる】

- ・情報発信や参加方法の工夫、団体同士・他の町内会と連携した取り組み

6 潮田東部地区



1. 第4期計画策定（令和3年度～7年度）



声かけて 心がつながる 潮田東部

みんなで

支えあおう
声をかけよう
輪をつくろう
手をつなごう
挨拶をしよう

高齢者、子ども、子育てをしている親、介護者、障害のある方、外国籍の方など、様々な世代、様々な環境にある方が地域でつながり、支えあうことを大切にします。

地域で何が課題になっていて、住民が何を望んでいるか、住民の『声』をもとに取り組んでいくことを目指します。

目標1 地域みんなで支えあい

- ①災害に備えた地域ごとのしくみづくりを進めます。
(要援護者支援など)
- ②支援者間での情報共有を進めます。
(支え合いマップの活用や、地域と行政等の関係機関との情報交換など)



<支え合いのマップ作成>

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標2 地域の中での見守り活動

- ①高齢者に限らず、見守り活動を推進します。
身近な範囲で顔なじみの人で見守りができるように働きかけます。
- ②様々な世代、様々な環境にある方への理解・啓発に取り組みます。



<仲ニポスター(見守りポスター)>

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標3 地域で楽しく健康づくり

- ①4公園の元気づくりステーションを充実させます。
- ②既存の活動（ウォーキングや体操等）のPRを強化します。
- ③活動を通じ、多世代交流、趣味・特技を活かした健康づくりに取り組みます。



<元気づくりステーション>

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

2. これまでの取組について

<第3期計画の主な取組内容（平成28年度～令和2年度）>

声かけて 心がつながる 潮田東部

目標1 地域みんなで支えあい

目標2 地域の中での見守り活動

目標3 スポーツを活用した健康づくり

○5年間の活動の振り返り（年度ごとまたは、テーマ毎にまとめる。）

第1、2期の取組みを継続

【緊急連絡簿】要支援者の緊急時の連絡先（家族等）を把握する

【見守りステッカー】地域での見守りを啓発する

第3期より新しく開始

【支え合いマップ】見守り活動の一助としてご近所の状況を把握・共有する

【元気づくりステーション】地区内4公園で実施。健康づくり、介護予防

の活動を通じ地域全体が元気になる

第3期では、第1・2期から行ってきた取組みを継続しつつ、取組みの幅を広げて実施できた。

○活動を通してみえてきたこと

- ・緊急連絡簿では、町内会での回収率に差がある。地区全体として取組みを強化していく。
- ・活動を行う担い手が不足している。活動への理解者をまずは増やしていく。
- ・町内会での役員交替で、今までの取組み・活動が引き継がれていないことがある。町内会によって一体的な取組みができるようフォロー体制を整えていく。



<見守りステッカー>



<元気づくりステーション>

<第4期計画策定に向けて>

○地区懇談会（潮田東部地区フォーラム）での意見

- ・近所で日頃から声掛けをしていくようにすることが大切。
- ・支え合いマップ等で情報共有することも大切。マップは地域のことを考える機会となり有効だと思う。
- ・災害に備え、具体的な見守りの仕組みづくりを進める必要がある。
- ・第1期からの取組みを継続・充実させることが大切。
- ・取組みの理解者を増やしていくことで活動が地域に浸透していく。



<潮田神社社務所にて意見交換>

○地区懇談会の結果を踏まえて、地域での話し合い

- ・高齢者に限らず、様々な世代、環境にある方が地域で支え合う環境づくりが大切。
- ・災害に備え、要支援者支援など具体的な仕組みを構築する必要がある。
- ・作成した支え合いマップの活用や、地域と関係機関との情報交換など支援者間での情報共有の取組みが重要だと思う。
- ・元気づくりステーション等の活動を地域で気軽に参加できる健康づくりや交流の場として浸透させていくことが大切だと思う。



<計画策定に向けた話し合い>

7 潮見橋地区



1. 第4期計画策定（令和3年度～7年度）



ふれあい 支えあおう 潮見橋

目標1 つながりを広げよう！声かけでつなぐ地域の絆づくり

■5年間の具体的な取組

- ① 隣近所でのあいさつや声かけでつながりを広げよう
例：隣人やご近所での声のかけ合い
行事・イベントをきっかけにしたつながりづくり
- ② 住民同士の心のふれあいの場や機会を増やそう
例：こどもから高齢者まで参加しやすい行事
日頃のごみの分別や環境美化を切り口にした交流
- ③ 広報や口コミなど情報発信の内容や方法の工夫を行おう
例：友達同士や親子への声かけ
学校との連携した子どもたちへの声かけ



〈学援隊による見守り〉

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標2 支え、助け合う安全・安心な町づくり

■5年間の具体的な取組

- ① 日頃からの子どもや高齢者の見守りを続けよう
例：小学校の学援隊での見守り、声かけ
一人暮らし高齢者への声かけ、見守り
- ② 人が集う場・機会での見守りを広げよう
例：子育てサロン・居場所
(潮見橋ちびっこ広場等)
高齢者サロン・居場所
- ③ 災害に対する備えをしよう
例：防災講座の開催、地域の福祉施設や学校との連携した取組



〈潮見橋ちびっこ広場〉

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標3 それぞれの人に合った健康づくり♥

■5年間の具体的な取組

- ① 老若男女が参加できる健康づくりの場を充実させよう
例：子どもや若い世代も参加できる工夫
- ② 趣味や特技を活かした健康づくりを広げよう
例：ウォーキング、グランドゴルフ、ペタンク
料理教室など
- ③ みんなで心身の健康づくりに取り組み、
健康寿命を延ばそう
例：広報等で特定健診の大事さを伝える、健康講座の開催



〈グランドゴルフ大会〉

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

8 潮田西部地区



1. 第4期計画策定（令和3年度～7年度）



“安心・安全・支え合い 人が育む まちづくり”

目標1

地域みんなで支え合うまちづくり
～健康・絆・生きがい・安全対策・災害対策～

■5年間の具体的な取組

- ① 食品ロスの推進（食生活改善）
- ② ご近所活動の推進（絆・生きがいづくり）
- ③ だべり場の設置（居場所づくり）
- ④ 安心・安全マップの維持・管理
（防災対策づくり）
- ⑤ 減災への取り組み（防災・交通安全対策）



〈フードドライブの取組〉

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標2

地域の中で資源の掘り起こし
～居場所・後継者探し・地域の活性化～

■5年間の具体的な取組

- ① ご近所活動の推進（居場所づくり）
- ② 後継者探し（組織強化）
- ③ 地域が要求するニーズの把握（地域の活性化）
- ④ 地域が必要とする資源調査（活動の質の向上）



〈潮田西部地区臨海フェスティバルでの紙トンボ作り〉

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標3

地域の資源・情報を活用した組織づくり
～組織づくり～

■5年間の具体的な取組

- ① ITを駆使した情報の収集（情報の共有化）
- ② 他組織との交流（情報収集・活用）
- ③ 分かり易い地域活動の発信
（組織への理解・活動の周知）
- ④ 組織が必要とする人材の発掘・育成（組織力の強化）



〈潮田西部地区臨海フェスティバルの受付の様子〉

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

2. これまでの取組について

<第3期計画の主な取組内容（平成28年度～令和2年度）>

“まちづくり 絆づくりと 健康づくり”

目標1 地域みんなでまちづくり

目標2 情報でつなぐ地域の人々の絆づくり

目標3 地域の特性を活かした健康づくり

○5年間の活動の振り返り

◆黄色いリボン運動

災害時に、見えやすい場所にリボンを掲げて安否不明の方を迅速に救助できるようにする「黄色いリボン」の取組を進めました。今後は、訓練に活用するなどして、さらなる浸透を目指します。

◆災害用伝言ダイヤル171

災害時の連絡手段として推奨されている「災害伝言ダイヤル」について、使用方法などについて確認しました。今後も、体験利用を行うなど、実際に使えるような取組を推進していきます。

◆絆（あんしん連絡）カード

絆カードとは、緊急連絡先等が記載されており、災害時や緊急時に備えるためのカードです。普及に向けて推進していきます。

◆健康と人との声かけ作り

保健活動推進員を中心に、花木園・横溝屋敷内や麒麟工場等までのウォーキング、地区センターでの健康講座など、さまざまな取組を行いました。



〈ウォーキングの様子〉

◆ごみの分別

環境事業推進委員が中心となり、年末最後のゴミ収集後、ごみ集積場に注意喚起の貼り紙を貼る等の取組を行いました。また、環境事業推進委員と消費生活推進員との合同で、食べ残しのごみの分別等や食品ロスについて情報共有しました。



〈ごみの分別の注意喚起活動〉

◆持たない暮らし、使い切る暮らし

消費生活推進員が悪徳商法未然防止やエンディングノートについての講座を行いました。

<第4期計画策定に向けて>

○地区懇談会（潮田西部地区あいねっと推進会議）での意見

- ・実際の活動ではテーマや各町会の状況によって目標の達成度合が異なる。
- ・町会の取り組みは町会に入っている人だけのものではないので、あいねっとを通じて、地域全体の発展に寄与するまちづくりを行いたい。
- ・目標探しにおいては難しく考える必要はなく、日頃の地域の課題を取り上げればよい。



〈あいねっと推進会議(R4.2.13)の様子〉

○地区懇談会の結果を踏まえて、地域での話し合い

- ・第3期計画から引き続きの取り組みもあるので、振り返りも行いながら第4期計画を決めていきたい。
- ・目標を定めても具体的な行動計画がなければ絵に描いた餅となってしまうので、担当やスケジュールなどもしっかりと確認していく必要がある。
- ・各町会の取り組みを連合でも共有していくことが大事。



〈地域での話し合いの様子〉

9 小野町地区



1. 第4期計画策定（令和3年度～7年度） 地域みんなでつながろう



目標1 地域みんなでつながろう

■5年間の具体的な取組

- ①新たな担い手を育てていこう
例) 懇談会（パパ・ママ会）・おやじの会等、
同世代の集まりによる仲間づくり
- ②中高生が地域行事に参加する取り組みをしよう
例) お祭りへの参加、行事での参加賞配布
- ③若い人を含めた行事の周知と広報紙など周知方法を工夫
例) 掲示の工夫、広報紙の作成と全戸配布



<小野町地区社協だより>

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標2 人のつながりで災害に強いまちにしよう

■5年間の具体的な取組

- ①災害に備えていこう（避難・情報伝達・協力等）
例) 地域の福祉施設・病院・企業等と連携した一時避難場所の確保
- ②災害時に支援が必要な人を把握しよう
例) 災害時における要援護者名簿の活用、
平時のゆるやかな見守り
- ③顔の見える関係をつくり、助け合えるまちにしよう
例) 日頃からの隣近所の挨拶・声かけ、
行事をきっかけとした関係づくり



<防災訓練の様子>

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標3 地域みんな健康づくり

■5年間の具体的な取組

- ①地域資源を活用した健康づくりの活動をしよう
例) 地域の福祉施設・病院からの出前健康講座
- ②高齢者の集まる場や機会を増やしていこう
例) カラオケ・健康麻雀等、趣味・特技を活かした活動
- ③ラジオ体操、レクリエーション等、地域の日常的な活動
に積極的に参加・声かけしよう
例) ウォーキングにご近所さんを誘って参加



<地区社協主催福祉講座>

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

2. これまでの取組について

< 第3期計画の主な取組内容（平成28年度～令和2年度） >

地域みんなであつなごろう

- 目標1 地域みんなであつなごろう
- 目標2 人のつながりで災害に強いまちにしよう
- 目標3 地域みんなであつなごろう

○小野町地区あいねっと懇談会の開催

毎年の恒例行事となり、各町の取組や担う方々の思いを地区全体で共有しました。
28.11.26、29.11.25、30.11.24、元.10.26、令和2年度はコロナ禍で中止

○小野町地区の色々な行事

体育祭



お餅つき



納涼 仮装盆踊り大会



< 第4期計画策定に向けて >

○令和元年10月開催のあいねっと懇談会で次期計画に向けた話し合いを行いました。台風19号の直後で、防災や支援が必要な人への見守りについても取り上げられました。この後、皆さんの意見がまとまってきた頃コロナ禍となり、連合の定例会等集まれる場を使って計画を仕上げていきました。

小野町地区あいねっと 第4期計画策定（R3年度～R7年度）
地域みんなであつなごろう

■ 5年間の具体的な取組
① 目標1 地域みんなであつなごろう

- ① 年間の実践的な取組
 - ① 日頃から実施し続ける（経費削減・負担軽減等）
 - ② 災害時に必要となる人を把握する
 - ③ 顔の見える関係を築き、助け合える仕組みにする
- ② 高齢者の集まる場を確保する
- ③ ラジオ体操等、地域の日常的な活動に積極的に参加し、声かけする
- ④ 老人クラブのメンバーでカラオケ店を借りて活動したり、健康マラソンを行ったりなど、老人会の活動が広がっている。小野町地区全体に広がっていること。

■ 5年間の具体的な取組
① 地域みんなであつなごろうの実現

- ① 今年度行った地区社会の防災講座での体験活動からの課題など、引き続き地域の社会資源を活用した活動を行っていく。
- ② 町内会館の活用を検討する。
- ③ 町会によって子どものラジオ体操への参加数は異なる。



10 生麦第一地区



1. 第4期計画策定（令和3年度～7年度）



人とひととのつながりを大切に育てます。

目標1 地域みんなで手をひろげ～つながりの維持～

■5年間の具体的な取組

- ①地区内で活動している団体の連携をより進める。
- ②子ども同士や大人と子どもが世代間で交流する機会を増やす。
- ③多くの人々が地域活動に参加し、もっと顔見知りが増えるようにする。



地区連合運動会

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標2 地域の中で声をあげ～活動の継承・活性化～

■5年間の具体的な取組

- ①地域行事を通して、子どもたちに地域の伝統を伝える。
- ②小学校・中学校と連携し、子どもが行事に参加したいと思える情報発信を行う。
- ③掲示板を活用し、自治会・町内会、地区活動を広く届ける。



蛇も蚊もまつり

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標3 地域みんなが健やかに～健康活動の促進～

■5年間の具体的な取組

- ①お祭りやスポーツなど、世代を超えて一緒に楽しめる活動を継続する。
- ②既存の定期的な活動をさらに活性化し、新たな参加者を増やす。
- ③みんなが気軽に集まれる「場」を作り外出する機会を増やす。



グラウンドゴルフ大会

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

2. これまでの取組について

<第3期計画の主な取組内容（平成28年度～令和2年度）>

（第3期計画）

- ◆地域の文化を伝承することによって、人と人とのつながりが生まれます。
- ◆人と人がつながれば、安心・安全なまちがつけられます。
- ◆安心・安全なまちは、素晴らしい仲間がいる、誰もが住みやすいまちです。

それが、生麦第一地区・・・

〇年間を通し、様々な地区行事を通し、つながりの輪を拡げる取り組みを行いました。



4月 さくらフェスティバル



6月 子どもフェスティバル



6月 蛇も蚊もまつり



8月 例大祭



8月 生麦盆踊り大会



9月 敬老福祉大会



10月 地区運動会



11月 防災訓練

<第4期計画策定に向けて>

計画策定に先駆け、新たな生活様式に合わせた取り組みを開始しました。

〇ふれあい昼食会＝ふれあい配食会

会食が困難な状況のため、ふれあい昼食会を配食に変更に活動しています。

〇なまいちじんの発行

地区社会福祉協議会発行の地区社協だより（なまいちじゃん）を通した、地域情報の発信を開始しました。

〇なまいちじゃん連絡会・あいねっと懇談会

地域の情報交換、地区別計画に関する意見交換を行っています。

〇交流イベントの実施

地区グラウンドゴルフ大会を実施しました。



なまいちじゃん



ふれあい昼食会



なまいちじゃん連絡会



あいねっと懇談会



グラウンドゴルフ大会

11 生麦第二地区



1. 第4期計画策定（令和3年度～7年度）



みんなの笑顔が みんなの健康が
なまに（生麦第二地区の愛称）の元気の源

目標1 住みなれたまちで、みんなの笑顔あふれる暮らしを

■5年間の具体的な取組

- ①声をかけあい、思いやりの心でつながるまち
（例：ご近所付き合い、小学生の登校時の見守り）
- ②いつまでも住み慣れたまちで健康に暮らそう
（例：地域サロン、高齢者の食事会、健民運動会）
- ③地域に暮らす誰もが居心地の良さを感じるまちづくり



<なかよしサロン>

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標2 まもろう みんなで安心して暮らせるまち

■5年間の具体的な取組

- ①ひとり1人が防災への意識を高く持ち
災害に備える強いまち（自助）
（例：備蓄品の準備など日頃からの備え）
- ②災害時、要援護者をはじめ隣近所で
助け合えるまち（共助）
- ③身近なところから防犯・防災活動の取組みを継続していこう
（例：ふれあい防災訪問、防災訓練、防犯パトロール、社会を明るくする運動）



<ふれあい防災訪問出陣式>

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標3 子どもから高齢者までみんながまちの**に**ない手（主役）に…

■5年間の具体的な取組

- ①多世代が楽しく交流できるまち
 - ・安心して子育てができるまち
 - ・子どもの笑顔を守り、健やかに育つまち
 - ・誰もが孤立しないまち
- ②地域活動を未来に引き継ごう ～次世代へのバトンタッチ～
- ③地域情報の発信者と受信者とのつながりを意識した情報伝達と共有方法の工夫（掲示板/回覧板/メール等 ツールの積極的な活用）



<子育てサロン>

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

2. これまでの取組について

<第3期計画の主な取組内容（平成28年度～令和2年度）>

明るく 楽しく 元気よく！ みんな「あいさつ」できるまち

目標1 見守りネットワークのある、みんなが元気でつながれるまちづくり

目標2 子育て世代が、地域とつながり安心して子育てができるまちづくり

目標3 災害時も安心できるまちづくり

○5年間の活動の振り返り

- ・リアル HUG 訓練（避難所運営訓練）や DIG 訓練（住民参加型災害図上訓練）を用いた状況に合わせた災害への取組み
- ・ウォーキングを定期的に行い健康増進だけでなく、ご近所同士の顔の見える関係づくり
- ・毎年開催される健民運動会では子ども、大人、高齢者が一体となり総勢 2,500 名を超える参加

○活動を通してみえてきたこと

- ・毎月開催されている「親子の居場所」の周知方法や活動内容の拡充
- ・情報を必要としている住民が、その年代に応じた情報に効率的にアクセスできているか。
- ・住民同士の交流は活発だが役員の後継者不足が進んでいる。

ライフステージに関係なく自治会活動に無理なく参加できる仕組みづくりの必要性



<生麦第二地区社協研修会>
(生二あいねっと地区フォーラム)
での DIG 訓練



<健民運動会>

<第4期計画策定に向けて>

○地区懇談会での意見

令和元年 11 月 25 日（月）岸谷会館にて開催

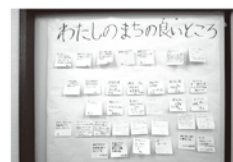
14 名の地域のみなさんと、『私のまちの良いところ』、『気になること』について意見を出し合いました。

- ・「いろいろな行事があり、参加者も多く活発なところが良い」
- ・「空き家対策・ゴミ出し問題に取り組んでいる」
- ・「高齢者の孤立予防、外出などの支援が盛んだ」

など、各町会の工夫している取り組みを通してまちの状況を共有しながら、第3期計画を振り返りました。



<話し合いの様子>



<いろいろなご意見が出ました>

○地区懇談会の結果を踏まえて、地域での話し合いでた意見

令和3年7月26日（月）第1回検討委員会

- ・町内会の活動を見える化し、地域住民に浸透させていきたい。
- ・若い世代に向けて情報の発信と共有を工夫し、また、町内会全域でほしい情報が手に入りやすい工夫をして行こう。

令和3年10月25日（月）第2回検討委員会

- ・向こう三軒両隣の精神や食事会などの取組を活発化させよう。
- ・備蓄品の備えなど、日頃から災害について取り組もう。



12 豊岡地区



1. 第4期計画策定（令和3年度～7年度）



みんながつながるまち豊岡

目標1 笑顔であいさつして交流の輪を広げよう

■5年間の具体的な取組

- ①子どもから高齢者、障害のある方、外国人まで、日頃からあいさつして、顔の見える関係づくりを広げよう。
- ②清掃やゴミ出しなど日常生活での関わりや、地域行事などをきっかけに、住民同士の交流を進めよう。



豊岡地区運動会

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標2 安全・安心な町づくりを進めよう

■5年間の具体的な取組

- ①学童の下校時の見守り活動や防犯パトロールを続けて、地域のみんなが安心して暮らせる町づくりを進めよう。
- ②自然災害時に備えて、日頃から要援護者を見守る体制づくりを進めよう。
例：「黄色いリボン」「無事です」カードなどの活用
地域の防災訓練への中学生や若い世代の参加



地域防災拠点訓練

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標3 心と身体の健康づくりを行おう

■5年間の具体的な取組

- ①外に出て、人とつながり、心も身体も健康になろう。
例：豊岡ふらっとカフェなどの居場所づくり
地区連合運動会への参加
- ②地域で健康づくりの取組を行おう。
例：声をかけ合って特定健診を受診
口腔ケアで、歯の健康づくりや感染予防
体操教室（指導者巡回型や介護予防など）への参加



豊岡ふらっとカフェ

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

2. これまでの取組について

< 第3期計画の主な取組内容（平成28年度～令和2年度） >

笑顔で元気な町づくり

目標1 笑顔であいさつ 目標2 安心・安全な町づくり 目標3 健康づくり

5年間の活動の振り返り

豊岡地区では、笑顔で元気な町づくりに向けて、さまざまな取組を行ってきました。

平成28年度

学童の見守り活動を始めました

「地区全体で取り組めるような活動をしていきたい」という思いが現実になり、平成28年1月から7町会合同で学童の見守り活動に取り組んでいます。

月に一度、下校時に、豊岡小学校周辺や各町会で危険があると判断した場所に立って、生徒さんに笑顔であいさつをしています。生徒さんからも元気な声で、「さようなら」とあいさつが返ってきます。



学童の見守り活動

平成29年度

障害のある方への理解

区内の障害児者施設の職員の方や障害のある方のご家族に、自閉症をテーマにお話をさせていただきました。半分にしたペットボトルを覗いて自閉症の方の見える世界を感じたり、表現することが難しい言葉を絵に描いてみるといった体験を通し、障害への理解を深めることができました。



絵描きでコミュニケーション体験

平成30年度

認知症の方への理解

認知症カフェ「豊岡ふらっとカフェ」が立ち上がった経緯の説明をした後、カフェの様子をビデオ上映会で振り返りました。

ご本人やご家族の不安を少しでも取り除くことが出来ればとの温かい思いに触れ、カフェに訪れた方の笑顔溢れる様子をビデオで鑑賞し、活動の理解を深め、「ふらっとカフェ」を連合全体で応援していこう！ということになりました。認知症になられても安心なまちづくりをすすめています。



認知症カフェのビデオ上映会

< 第4期計画策定に向けて >

地区懇談会での意見（令和2年7月8日開催 豊岡地区あいねっと情報交換会）

- ・あいさつはコミュニケーション、つながりの基本。
- ・つながりのきっかけとなる、イベント・祭り・行事等が大事。
- ・災害時のため、要援護者の把握をきちんとすすめていきたい。
- ・皆さんと集まり、お話することは心の健康につながる。
- ・特定健診を町ぐるみで声かけして受診を勧められると良い。
- ・「歯の健康づくりを進める取り組み」はどうか。歯の健康は、口腔ケア、感染予防にもつながる。



グループワークでの意見交換

地区懇談会の結果を踏まえて、地域での話し合い

（令和3年11月17日開催 豊岡地区あいねっと情報交換会）

- ・顔の見える関係づくりでは障害のある方も言及したい。
- ・安全・安心な町づくりには防犯パトロールの継続が大事。
- ・防災訓練に若い世代の参加促進や人材育成が必要。
- ・健康づくりでは地区連合運動会や体操教室の参加を広く呼びかける。



13 寺尾地区



1. 第4期計画策定（令和3年度～7年度）



ふんわりとしたつながりで、絆を強めよう！みんなが寺尾の応援団

- ★ 第2期計画では、福を呼び込み、種まきができました。
- ★ 第3期計画では、その福を皆さんで育ててきました。
- ★ 第4期計画では、育った福を皆さんで花咲かせましょう。

これからも みんながふんわり ふんわり つながって
あたたかで やさしい 人の好きな 寺尾地区が 生まれます

目標1

笑顔がみえるつながりを大切に、
地域みんなで安心・安全なまちづくりを進めよう！

■5年間の具体的な取組

- ①私もあなたもみんなで会釈・あいさつをし、顔と顔がわかるつながりをつくります。
- ②災害時に活用する「無事ですシール」の普及をすすめ、防災訓練等を通じて地域住民の防災意識を高めます。
- ③見守りグッズの「安心ホルダー」の普及のため、PRを行い、隣同士で助け合える関係づくりを目指します。見守り活動の様子



交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人 材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標2

幅広い世代で地域の活動に参加し、
地域みんなで楽しく健康に過ごせるまちにしよう！

■5年間の具体的な取組

- ①楽しんで参加できる行事（お祭り、運動会、健康イベント等）を通じて幅広い世代と交流し、若い世代の活躍の機会を応援します。
- ②SNS等を活用し、幅広い世代に地域情報を届け、新しい形のつながりづくりにチャレンジします。
- ③地域の団体同士が交流する機会を設け、団体間の情報交換を行い、地域へ発信をします。



お祭りの様子

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人 材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

2. これまでの取組について

<第3期計画の主な取組内容（平成28年度～令和2年度）>

ふんわりとしたつながりで、このまちの福を育てよう！

目標1 地域みんなでつながりを大切に、見守り活動を広げよう！

目標2 地域の活動を楽しくつづけて、健康生活につなげよう！

見守り

- ・「安心ホルダー」拡大中！
- ・「無事ですシール」が完成！
- ・各地で要援護者見守りグループが誕生！



安心ホルダー



無事ですシール

健康

- ・ひざひざワックン体操
- ・寺尾地区保健活動推進員による健康講座を開催

つながり

- ・学生も参加する防災訓練
- ・各町会で夏・秋祭り、運動会を開催
- ・めがね橋まつり、てらお昔遊びまつりを開催
- ・寺尾地区社協による福祉保健講座（社会を明るくする運動、ひきこもりについて）を開催
- ・寺尾地区独自団体の「青少年指導員子ども会連絡会」による子供向けイベントを開催



青少年指導員子ども会連絡会主催
「夏休み自由工作」作品展

○活動を通してみえてきた課題

- ・コロナ下での地域活動の再開や工夫、新たな取組の実施
- ・各団体の交流による活動の活性化
- ・地域の担い手を発掘するための取組

<第4期計画策定に向けて>

○4期の取組についてのアンケートを実施、意見を集約（令和3年8月～10月実施）

（寺尾地区自治連合会へ配布、回答された意見より抜粋）

- ・「無事ですシール」の使い方についてマニュアル・冊子等を作成したい。
- ・年数が経過しても忘れられないよう、PRを続けていきたい。
- ・「安心ホルダー」については、年度初めに回覧で希望者を募集している。
- ・老若男女が気兼ねなく会話できるときに、地域の運動会・お祭り・イベント等で地域の方々の笑顔があふれているときに、ふんわりとしたつながりを実感する。
- ・コロナ下だからこそ、SNS・メール等を使って情報共有している。

○寺尾地区定例会で「あいねっど検討会」開催（令和3年12月20日）

アンケート結果をもとに目標や具体的な取り組みについて話し合いました。

（参加者の発言より抜粋）

- ・「ふんわりとしたつながり」は、地理的な制限のある寺尾地区のキーワードで、大切にしていきたい。
- ・「無事ですシール」や「安心ホルダー」は、具体的な使用方法の周知や再配付等、普及を進めたい。
- ・こどもや若い世代が参加したいと思えるようサポートしたい。
- ・SNSを通じて、町会の情報発信ができ、地域の繋がりを感ずる。



グループでの意見交換の様子

14 寺尾第二地区



1. 第4期計画策定（令和3年度～7年度）



世代を超えて未来につなごう 地域の輪

目標1 思いやりで老いも若きも支え合おう

■5年間の具体的な取組

- ①あいさつと思いやりの心を缶バッジで広げる。
- ②向こう三軒両隣、ご近所同士の声かけで支え合う。
- ③地域の見守りで、安心して暮らせる私たちの町に。



交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人 材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標2 誰もが絆を深めて、地域力を高めよう

■5年間の具体的な取組

- ①楽しい催しで、多世代交流の場を増やす。
- ②世代を超えた連携で、防災意識を高める。
- ③地域の自然や歴史を生かした企画で、誰もが愛着をもてる地域にする。



【老いも若きも】

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人 材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

<第3期計画の取組の様子>



【お楽しみ福祉大会】



【多世代交流会 学んでご飯】



【地域カフェ】

2. これまでの取組について

<第3期計画の主な取組内容（平成28年度～令和2年度）>

世代を超えて未来につなごう 地域の輪



① 老いも若きも、思いやりの心を育てよう

② それぞれが楽しみながら連携し、地域力を高めよう！

- 平成27年の馬場地域ケアプラザ開所により、単一地区の取組となって寺尾第二地区の課題がさらに明確になり、取り組みが具体化しやすくなりました。また、寺尾第二地区社会福祉協議会が推進母体となることにより、スピーディーな対応ができるようになりました。
- その一つの例が、**缶バッチの取り組み**です。平成28年11月に開催されたあいねっと地区懇談会のグループワークで、「声掛け活動の証となる缶バッチを作っては」との声がきっかけとなり、翌年6月にデザイン公募、8月には完成するという素早い取り組みが実現しました。
- また、世代を超えた取り組みの一つが**多世代交流会 学んでご飯**です。地域の高校生が、小・中学生の学習支援をし、地域の方が作ってくださった夕食を頂き、帰りは地域の方がお子さんたちを送ってくださり、地域から材料の提供があるなど、この交流会は、地域の力を結集した交流の場と言えるでしょう。
- さらに、**地域での見守り活動**についても、令和元年までに全自治会町内会で見守りの体制が整い、互いの情報を共有し互いの良いところは取り入れるべく“つながり連絡会議”も立ち上げました。また、地域で見守りに携わる方々を中心に、地域に住んでいらっしゃる高齢者や障がいのある方々への理解を深めるため、認知症サポーター養成講座や障がい理解のための講座を毎年開催するなど、安心して相談できるまちづくりを目指し取り組んでいます。その一つのツールとして、地区内に多くの地域カフェや様々な交流の場が増えています。

<第4期計画策定に向けて>

①第1回寺尾第二地区あいねっと準備会（R3.6.30開催）

町内会や地区社協の代表が参加し、第4期計画案の目標及び具体的な取組について検討を行いました。「子供だけではなく『高齢者』『障害者』の見守りもキーワードに入れたい」「第3期は、実行力を生かした。誰かが声を上げると広がる副産物がたくさんあった」「コロナ禍でも『つながっていた感』がある」などの意見が出ました。



②寺尾第二地区あいねっと会議（R3.10.25開催）

町内会長、民生委員の代表が4グループに分かれ、第4期計画案についてグループワークしました。「活動の担い手を発掘したい」「今ある『地域カフェ』のようなものが色々な地区にできるとよい」など、各グループからたくさんの意見が出ました。



③第2回寺尾第二地区あいねっと準備会（R3.11.9開催）

あいねっと会議で出た意見を踏まえ、第4期計画を策定しました。

15 駒岡地区



1. 第4期計画策定（令和3年度～7年度）



～地域みんなでつながる町 駒岡～

目標1 地域のつながりを充実させよう

■5年間の具体的な取組

- ①地域の歴史や自然を生かしたイベントや活動を通じて、若い世代と共に地域のつながりを充実させます。
- ②地域の防災活動を通じて、多様な人材が地域活動に関心を持つ機会をつくれます。

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人 材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり



目標2 今よりもっと地域の情報が手に入りやすい町にしよう

■5年間の具体的な取組

- ①読み手に合わせた情報発信の方法を検討します。
- ②地域の情報がより多くの人に届くように、住民と地域の団体がつながる機会を大切にします。

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人 材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり



2. これまでの取組について

<第3期計画の主な取組内容（平成28年度～令和2年度）>

地域みんなでつながるまちづくり

目標1 「地域の行事に新しい風を取りこもう」

目標2 「今よりもっと地域の情報が手に入りやすいまちにしよう」

平成28年度：盆踊り当日に、婦人部や子ども会の浴衣の着付け直しボランティアを募集しました。

平成29年度：盆踊りに参加したことがない親子に参加してもらうために、別日で「初めての着付け教室」と「浴衣着付けボランティア」も同時募集をしました。

平成30年度：目標1の取組みとして、過去2年間開催した「着付け教室」は、より身近な場所で参加できるよう各町会単位で周知・募集を行いました。



<新しい人材発掘もあり、地域の活動を知ってもらうきっかけになりました。

目標2も「社協だより」を活用し、地域の魅力を発信しました。>

平成30年度の取組内容を振り返り、駒岡地区の現状や魅力を確認しました。地域の方の駒岡への思いやニーズを知り、第4期計画にいかすため、令和元年8月～9月アンケートを実施しました。（回答262名）

駒岡地区あいねっとの会（4町会会長・地区社協事務局長・4町会婦人部部長）が中心となって定期的に意見交換し、令和2年2月12日にはさまざまな分野の方に集まって頂き、アンケート結果を基に第4期策定に向けて話し合いを行いました。

<第4期計画策定に向けて>

●駒岡地区懇談会の開催：令和3年10月14日（木）午後 駒岡地区センター中小会議室

感染拡大予防対策を徹底しながら20名の方々にご参加いただきました。前回計画の振り返りや第4期計画の概要を共有した後、4グループに分かれて地域の課題や第4期計画と今後の活動に向けた具体策を話し合いました。今回は子育て世代の代表の方にもご参加いただき、有意義な意見交換の場となりました。

【目標①つながりの充実について】

- ・既存のイベントをはじめ、あらゆる世代がつながるきっかけとなる場を大切にしたい
- ・コロナ禍により変化した人々の生活習慣に合わせてイベントのやり方を皆で考えたい 等



【目標②情報が手に入りやすい町づくりについて】

- ・地域に関心興味をもつきっかけや住民の声を拾う仕組みを作りたい
- ・SNSなどITを活用した効果的な周知方法を考えたい 等

どのグループもこれからの駒岡地区の発展に向けた前向きな意見が出ており、明るい未来を考える皆さんの表情はとてとても生き生きと輝いていました。地区懇談会で出た意見を基に、地域支援チームメンバーにて案を作成し、町内会長をはじめ地域の方とともに計画策定確定に向けて話し合いを行いました。

16 上末吉地区



1. 第4期計画策定（令和3年度～7年度）



まわりが見える住みよいまち 上末吉

目標1 既存の行事や活動を充実させて、世代をこえたつながりをつくろう

■5年間の具体的な取組

- ①子育て世代、高齢者など、同年代だからできるつながり、仲間づくりを大切にし、馴染みのある行事やスポーツイベントで、ひとりでも多くの「仲間」ができるよう工夫しよう。
- ②さまざまなアイデアで活動の場を増やし、交流だけでなく、防犯や閉じこもり・引きこもり防止対策にもつなげよう。
- ③地域の組織や団体を活性化させ、新たな担い手をみつけよう。
- ④まちの情報発信やフレイル予防（介護予防*）、見守りなどに家族から中高生へ、中高生から家族や友人・知人に広がるよう掲示板や回覧板、SNS**などを活用していこう。



ほんぼこりん広場



グラウンドゴルフ大会

*：高齢者のフレイル（虚弱）を予防する事。**SNS：ソーシャル・ネットワーク・サービス

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標2 日頃の交流を深めよう

■5年間の具体的な取組

- ①清掃やお祭りなどの地域行事の機会を活かして、多世代交流を深めよう。
- ②案内・掲示などでの周知だけでなく、電話やメモなども活用しながら積極的にコミュニケーションをとろう。
- ③SNS**の活用や地域行事に可能な範囲で協力できる仕組み（サポーター登録制度）など、若い世代や男性が参加しやすい仕組みづくりを考えよう。
- ④子ども会、シニアの団体、婦人部などが日頃から情報共有し、それぞれの行事を活かして交流する機会をつくろう。



高齢者会食会 やよい会



コロナ禍ではお弁当に変更

上末吉5丁目のHP



交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標3 気軽なあいさつから、見守り・支え合いの輪に広げよう

■5年間の具体的な取組

- ①ウィズコロナに対応した見守り活動をするために、区役所・区社協・ケアプラザと情報を共有し、連携しよう。
- ②既存の見守り活動をしている団体とのつながりを深めよう。（若い世代への働きかけが重要）
- ③発災時、自助・共助を軸とした実現できる計画をつくろう。



防災訓練（段ボールベッド）

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

2. これまでの取組について

<第3期計画の主な取組内容（平成28年度～令和2年度）>

交流を深め、ささえあう、住みよい上末吉地区を目指して

- 目標1 既存の行事や活動を充実させて、世代をこえたつながりをつくろう
- 目標2 日頃の交流を深めよう
- 目標3 日頃の交流を、見守り・支え合いの輪に広げよう

○平成28年度～平成30年度

「地域の見守りや支え合いの輪を広げる」ことに焦点をあて、要援護者名簿の情報共有方式について協定締結を行い、町会毎に名簿登載者の把握方法や見守り活動の体制づくりなどを共有しました。更に、名簿登載情報をマップに落とし込み「見える化」を図っている町会より、情報提供をいただき、活発な意見交換が行われました。

○令和元年度～令和2年度

- ・第3期計画 目標1～3の取組みについて、ワールドカフェ方式を用いたグループワークを実施し「今、やっていること」「ちょっと気になっていること」「これからできそうなこと」に分類し、振り返りを行いました。
- ・特に「情報発信」がキーワードとなり、広報の工夫や世代の違う人を介して情報共有できる仕組みの必要性が話し合われました。



避難所運営訓練

<第4期計画策定に向けて>

○「上末吉あいねっとの会」における意見

令和3年度 第1回あいねっとの会（6月）開催

- ・コロナを経験し、地域におけるつながりの重要性が再認識されました。
- ・ウィズコロナに対応した見守り活動や、防災対策などを第4期計画に含める事を確認しました。

令和3年度 第2回あいねっとの会（9月）【縮小開催※】

- ・「地域をつなぐために、今までとは違う方法を考えていかななくてはならない。異世代をつなぐ方法のひとつとしてICT（情報通信技術）は、やっていかななくてはならない時代になっている。（参加者意見より）」

令和3年度 第3回あいねっとの会（11月）開催

- ・キャッチフレーズの「まち」の文字は、広い世代に親しみやすい計画になって欲しいとの願いから、読みやすいひらがな表記とする。

※縮小開催：コロナウイルス感染対策として、参加人数を各町内会長、計7名に縮小



令和3年6月30日
「上末吉あいねっとの会」



○令和3年度「上末吉あいねっとの会」構成メンバー

上末吉地区各町会長、各町会民生委員、保健活動推進員会 会長、老人クラブ連合会 会長
上末吉地区社会福祉協議会 事務局長、駒岡地域ケアプラザ、区社会福祉協議会、鶴見区役所

17 下末吉地区



1. 第4期計画策定（令和3年度～7年度）



さらに“つながる”まち下末吉を目指して

目標1 地域みんなでつながりあえる、下末吉を目指そう

■5年間の具体的な取組

- ①行事を通して、日ごろから挨拶し合える繋がりづくりをしていこう。
- ②子育て世代が地域との繋がりを持ち続けられるように仕組みを作ろう。
- ③地区フォーラムを開催し、情報の共有をして各町内会の輪を広げよう。



令和3年7月赤ちゃん会

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人 材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標2 地域の中で、より情報を共有できる仕組みを考えよう

■5年間の具体的な取組

- ①事業所懇談会等を継続し、地域住民、施設、活動団体の繋がりを活かして課題や情報を共有していこう。
- ②地域で行われている福祉活動や支えあいの取組をより多くの方に知っていただけるようPRの方法を考えていこう。
- ③掲示板や回覧板以外にも、様々な方法で、必要な情報を広くお知らせできる工夫を検討していこう。



令和元年度 事業者懇談会

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人 材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標3 「担い手」が活躍し、「場の活用」ができる活動を充実させよう

■5年間の具体的な取組

- ①『町内会館』や『いこいの家』の更なる活用を図るとともに、新たな『場』を探していこう。
- ②お祭りや運動会といった既存の活動を、次世代へ繋ごう。
- ③既存の活動に関心を寄せてくれた住民が、積極的に参加したくなるような活動を行おう。



ピンピン体操「ホビー会」
末吉憩いの家で活動中

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人 材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

2. これまでの取組について

<第3期計画の主な取組内容（平成28年度～令和2年度）>

～ さらに住みよい下末吉地区をめざして ～

- 目標1 さらに地域みんなでつながりあえる、下末吉をめざそう
- 目標2 地域の中で、より情報が共有できる仕組みを考えよう
- 目標3 会館も含め、さまざまな「場」を活用し、交流を深めていこう

○5年間の活動の振り返り

- ・28年度の地区フォーラムにおいて、世代間交流や担い手・人材育成、町会と施設、活動団体の交流、場づくりと健康づくりについて意見交換をしました。
- ・29年度地区フォーラムでは、『居場所』をテーマに開催しました。
- ・30年度には、地域の中で気になっていることを意見交しました。そこから発展して『つながり』が課題として見えてきました。
- ・令和元年度には、これまで地域とはあまりつながりがなかった、高齢と障害の事業所が集まり、事業所懇談会を開催。情報共有を行いました。



令和元年度あいねっとの会

○活動を通してみてきたこと

下末吉地区はもともと地域・学校・障害者作業所等のつながりが強い地区ですが、さらに『つながり』を意識して活動した結果、地域と学校、障害者作業所、育児サークルなど新たなつながりができました。

<第4期計画策定に向けて>

○地区懇談会での意見

- ・あいさつや声かけをしながら、行事をとおしてつながろう。
- ・若い世代と地域行事をとおした交流をもちながら、担い手育成をしていこう。
- ・今ある地域の輪を大切に、さらに顔の見える関係を作ろう。
- ・行事や地域活動の情報発信の工夫をしていこう。
- ・老人会と育児サークルなど、世代間交流をしよう。
- ・だれかの『こうしたい』を応援する地域づくりをすすめよう。



令和3年5月あいねっと会議

○地区懇談会の結果を踏まえて、地域での話し合い

平成31年2月9日 下末吉地区フォーラム
 <フォーラム参加者の中から4期計画に向け20名の有志を得る>
 令和2年2月6日 あいねっとの会（4期に向けての準備会）
 ・・・・・・・・・・・コロナ禍で中断・・・・・・・・・・

令和3年5月24日 第1回あいねっと会議（9名体制）
 令和3年11月30日 第2回あいねっと会議（9名体制）
 令和3年12月17日 法人下末吉連合会議で承認



令和3年11月あいねっとの会

18 江ヶ崎地区



1. 第4期計画策定（令和3年度～7年度）



支えあう・助け合う町 江ヶ崎

目標1 子どもが健全に過ごせる場づくり

■5年間の具体的な取組

- ①年少人口の増加に伴う多様化した居場所づくり。
- ②子育て中の親への支援の充実と交流の支援。
- ③中学生を積極的に地域活動へ参加を促し、親世代まで活動を広げる。



新鶴見子育て広場

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人 材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標2 世代を超えた住民間の交流

■5年間の具体的な取組

- ①様々な地域行事により住民の参加と交流を広げる。
- ②イベントなどを「きっかけ」とした顔の見える関係づくりの強化。
- ③総合防災訓練などを通じて災害に備えると共に、共助の動きかけを促進する。



餅つき大会

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人 材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

目標3 誰もが参加しやすい環境・見守り

■5年間の具体的な取組

- ①「誰にでも伝わる」地域の情報発信について工夫する。
- ②楽しく・気軽に・誰でも参加しやすい場と環境を整える。
- ③あいさつ運動をさらに浸透させ、住民間の交流を深める。



小中学校でのあいさつ運動

交流 多様な主体	支えあい 見守り	健康
人 材		
相互理解		
場・機会		

区計画とのつながり

2. これまでの取組について

<第3期計画の主な取組内容（平成28年度～令和2年度）>

支えあう・助け合う町 江ケ崎

目標1 子どもが健全に過ごせる場づくり

目標2 世代を超えた住民間の交流

目標3 誰もが参加しやすい環境・見守り

○5年間の活動の振り返り

子育て広場

毎月第2火曜日に開催。地域の情報交換、世代間交流の場になっています。

江ケ崎サマーフェスティバル

町のコミュニティづくりとして開催。毎年6千人を超える方が参加しました。

江ケ崎町総合防災訓練

ペット同行訓練、要援護者搬送訓練には中学生もボランティアとして参加しました。

あいさつ運動

小学校・中学校の入学式にて校門前で新入生や保護者に声掛けし、顔の見える関係づくりを行いました。



多世代の交流の場となっている江ケ崎サマーフェスティバル



中学生と救援協力者による搬送訓練

<第4期計画策定に向けて>

江ケ崎地区あいねっとアンケートを実施

令和元年8月、江ケ崎地区にお住まいの方を対象にアンケートを実施し、情報収集の方法や町の行事への参加などについて意見をお伺いしました。

アンケート結果の一部をご紹介します！
もっと住みやすくなるために、
今後充実するとよいと思うものは？

- 1位…こどもの居場所
- 2位…高齢者世帯の安否確認・見守り
- 3位…隣近所でのあいさつ・声かけ
- 4位…様々な世代の方が気軽に過ごせる場所

『江ケ崎あいねっと推進協議会』での振り返り

アンケート結果をもとに、令和元年11月28日(木)に江ケ崎地区の計画の振り返りを行いました。

<主な意見>

- ・中学生に防災訓練やサマーフェスティバル等の行事に積極的に参加してもらっている。
- ・参加者を限定しないいつでも気軽に立ち寄れるような場所があるとよい。
- ・行事はより多くの方が参加しやすい日時の設定が必要。
- ・声をかけてもらおうと嬉しい。まずは声をかけるという一歩が大切だと思う。



江ケ崎あいねっと推進協議会の様子

<話し合いを通して見えてきた課題>

- ・昔からの住民と新しい住民との交流
- ・SNSなどの情報発信ツールの活用
- ・気軽に集える場づくり

第4章

計画を推進するための体制・支援

第4期計画では、引き続き「たすけあい・支えあい・人と人のネットワーク」を基本理念として掲げ、区民の皆様、区役所、区社会福祉協議会、地域ケアプラザ、関係団体・機関等が連携しながら取組を進めます。



1 鶴見区の地域支援体制

鶴見区では、鶴見・あいねっとの推進に向けた地域活動支援とともに、地域の防災力向上に向けた支援も行い、地域の自主的な課題解決に向けた取り組みによる、より安全・安心に暮らせるまちづくりに取り組んでいます。

(1) 鶴見・あいねっと地区別支援チーム

地区別計画による福祉保健活動を支援するため、区役所職員・区社協職員・地域ケアプラザ職員・公立保育園長等で構成され、事務職・看護職・社会福祉職・地域活動交流コーディネーターなど様々な職種の職員が参加しています。メンバーそれぞれの組織や所属を超えて地域情報の共有を図り、地域とともに課題解決に向けた取組を進める横断的組織です。

災害に強い地域づくりに向けた支援のため、区役所防災リーダー、地域防災拠点担当者（参与）を中心に、防災啓発活動（地域防災拠点開設訓練等）の検討や、拠点運営に関する活動支援を行っています。

(2) アドバイザー派遣

鶴見区役所では、地域の課題解決やまちの魅力アップに取り組む活動団体に対して、助言等を行う専門アドバイザー（外部講師）を派遣しています。さらに、鶴見・あいねっと地区別支援チームへの助言や地区懇談会等でのコーディネートを担当するアドバイザースタッフの派遣も行っています。

2 区社会福祉協議会

(1) 区社会福祉協議会

社会福祉法第 109 条に基づき、地域福祉を推進することを目的に組織されている公共性・公益性の高い非営利の民間団体です。全国の都道府県や市区町村に一つずつ設置されており、「社協」という略称で呼ばれています。

地域の福祉に関する様々な悩みや困りごとを、住民の皆様と一緒に考え、解決を図ることを通じて、誰もが住みやすいまちづくりを進めています。

(2) 区社会福祉協議会の活動内容

◆地域活動等の支援に関すること

地区社協活動の支援 / ボランティア相談 / 福祉教育 / 福祉保健活動団体への支援（事業助成、活動拠点運営等） / 地域のネットワークづくり / 鶴見・あいねつとの推進等

◆高齢者、障害児者等の支援に関すること

送迎サービス / 移動情報センター / あんしんセンター / 障害児者関係団体の活動支援 / 生活福祉資金貸付 / フードバンク（食支援）等

3 地域ケアプラザ

地域の福祉保健の総合相談窓口として、地域住民に寄り添い、また、活動をコーディネート・サポートする、福祉保健の活動拠点として、区内 9 か所に設置されています。みなさんが住み慣れた地域で安心して生活できるよう、まちづくりにも取り組んでいます。

（各地域ケアプラザについては、関係機関一覧（P91）をご覧ください。）

<共通機能>

◆地域活動・交流

地域の福祉・保健活動の支援 / ボランティア活動の支援 / 自主事業の開催

◆生活支援体制整備

見守りのしくみづくり / 通いの場づくり / 生活支援のしくみづくり

◆地域包括支援センター

福祉保健に関する相談・支援の総合窓口 / 地域住民、事業者、医療機関などとのネットワークづくり / 介護予防・認知症予防などの事業開催、地域活動の支援

◆居宅介護支援

介護認定の申請・更新手続きの代行 / ケアプランの作成

※通所サービス事業（デイサービス）を行っている施設もあります。



4 関係団体・機関

鶴見区内にはさまざまな関係団体・機関があり、互いに連携し、区民の皆様とともに、誰もが安心して健やかに暮らせるまちづくりを進めています。

主な関係団体・機関について、鶴見・あいねっと推進委員会※のメンバーの活動紹介とともにご紹介します。

※鶴見・あいねっと推進委員会とは

区民、区社会福祉協議会、地域ケアプラザ、区役所が協働し、「鶴見区地域福祉保健計画（鶴見・あいねっと）」及び地域福祉保健関係事業等を着実に推進するための組織です。

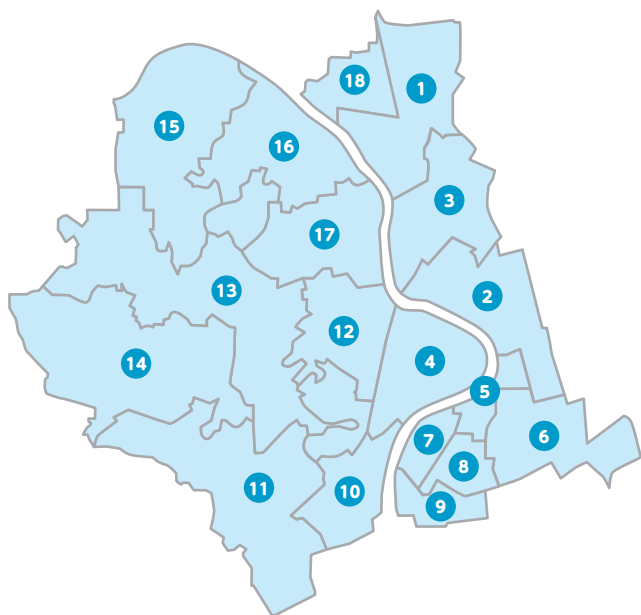
地域福祉保健関係団体の代表者、福祉関係団体（ボランティア団体、区内福祉施設など）、学識経験者などで構成されています。

(1) 自治会・町内会

自治会・町内会は地域住民相互の連帯感を育て、地域の福祉・環境・防犯・防災等、さまざまな課題に取り組んでいる自主的・民主的な任意組織です。

鶴見区内には、126 の単位自治会があり、自主的に地域福祉活動・レクリエーション活動・防災防犯活動などさまざまな活動をしています。

この単位自治会が地域ごとに集まって17の地区連合自治会を形成しています。



- | | |
|----------------|--------------|
| ① 矢向地区連合町内会 | ⑩ 生麦第一地区連合会 |
| ② 市場地区自治会連合会 | ⑪ 生麦第二地区連合会 |
| ③ 市場地区第二自治連合会 | ⑫ 豊岡地区連合会 |
| ④ 鶴見中央地区自治連合会 | ⑬ 寺尾地区自治連合会 |
| ⑤ 潮田中央地区連合会 | ⑭ 寺尾第二地区連合会 |
| ⑥ 潮田東部地区自治会連合会 | ⑮ 駒岡地区連合会 |
| ⑦ 潮見橋地区連合会 | ⑯ 上末吉地区自治連合会 |
| ⑧ 潮田西部地区自治連合会 | ⑰ 法人下末吉連合会 |
| ⑨ 小野町地区自治連合会 | ⑱ 江ヶ崎町内会 |

地域住民で話をする場・機会や“顔と顔の見える関係づくり”を大切にしながら、誰もが安心して健やかに暮らせるまちづくりに向けて、区民の皆様、関係団体・機関と一緒に取り組んでまいります。

生麦第二地区連合会長 杉浦 節子



(2) 地区社会福祉協議会（地区社協）

地区社協は地域住民の最も身近な福祉活動を行う団体として、地域の人達の「自分の地域は自分で良くして行こう」という気持ちで組織された任意の団体です。

高齢者食事会・見守り活動・親子の集い・福祉保健講座・広報紙発行など、各地区の実情にあわせてさまざまな活動を行っています。

(3) 民生委員・児童委員

民生委員・児童委員は地域住民の身近な相談相手であり、支援を必要とする住民と行政や専門機関をつなぐパイプ役となっています。

自治会・町内会（主任児童委員は自治連合会）からの推薦により、厚生労働大臣が委嘱をしています。なお、民生委員は児童福祉法により児童委員を兼務しています。

私達区民を取り巻く環境は複雑多岐に渡っています。このような状況の中で、地域における「身近な相談役」として常に住民の立場に立って人々の暮らしを支え、やりがいを持って、支援が必要な人を見逃さないよう「見守り活動」を行い、関係機関につなぐ「つなぎ役」として活動しています。

鶴見区民生委員児童委員協議会会長 小林 政晴



(4) 主任児童委員

主任児童委員は児童福祉に関する事項を専門的に担当する民生委員・児童委員です。

児童福祉に関するさまざまな相談に応じ、学校や児童相談所と連携して子どもの健全育成に取り組んでいます。

(5) 保健活動推進員

保健活動推進員は、自治会・町内会の推薦により市長が委嘱します。地域の健康づくりの推進役、行政の健康施策のパートナー役として、地域において生活習慣病予防などの健康づくり活動を行います。

横浜市の健康づくり施策の指針となる計画「健康横浜 21」の地域における推進役として、地域の人々の健康を支えるための活動を行っています。

皆さんが、住み慣れた地で明るく・楽しい日々を過ごせるまちづくりを目指し、コロナ禍において検温や手指消毒等、感染予防対策を講じ、出来る限り活動を続けてまいりました。

体操教室や有事の際の避難所確認を兼ねたウォーキングなど、体力向上を目標とした活動に力を入れています。

鶴見区保健活動推進員会会長 増子 眞智子



(6) 鶴見区老人クラブ連合会

老人クラブは、地域を基盤とする高齢者の自主的な組織として、仲間づくりを通し、生きがいと健康づくり・生活を豊かにする楽しい活動を行っています。その知識や経験を生かして関係団体・機関と協働し、地域を豊かにする社会・明るい長寿社会の実現や保健福祉の向上を目指しています。

機会に恵まれ、生き生きと暮らしている人も多くいる一方、話し相手にも恵まれず、心細い想いで暮らしている人も多くいます。私達は、「たすけあい・支えあい」をモットーに、身近な地域の方同士声をかけ合い、親しみやすい地域づくりに向けて皆様と取り組みを進めていきます。

鶴見区老人クラブ連合会会長 烏田 次雄



(7) 鶴見区地域子育て支援拠点「わっくんひろば」

地域子育て支援拠点は、0歳から就学前の子どもとその保護者、妊娠中の方とその家族、子育て支援に取り組む方たちが利用できる施設です。フリースペースの提供・子育て相談・子育て情報の提供・研修会の開催などを行っており、利用登録のうえ無料で利用できます。鶴見区には、「わっくんひろば」(豊岡町)と「わっくんひろばサテライト」(尻手)があります。

子育て中は人とのふれあいが大切。子どもを遊ばせながら世間話や相談ができる居場所と、困った時に子どもを預かってくれる人が必要です。そんな居場所作りと地域での預け合いをサポートしながら、妊娠期からたくさんの人に囲まれて、安心して子育てできるまちを目指しています。

「わっくんひろば」施設長 富樫 あかね



(8) 鶴見区障害児・者団体連合会

鶴見区内の障害児・者に対する社会理解を深め、関係団体・機関の連携を強化し、当事者の社会参加及び自立を目指しています。福祉の向上を図るため、バザーや障害者週間キャンペーンなどの行事の開催、障害児・者が製作した製品の区役所・駅・地域ケアプラザでの販売促進など、さまざまな活動を行っています。連合会には、地域作業所・地域活動ホーム・グループホーム・当事者団体などが加盟しています。

区内事業所や各当事者団体同士が連携し、さまざまな行事などを企画・実施することで、障害児・者の暮らしが充実するよう活動してきました。鶴見区が、障害にかかわらず、これまで以上にお互いのことを理解し認めあえるまちになることを願っています。

鶴見区障害児・者団体連合会会長 藤田 美智子



【コラム】 さまざまな関係団体・機関を紹介します！

まめっこひろば（横浜市乳幼児一時預かり事業）

預かり保育や親子で集まれる会、保育付きママ企画など子育て家庭への応援をしています。子育ては体も心もフル回転…心身への負担が蓄積されて疲弊する前に、肩の力を抜いてもらうための場所です。ほんの少しお子さんと離れる時間を持つだけで、体調不良や緊張から解放されたりします。自分を取り戻す時間が持てると、余裕が生まれ、笑顔になれたり優しくなれたりします。

令和3年12月に活動場所を移転し、よりアットホームな雰囲気になりました。どうぞ自分の為に…家族の為に…ご利用ください。



子どもを安心して預けられる環境です！

鶴見区精神障害者家族会 のぞみ

こころの病を持つ方のご家族が、支え合いながら活動を行っています。懇談会、バスハイク等を通じ、同じ立場の家族が話し合い、交流しています。

また専門家を招いての講演会では、病気についての理解や対応の仕方を学んでいます。30名の会員（令和3年8月現在）がおり、家族会役員による家族相談も実施しています。（毎月第2水曜日の午後2時から4時まで。鶴見区在住のご家族が対象）



バスハイクの様子（小田原城見学）

多文化共生の取組が広がっています

鶴見区には大勢の外国につながる方々が住んでおり、地域住民、関係団体・機関等により、多文化共生のまちづくりに向けたさまざまな取組が行われています。

NPO 法人こんにちは・国際交流の会では、日本語ボランティアが中心となって、「日本語教室」をはじめ「国際理解講座」や「国際交流のための茶道体験・着物体験」など様々なイベントを企画・実施し、相互理解の輪を広げられるよう取り組んでいます。



馬場花木園での茶道体験（令和元年度）

介護者の集い～介護者の横のつながりが大切～

鶴見区では、家庭で高齢の家族を介護している人を対象とした介護者の集いを開催しています。介護者の集いは、介護している者同士で互いに介護の苦労や悩みなど本音を打ち明け合う、笑いあり、涙ありの場となっています。活動を通して「介護者の心のケアや孤立を防ぐためには、介護者同士の横のつながりが大切」と会の代表はお話されています。これからも、介護者に寄り添いながら、活動を続けていきます。



「おりづる会」の様子

鶴見区社協ボランティア・市民活動団体分科会

区内のボランティア・市民活動団体 39 団体が、定例会や交流会を開き、連携を強化しています。また、障害者支援施設などへの施設見学や勉強会、講座の機会を設けて、活動者としてのスキルアップを図っています。令和3年度は「コロナ禍での活動講座」を開き、講師を招いて、休止中の活動をいかに転換して再開するかを学びました。

例年の鶴見・あいねっと推進フォーラムでは、各団体のパネル発表を行い、地域住民への周知に努めています。



ボランティア活動者が集まり、みんなで学びます

公園の環境づくりを通じた障害者の地域交流

障害者地域活動ホーム「つるみ地域活動ホーム幹」の活動では、障害のある利用者と公園愛護協会が協力し北寺尾4丁目公園の清掃活動をはじめ、以来、「七夕かざり」や「クリスマスイルミネーション」等近隣住民と一緒に行うイベントとして実を結び、広がりを見せています。今年は、『花壇に彩を添えよう！』と利用者が種付け・種まきを行い、見事な花が咲きました。

小さな公園の活動を通じて、「共に支え合う」関係として花が開いています。これからも大切に育てていきたいと思えます。



花壇への水やりは、大切な活動のひとつ

5 第4期計画の評価指標

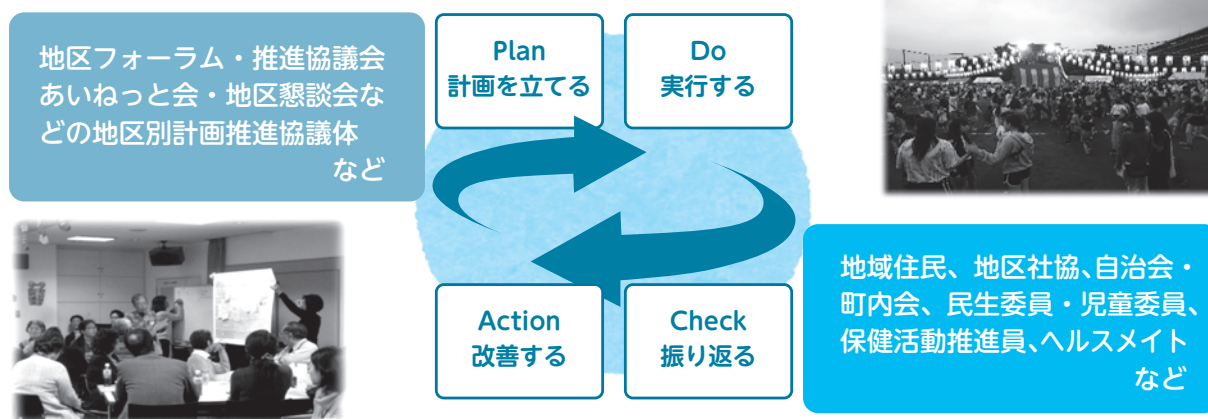
今後の第4期計画の推進状況を把握するため、次の視点を取り入れながら振り返り、取組の評価指標とします。

取組を進めることで地域の交流が深まり、住民が安心して健やかに暮らせる住みよいまちになることを目指します。指標の達成は一人ひとりの幸せにつながるとともに、幸せな生活をみんなで支える地域の実現に近づく目安となります。

指標	考え方	現状値		目標値
鶴見区の住み心地	区民アンケートにおいて鶴見区の住み心地が「住みやすい」「どちらかというに住みやすい」を合わせた割合	74.8% (平成26年度)		
近所付き合いの頻度	区民アンケートにおいて「困ったときに相談、助け合いができる」「簡単な頼みごとができる」「たまに世間話や立ち話をする」「顔を見ればあいさつをする」を合わせた割合	89.9% (平成26年度)	91.2% (令和元年度)	
地域活動の経験率	区民アンケートにおいて「何らかの活動をしている」割合	27.5% (令和元年度)		
災害時の助け合い意識	区民アンケートにおいて災害時の地域の助け合いには顔の見える関係が「とても必要」「必要」を合わせた割合	91.5% (平成26年度)	85.5% (令和元年度)	
健康診断の受診率	区民アンケートにおいて「この1年間に健康診断を受けた」割合	77.8% (平成26年度)	80.1% (令和元年度)	
歯科健診の受診率	区民アンケートにおいて「この1年間に歯科健診を受けた」割合	52.9% (平成26年度)	57.4% (令和元年度)	
地域の居場所数	区内の「地域子育て支援拠点」「地域子育て支援拠点サテライト」「つるみ・ふらっとるーむ」「親と子のつどいの広場」高齢者の「居場所・サロン」、「認知症カフェ」の合計	161か所 (平成28年度)	263か所 (令和元年度)	

取組を振り返り、よりよい取組につなげる「PDCAサイクル」

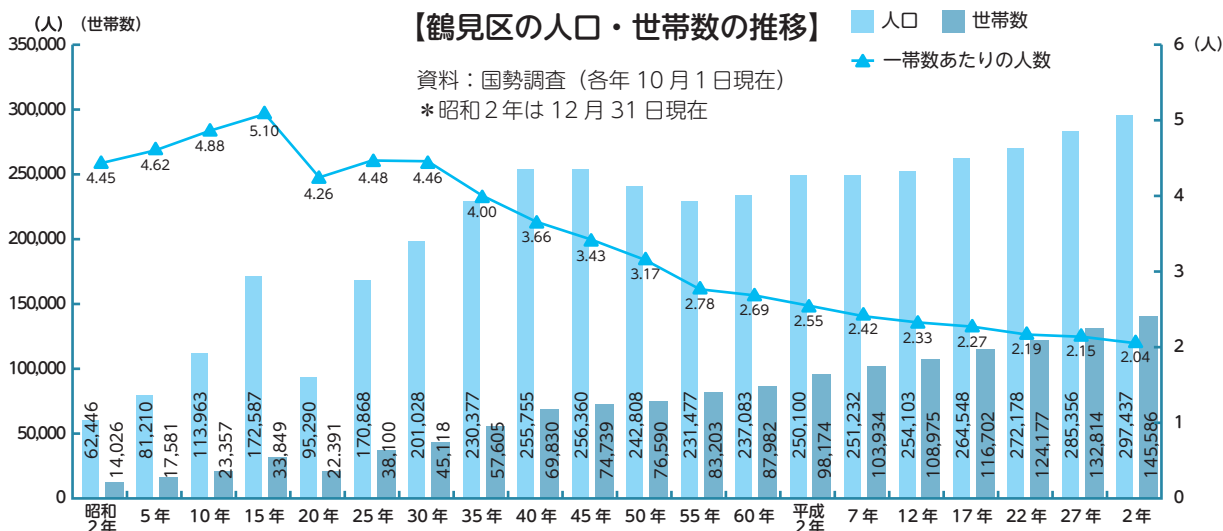
目に見える成果だけではなく、そのプロセスや理解者を増やす、他機関との連携ができることも大切です。



1 人口及び世帯数

人口はゆるやかに増加、一世帯あたりの人数は減少傾向

- ・令和2年10月1日現在、鶴見区の人口は297,437人(市内第3位)、世帯数は145,586世帯(市内第2位)となっています。
- ・人口、世帯数ともに増加傾向にあります。一世帯あたりの人数は減少しています。

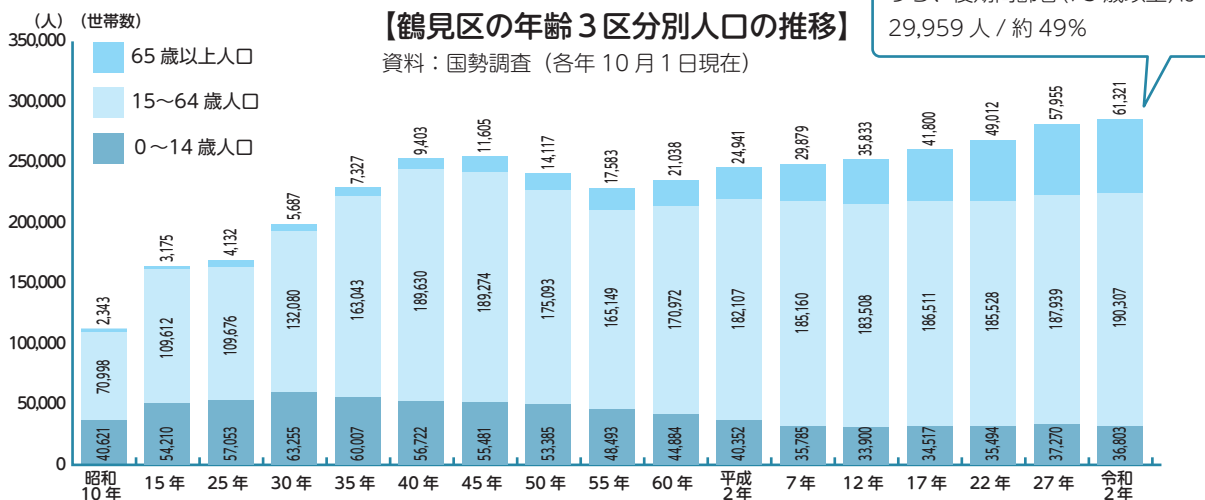


出典：発見つるみ～データで見る鶴見区～

2 年齢3区分別人口

65歳以上人口が増加

- ・65歳以上人口(老年人口)の増加が進んでおり、平成12年に0～14歳人口(年少人口)と65歳以上人口の数が逆転した後、近年その差が広がる傾向にあります。
- ・令和2年の65歳以上人口(老年人口)のうち、前期高齢者(74歳以下)の割合は約51%、後期高齢者(75歳以上)の割合は約49%となっています。



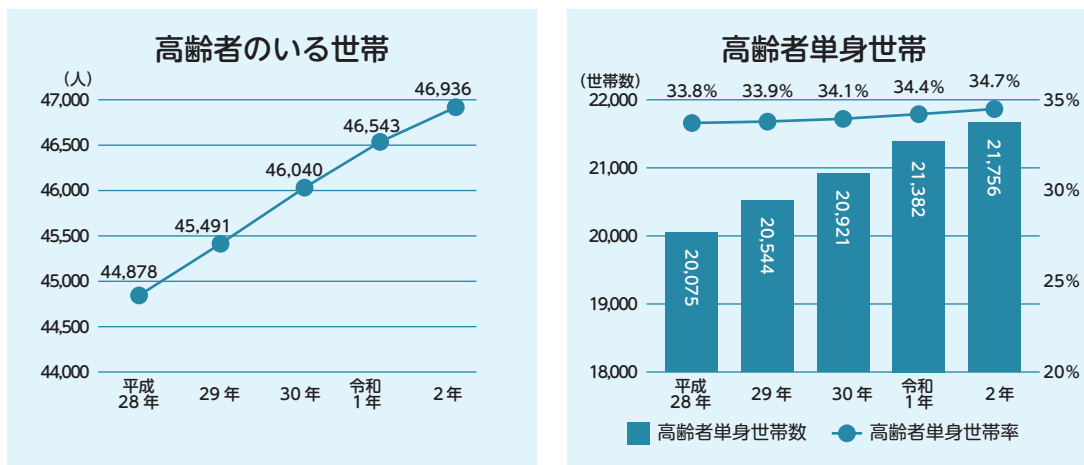
出典：発見つるみ～データで見る鶴見区～

3 65歳以上の方がいる世帯数

高齢者単身世帯が特に増加

- ・ 高齢者のいる世帯は2016年(平成28年)から2020年(令和2年)の間に2,058世帯増え、高齢者単身世帯は1,681世帯増えています。
- ・ 高齢者のうち、高齢単身者の割合は概ね33%～35%前後となっています。

【65歳以上の方がいる世帯数の推移】



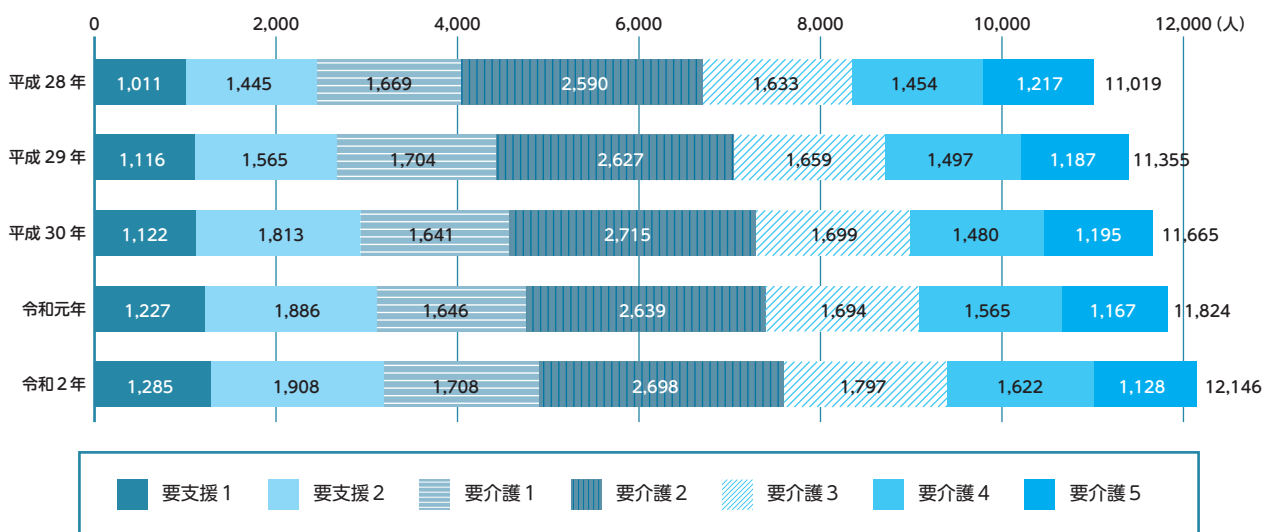
出典：要介護認定データ（区別高齢者世帯数）

4 要介護認定者数

要介護認定者数が年々増加

- ・ 要支援・要介護認定者は2016年(平成28年)から2020年(令和2年)の間に1,127人増えています。
- ・ 令和2年末の要介護認定者数は、18区中4番目の多さになっています。

【鶴見区の要介護認定者数の推移】



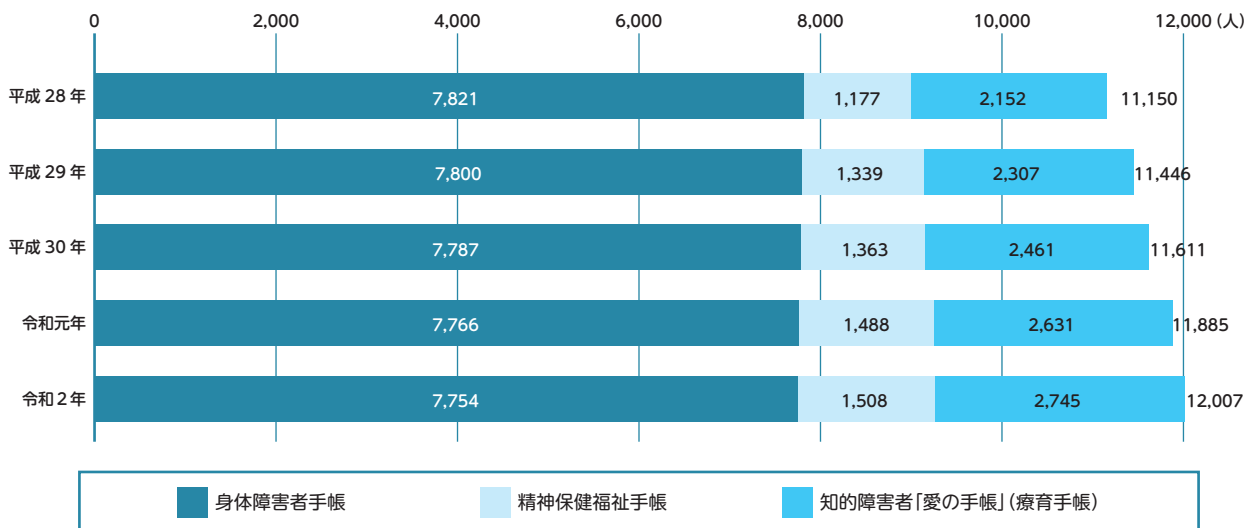
出典：要介護認定データ（区別・町別認定者数）

5 各種障害者手帳 所持者数

手帳の所持者数が年々増加

- ・各種障害者手帳所持者数は2016年(平成28年)から2020年(令和2年)の間に857人増えています。
- ・交付状況を見ると、「身体障害者手帳」は横ばい、「精神保健福祉手帳」と「愛の手帳」は増加傾向にあります。

【鶴見区の各種障害者手帳所持者数の推移】

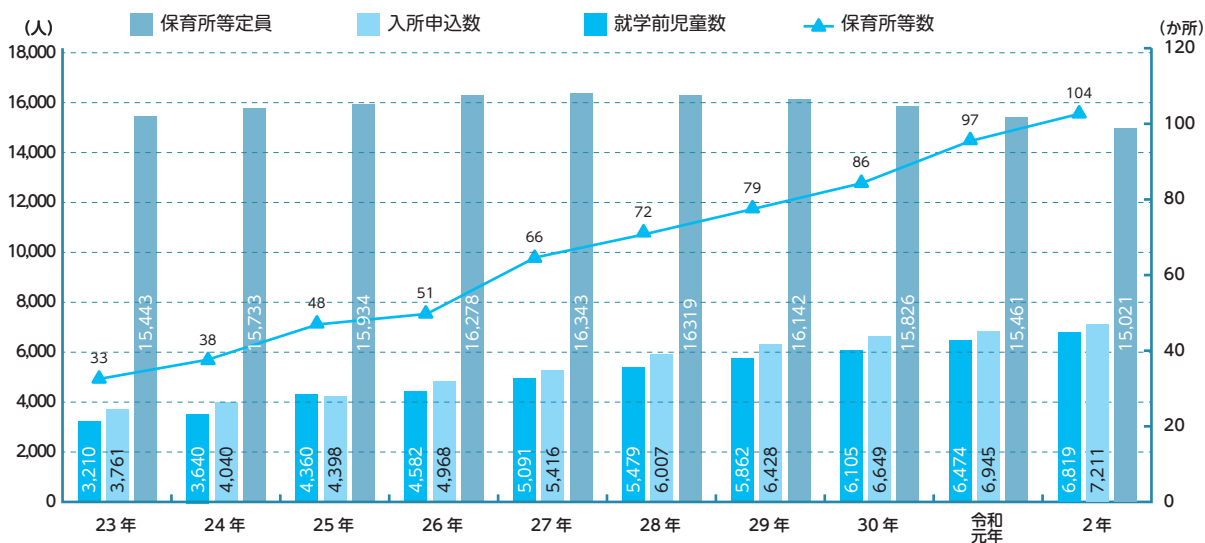


出典：横浜市統計書

6 保育所等の利用状況

保育所数、保育所等定員、入所申込が増加傾向

- ・就学児童数は減少傾向ですが、入所申込数は増加しています。
- ・就学前児童数、保育所等定員数ともに市内第2位(第1位：港北区)となっています。



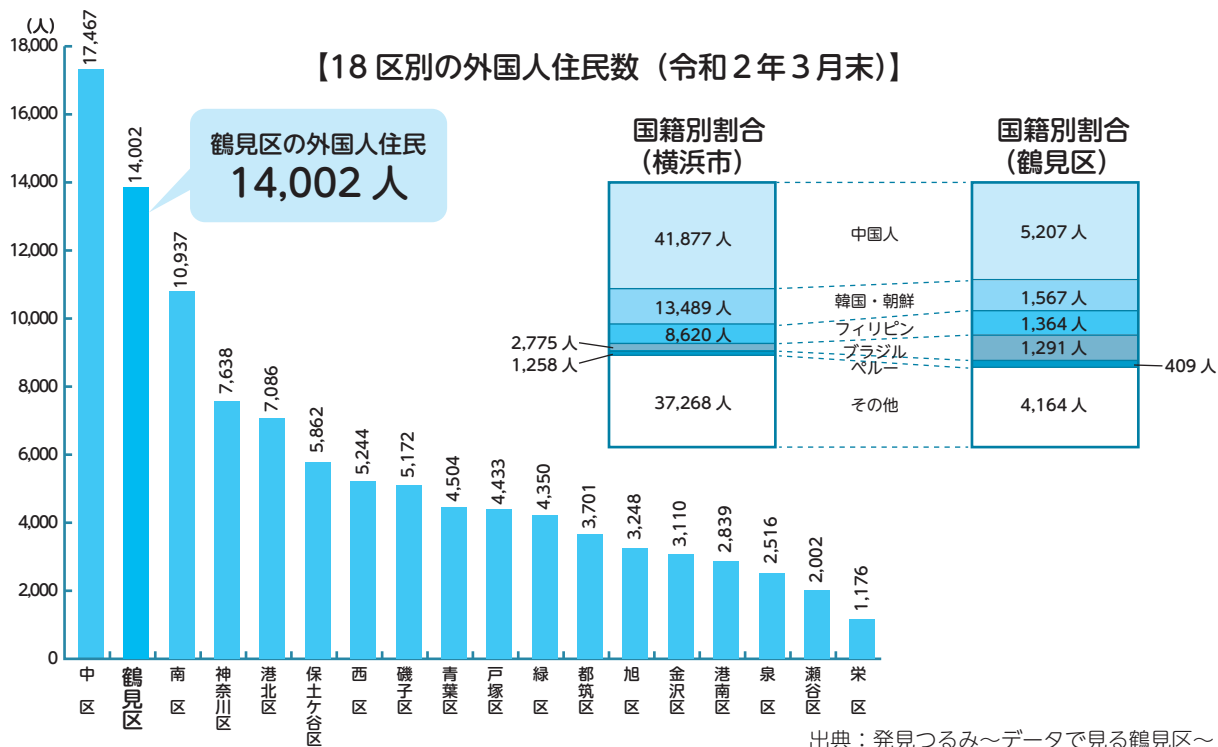
出典：発見つるみ～データで見る鶴見区～

保育所等：平成27年4月からは保育所・幼保連携型認定こども園のほか、地域型保育(家庭的保育、小規模保育、事業所内保育)を含む

7 外国人住民数

外国人住民数は、市内で第2位

- ・国籍別に見ると、中国、韓国・朝鮮、フィリピンの順に多く、横浜市全体と比べるとブラジルの構成比が大きくなっています。
- ・鶴見区は令和2年5月1日現在の外国人児童数が496人で、18区中第1位となっています。



鶴見区から始まる多文化共生 （横浜市立東高等学校の取組）

鶴見区馬場にある横浜市立東高等学校では、次世代を担う高校生に対し、持続可能な社会づくりの担い手育成を始めています。令和3年6月23日及び24日の2日間には、「Glocal Citizenship Camp（グローバル・シチズンシップ・キャンプ）」が行われました。1年生273人全員と約40人の留学生が英語で議論し、互いの考えをチームで理解していくプログラムで、生徒は6～7名1組に分かれ、留学生と終日行動を共にします。東高校はユネスコスクール認定校として、“他人・社会・自然環境との関係性を知り、つながりを尊重できる人”を育てています。

こうした取組は、学校内にとどまりません。こども達だけでなく皆で多様性を学び、関心を持つことが重要です。

住む地域に一步踏み出すことで、多様な文化に触れ、誰もが安心して暮らせるまちづくりを、一緒に考えてみませんか？



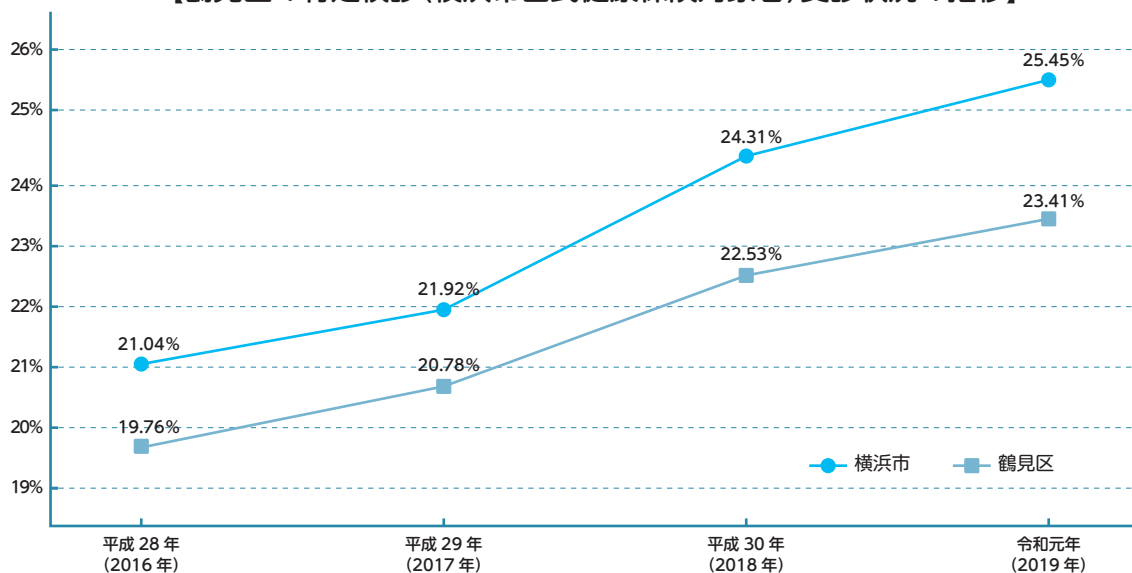
さまざまな国からの留学生と触れ合います

8 特定検診受診率（横浜市国民健康保険対象者）

受診率は向上してきているも、市平均より下位

- ・令和元年の鶴見区の特定検診受診率（横浜市国民健康保険対象者）は23.41%で、横浜市平均25.45%より低くなっています。

【鶴見区の特定検診（横浜市国民健康保険対象者）受診状況の推移】



* 特定検診受診率 = 検診受診者数 ÷ 検診対象者数

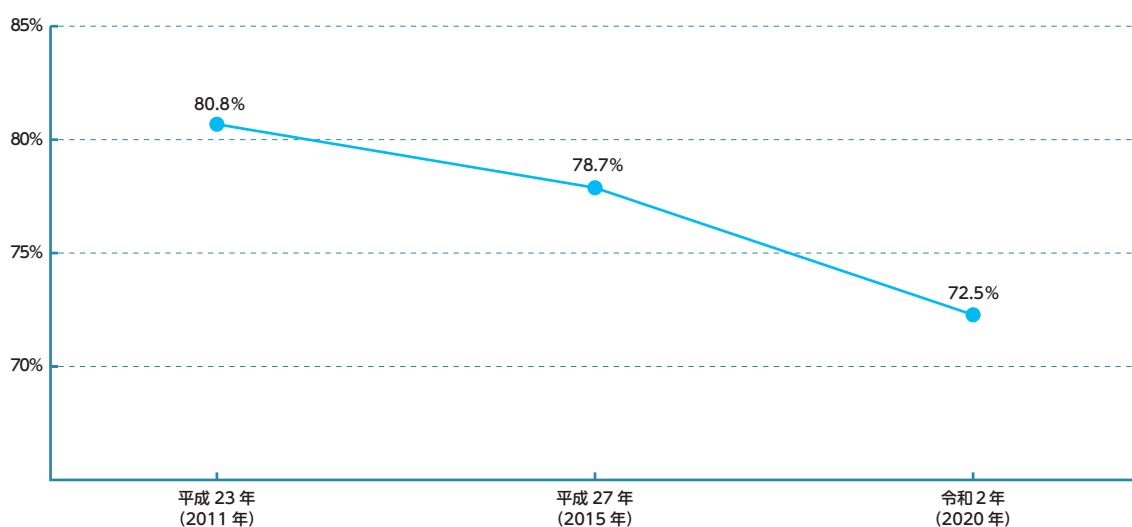
出典：横浜市統計書

9 自治会・町内会の加入率

加入率が年々減少

- ・平成 23 年の自治会・町内会加入率は 80.8%でしたが、年々加入率が下がってきており、平成 27 年には 78.7%、令和 2 年には 72.5%となっています。

【鶴見区の自治会・町内会加入率の推移（各年 4 月 1 日）】



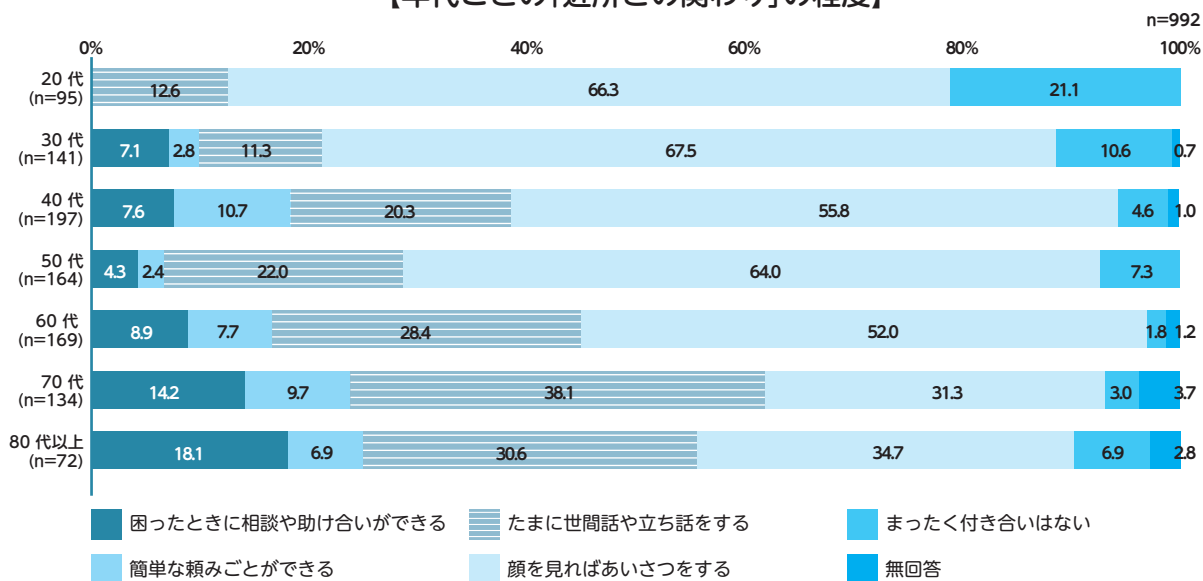
出典：市民局地域活動推進課

10 近所との関わり（現状及び今後の希望）

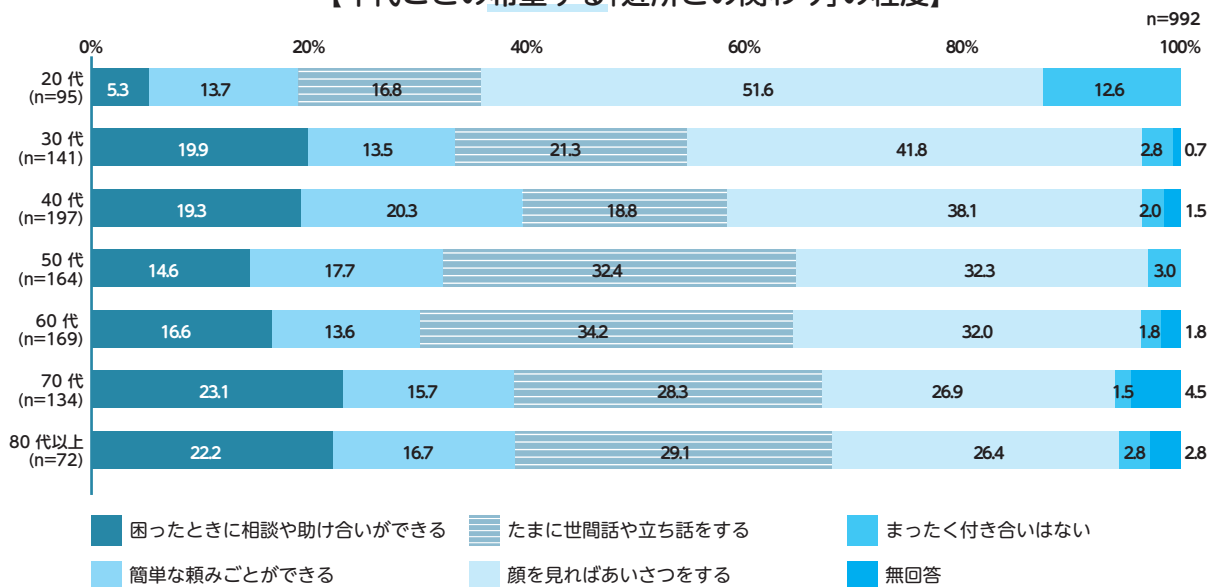
年代を問わず、つながりのある地域づくりを望む人が多数

- ・現状は、年代が高くなるほど地域とのつながりを強く持つ傾向があります。
- ・しかし、今後の希望では、世代を問わず多くの人がつながりを求めており、近所の人とあいさつ以上の「立ち話」や「簡単な頼みごと」、「困ったときの相談や助けあい」ができるよう望んでいます。

【年代ごとの「近所との関わり」の程度】



【年代ごとの希望する「近所との関わり」の程度】



出典：令和元年度第4期鶴見区地域福祉保健計画区民アンケート調査

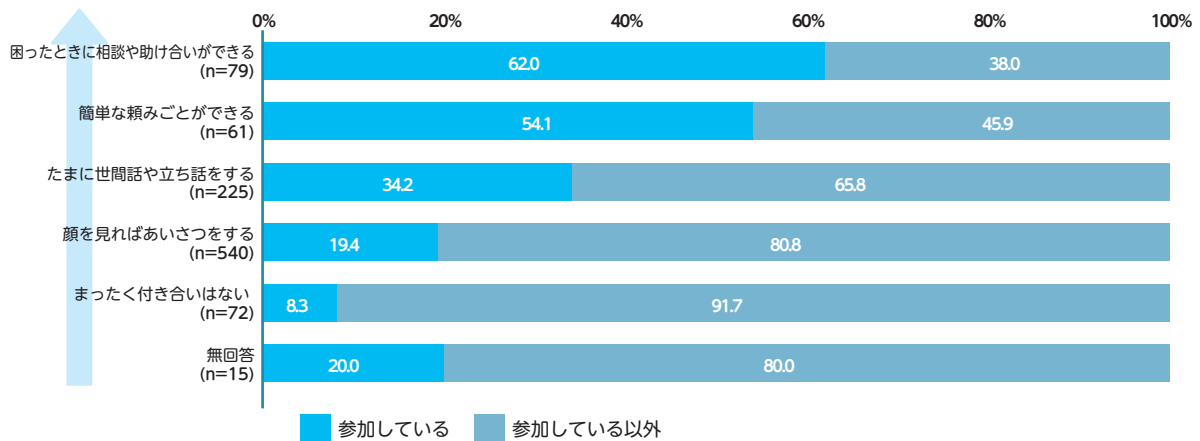
11 近所付き合いと地域活動参加状況の関係性

日頃の近所付き合いが親密であるほど、地域は元気に

- ・近所付き合いが親密になると、地域活動（地域行事や地域の見守り、体操やウォーキング等健康づくりなど）への参加率も高まり、まちに活気が生まれます。

【近所の人との付き合いごとの「地域活動」参加状況】

何らかの地域活動に参加していますか。 n=992



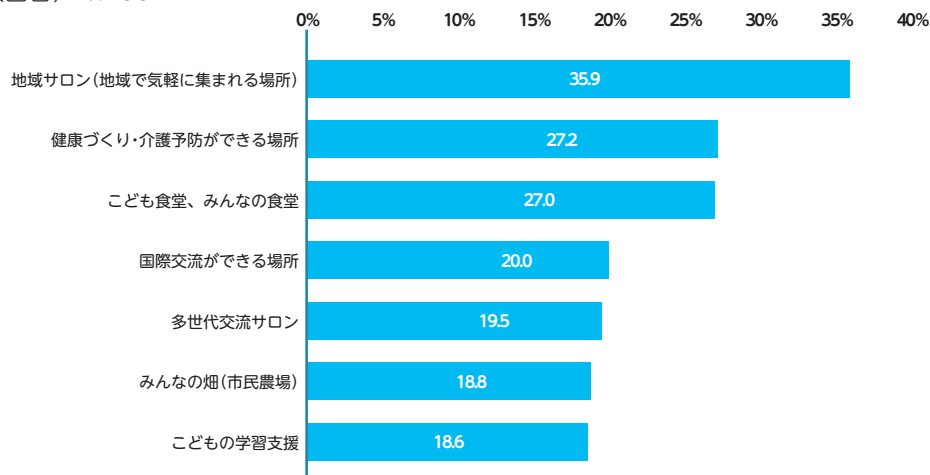
出典：令和元年度第4期鶴見区地域福祉保健計画区民アンケート調査

12 地域で求められている交流の場

身近に・気軽にふれあえることで、つながりが生まれる

- ・あったらうれしい交流の場として地域サロンが人気を集めており、身近で気軽な居場所が求められています。
- ・その他、健康づくり・介護予防ができる場所、こども食堂やみんなの食堂などにも需要があります。

地域の中で、あったらいいと思う交流の場について教えてください。(〇は3つまで)
(複数回答) n=992



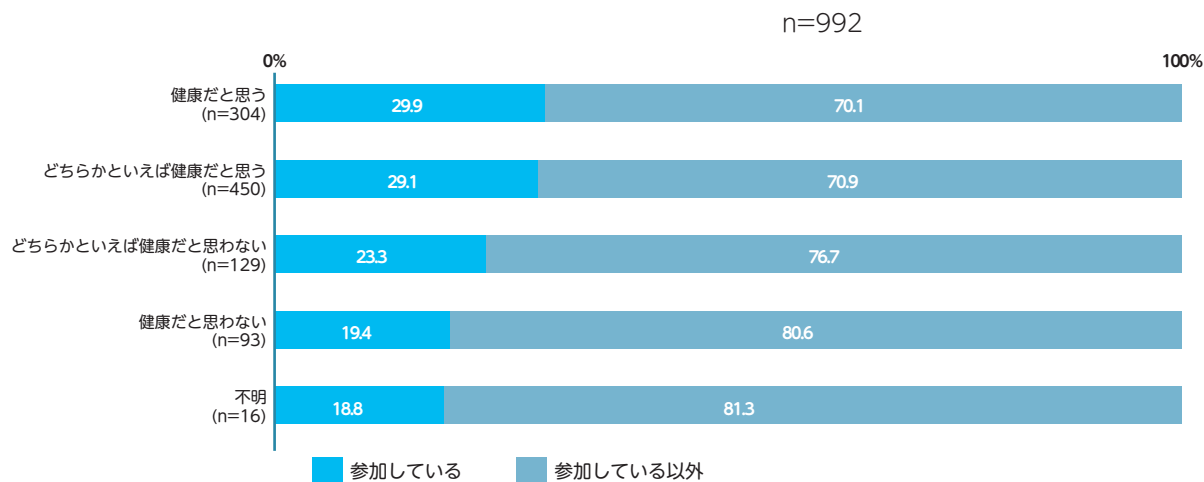
出典：令和元年度第4期鶴見区地域福祉保健計画区民アンケート調査

13 健康観と地域活動参加状況の関係性

地域活動に参加している人ほど、健康観が充実する傾向に

- ・地域活動に参加しているほど、自身のことを「健康」「どちらかという健康」と回答する人が増える傾向にあります。地域のつながりは、住民の健康にも良い影響を与えます。

【健康観ごとの、地域活動参加状況】



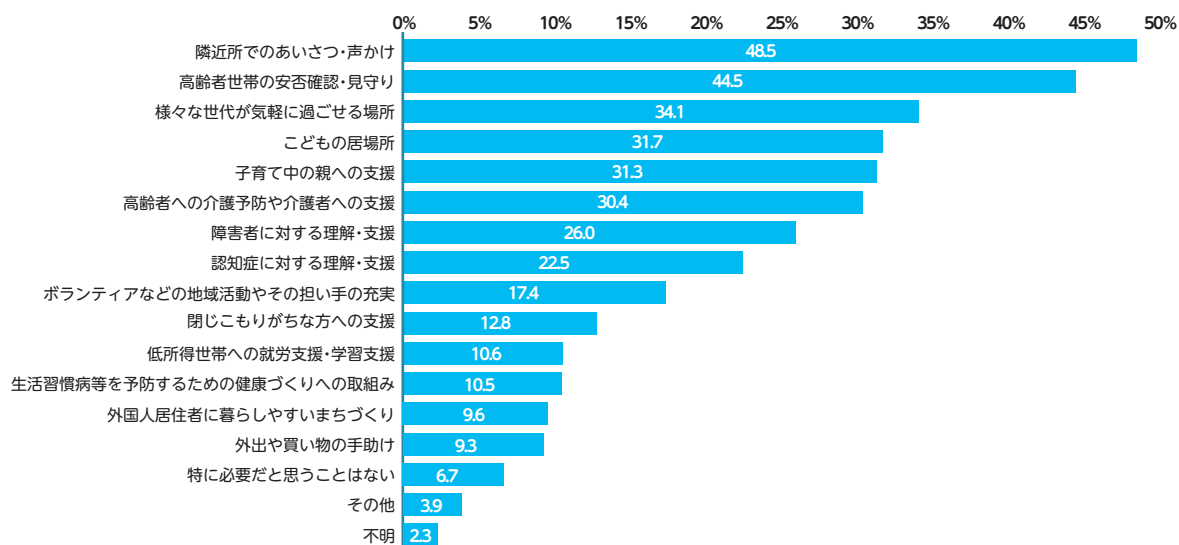
出典：令和元年度第4期鶴見区地域福祉保健計画区民アンケート調査

14 地域で求められている福祉保健活動

世代を超えた交流の充実は、まちの住みやすさに直結

- ・より住みやすい地域になるよう、近所でのあいさつや見守りを通じてゆるやかにつながることを多くの人が望んでいます。さらに、世代を超えて気軽に過ごせる居場所にも充実を願う声があります。

お住まいの地域がもっと住みやすくなるために、どのようなことが今後充実するとよいと思いますか？ (〇は5つまで) (複数回答) n=992



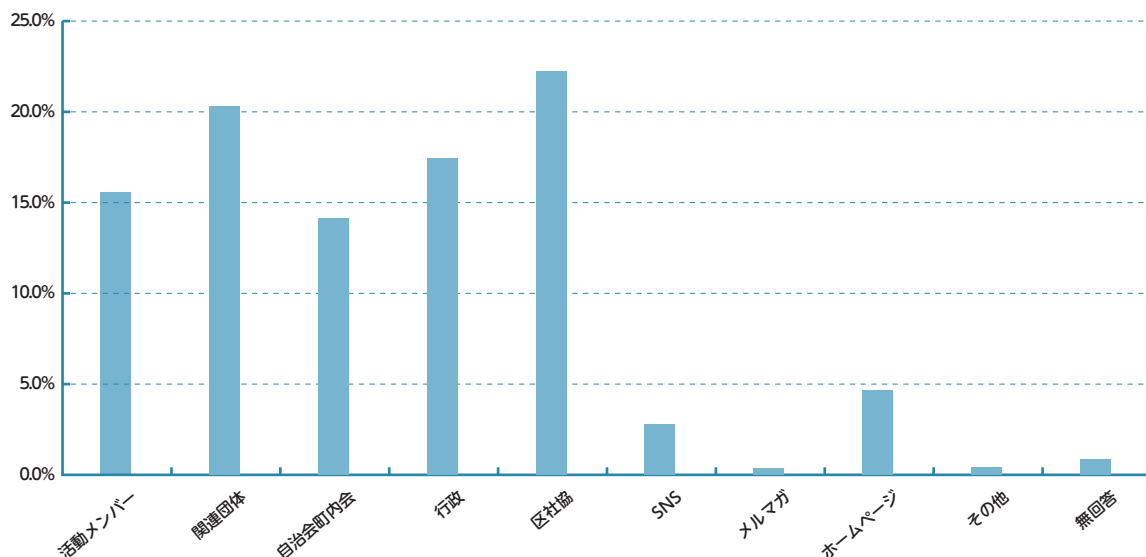
出典：令和元年度第4期鶴見区地域福祉保健計画区民アンケート調査

15 活動団体における必要な情報の入手先

活動団体同士の輪を広げ、連携を深めることが必要

- ・区内の福祉関係団体・機関や自治会・町内会、区役所、区社会福祉協議会などは、日頃から情報交換を進めています。これまで以上に連携を広げ、よりよい地域づくりにつなげることが大切です。

団体活動に必要な情報はどこから得ているか (n=210) *複数選択可



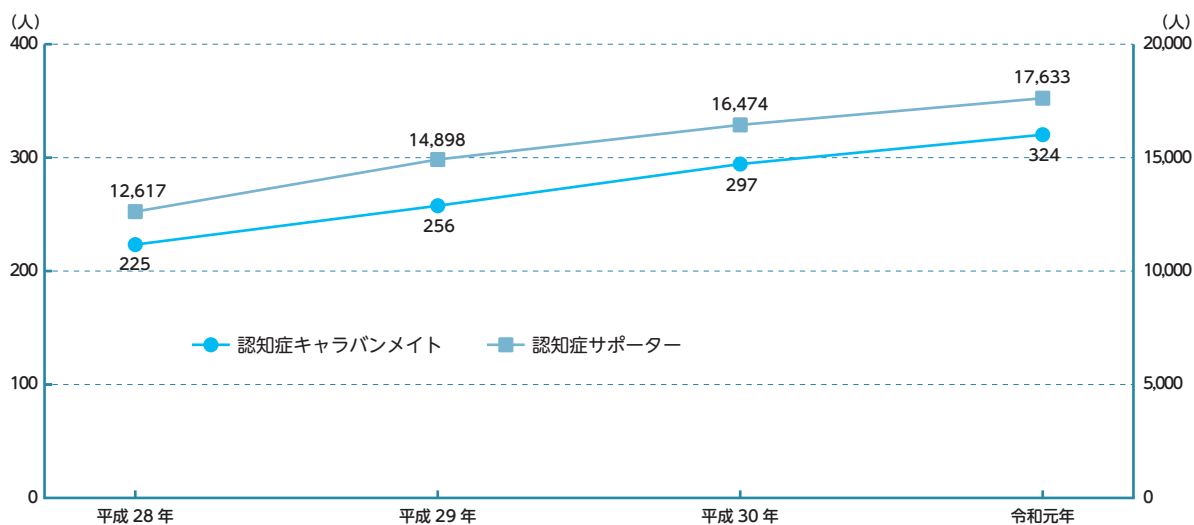
出典：令和元年度鶴見区社協関係機関団体アンケート：区社協会員を対象に、令和元年10月～11月に実施

16 認知症キャラバンメイト及び認知症サポーターの数

支援が必要な人・家族への理解を深め、見守り支えあえる地域へ

- ・高齢化が進む中、認知症がある人を地域で見守り支えあう体制づくりが進んでいます。相談できる場所につなげる、簡単な手助けをする「サポーター」が増えています。

【認知症キャラバンメイト・認知症サポーターの数】



出典：鶴見区高齢・障害支援課

関係機関一覧

鶴見区役所

課 名	電話番号 (045)	FAX (045)
総務課	510-1653	510-1889
区政推進課	510-1678	504-7102
地域振興課	510-1687	510-1892
高齢・障害支援課	510-1768	510-1897
こども家庭支援課	510-1797	510-1887
生活支援課	510-1782	510-1899
福祉保健課	510-1826	510-1792

地域ケアプラザ・地域包括支援センター

名 称	電話番号 (045)	FAX (045)
潮田地域ケアプラザ	507-2929	507-2930
矢向地域ケアプラザ	573-0020	573-0027
寺尾地域ケアプラザ	585-5566	585-5737
東寺尾地域ケアプラザ	584-0129	570-6202
駒岡地域ケアプラザ	570-6601	570-6602
鶴見市場地域ケアプラザ	504-1077	500-6677
鶴見中央地域ケアプラザ	508-7800	508-7808
生麦地域ケアプラザ	510-3411	510-3018
馬場地域ケアプラザ	576-4231	576-4233

福祉保健関係・拠点施設等

名 称	電話番号 (045)	FAX (045)
鶴見区社会福祉協議会(鶴見区福祉保健活動拠点)	504-5619	504-5616
鶴見区基幹相談支援センター	580-5066	582-1313
鶴見区生活支援センター	576-3173	576-3172
鶴見区地域子育て支援拠点 わっくんひろば(豊岡)	582-7590	582-7591
鶴見区地域子育て支援拠点 わっくんひろばサテライト(尻手)	642-5710	585-0051
鶴見国際交流ラウンジ	511-5311	511-5312
つるみ区民活動センター	510-1694	510-1716

鶴見・あいねっと推進委員会メンバー紹介

(令和4年3月31日現在)

氏名	団体・役職名
杉浦 節子	生麦第二地区連合会長、鶴見区自治連合会前福祉保健部長
八森 淳	学識経験者（株式会社メディコラボ研究所 代表取締役）
石井 キヨ子 (令和3年度から)	鶴見区社会福祉協議会
大野 鎮夫 (令和2年度まで)	ボランティア・市民活動団体分科会 会長
板山 重樹 (令和3年度から)	駒岡地域ケアプラザ 所長
桑島 主税 (令和2年度から令和3年9月末まで)	馬場地域ケアプラザ 前所長
加藤 賢次 (令和元年度まで)	鶴見市場地域ケアプラザ 前所長
高橋 真登香 (令和元年度まで)	潮田地域ケアプラザ 前所長
富樫 あかね	鶴見区地域子育て支援拠点「わっくんひろば」 施設長
押山 道代	横浜市乳幼児一時預かり施設「まめっこひろば」 リーダー
斉藤 達之	障害者地域活動ホーム「つるみ地域活動ホーム 幹」 施設長
小林 政晴 (令和2年度から)	鶴見区民生委員児童委員協議会 会長
神保 修治	鶴見区民生委員児童委員協議会 前会長
西澤 昭彦 (令和元年度まで)	鶴見区民生委員児童委員協議会 前副会長
増子 眞智子	鶴見区保健活動推進員会 会長
渡邊 浩	鶴見区保健活動推進員会 副会長
烏田 次雄	鶴見区老人クラブ連合会 会長
門脇 正司	鶴見区スポーツ推進委員連絡協議会 会長
川合 桃江	鶴見区介護者の会「おりづる会」 世話人代表
福井 司臣	精神障害者家族会 鶴見区家族会「のぞみ」 会長
藤田 美智子	鶴見区障害児・者団体連合会 会長



あいねっちゃんのはじめの一步

あなたの年齢は？



0歳



18歳



50歳



65歳



75歳



- 推進の柱**
- 1 地域づくり
つながりのある
 - 2 必要ときに
支援が届く
地域づくり
 - 3 健やかに
暮らせる
地域づくり

- 推進の土台**
- 人材
 - 相互理解
 - 場・機会

学校に向かうとき、
信号で声をかけて
くれる人がいる。
元気にあいさつできた！



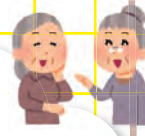
近所の友達とバンドを始めたら、
お隣さんからカラオケ大会
の伴奏を頼まれた。
“好きなこと”から地域デビュー！



子どもの通う小学校の
「おやじの会」に行っ
てみたら、思ったより気軽に
続けられそう！
他のパパとの飲み会、
楽しみだな～



朝の散歩の途中に
いつも世間話をするご近所さん、
最近見かけないな。
心配だから、お宅を訪ねて
みようかしら。



最近、1人でウォーキングを始めた。
おっくうなときもあるから、
歩く仲間が欲しいな・・・
地域ケアプラザに相談してみよう。



定年を機に少し時間ができたので、
自分の住むまちの歴史を調べてみた。
一緒に学んだり
語り合える人がいたらいいな。



近所のお祭りに毎年行くけれど、
今年は祖父に声をかけられて、
お神輿や出店のお勘定を手伝った。
遊ぶだけよりも楽しいかも・・・



ごみ置き場で、外国人の方に
分別のことを聞かれた。
答えたら感謝され、
声をかけあうようになった。



学校の防災備蓄の缶詰、
期限までに食べきれないかもしれない。
必要な人に寄付(※)できないかな。
※フードドライブ

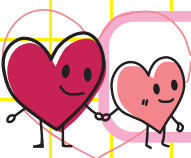


学校でSDGsを勉強し、
「ちょこっとボランティア」を知った。
何か自分にできること、
あるのかな。



町内会館の赤ちゃん会に初めて参加。
楽しかったのでSNSに投稿したら、
ママ友が「いいね」してくれた！
次回は誘ってみようかな。

自宅の防災備蓄の缶詰、
期限までに食べきれないかもしれない。
必要な人に寄付(※)できないかな。
※フードドライブ



あなたにとっての“はじめの一步”は見つかりましたか？
さあ、一步踏み出してみましょ！



令和4年3月 編集・発行

鶴見区役所福祉保健課事業企画担当

〒230-0051横浜市鶴見区鶴見中央 3-20-1

TEL 045(510)1826 FAX 045(510)1792

社会福祉法人横浜市鶴見区社会福祉協議会

〒230-0051横浜市鶴見区鶴見中央 4-37-37

リオベルデ鶴声 2階

TEL 045(504)5619 FAX 045(504)5616